

現代生活学部 人間栄養学科  
栄養教諭一種免許状

授業科目名	生活と情報処理		サブタイトル		授業番号	NC101
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。						
【到達目標】 本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集, 加工, 発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：コンピュータの歴史 第2回：パソコン操作についての基礎知識 第3回：ネット利用についての基礎知識（1） 第4回：ネット利用についての基礎知識（2） 第5回：ネット利用についての基礎知識（3） 第6回：ワード・エクセルの基礎知識 第7回：パワーポイントの基礎知識（1） 第8回：パワーポイントの基礎知識（2） 第9回：パワーポイントの基礎知識（3） 第10回：デジタルコンテンツの作成の仕方（1） 第11回：デジタルコンテンツの作成の仕方（2） 第12回：デジタルコンテンツの作成の仕方（3） 第13回：課題作成（1） 第14回：課題作成2 第15回：情報の倫理とセキュリティ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%			
	レポート		80%			
	小テスト			各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験			最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。						
【授業外学修】 1 復習をすること。 2 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	英語I		サブタイトル	(栄養英語)		授業番号	ND101	
担当教員名	松浦 加寿子							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	必修			授業形態	演習			
【授業の概要】								
本演習では、英語を通して食に関する知識を深めるとともに、既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。								
【到達目標】								
読解を通して、食に関する語彙や英語表現について学び、基礎的な英語力の向上を目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：Unit 1 The ABCMs of Eating 第2回：Unit 2 Determining Whether Your Diet is Adequate 第3回：Unit 3 Keeping Caloric Intake in Check 第4回：Unit 4 Spicing up Your Life with Variety 第5回：Unit 5 What's a Body Made of? 第6回：Unit 6 Knowing Your Nutrients 第7回：Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats 第8回：Unit 8 Aiding in Body Function: Vitamins and Minerals 第9回：Unit 9 Water: The Most Important Nutrient 第10回：Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No 第11回：Unit 11 Digestion: One Step at a Time 第12回：Unit 12 Eating Disorders 第13回：Unit 13 Food Allergies 第14回：Unit 14 Controlling Food Contamination 第15回：Unit 15 The Father of All Vitamins: Casimir Funk / 科目授業全体のまとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。				
	レポート		20%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。				
	小テスト		50%	各回の内容において英文の理解度を評価する。				
	定期試験							
	その他		10%	ノートの提出により、課題を評価する。				
自由記載								
【受講の心得】								
・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。								
【授業外学修】								
1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳しておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し、知識として定着させること。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者		出版社	定価	ISBN
	やさしい栄養英語			田中芳文・中里菜穂子・松浦加寿子		講談社	1,800円 +税	978-4-06-513414-6
自由記載								
参考書	自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。						
【担当教員の実務経験の有無】								
無								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	NE101
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。						
【到達目標】 人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える 第6回：「睡眠」とスポーツ 第7回：身体形成と機能の発達 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 ・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。						
【授業外学修】 ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	NE102
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実技	
【授業の概要】 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
【到達目標】 健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している			
	レポート					
	小テスト	40%	各競技ごとに試合を実施する			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
【授業外学修】 ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	教職概論	サブタイトル		授業番号	NV101
担当教員名	森寺 勝之				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教職概論では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を学習する。

【到達目標】

教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解するとともに、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、実践する態度を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：子どもの生活と学校
- 第2回：学習指導
- 第3回：生徒指導・進路指導
- 第4回：教育相談
- 第5回：学級経営
- 第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか
- 第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること
- 第8回：教員養成の制度
- 第9回：教職課程の仕組みと内容
- 第10回：教員の採用
- 第11回：教員の研修
- 第12回：教員の地位と身分
- 第13回：教員の待遇と勤務条件
- 第14回：学校制度
- 第15回：学校管理・運営体制

評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度、発表の有無、ノート整理、予習復習の状況によって評価する。
	レポート		30%	課題に対して意欲的に取り組んでいるか、自分の考えでまとめられているか等で評価する
	小テスト			
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。
	その他			
	自由記載			

【受講の心得】

教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点をあらかじめ調べたりしておく。
2. 復習として、課題のレポートやノート整理をする。
3. 発展的学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教職入門 教師への道		藤本典裕	図書文化	1800	978-4-8100-9720-7
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				

【担当教員の実務経験の有無】

有
【担当教員の実務経験】 小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無
【実務経験をいかした教育内容】 教職に関する基礎的な事柄について，教員や学校長，県教育委員会専門的教育職員としての実践をもとに，より具体的な講義を行う。

授業科目名	教育原理	サブタイトル		授業番号	NV102
担当教員名	森寺 勝之				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

講義形式で、現代社会における教育課題を踏まえ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。

そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学修する。

また、教育の基本的な事項について学修していく。特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。

【到達目標】

教育の基本的な事項について学び、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について理解できるようになる。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。

教育の目的や教育の歴史、教職という仕事、日本の教育問題等について問題を見出し、解決方法を探究し、次の問題の発見・解決につなげることができるようになることを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：子どもの発達と教育の目的
- 第2回：教育とは何か
- 第3回：教育の歴史(1) 学校の歴史
- 第4回：教育の歴史(2) 海外の教育
- 第5回：教育の歴史(3) 海外の教育史(近代の教育思想)
- 第6回：教育の歴史(4) 海外の教育史(近代教育学の成立)
- 第7回：教育の歴史(5) 日本の教育史
- 第8回：「教える」という仕事(1) 教育課程と授業の計画
- 第9回：「教える」という仕事(2) 教育課程と授業実践
- 第10回：「教える」という仕事(3) 教育評価
- 第11回：「教える」という仕事(4) 学校・学級経営
- 第12回：学び続ける教員となるために
- 第13回：社会教育と生涯学習
- 第14回：地域社会と学校
- 第15回：現代日本の教育問題

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、ノート整理、予習復習の状況等によって評価する。
	レポート	30%	課題に対して、意欲的に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているか等で評価する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい、言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。

テキストを事前に読み、疑問点をあらかじめ調べたりすること。また、学修したことをノートに整理したりすること。

【授業外学修】

週当たり4時間以上、テキストを読むこと。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教育原理	島田和幸・高宮正貴	ミネルヴァ書房	2200	978-4-623-08176-9
	自由記載				

参考書	自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 学校や教育行政，小学校長としての経験をもとに，教育の歴史や制度等の基本的な事項について，具体例をもとに，できるだけわかりやすい講座としたい。		

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	NV103	
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。 この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。							
【到達目標】 実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：教育心理学とは 第2回：乳幼児期の発達 第3回：児童期・青年期の発達 第4回：学習と知識獲得 第5回：認知的情報処理 第6回：動機づけと学習 第7回：認知発達と学習支援 第8回：中間のまとめ 第9回：学級集団と学習支援 第10回：個人差と学習支援 第11回：教育評価 第12回：障害児の理解と配慮 第13回：障害児への支援 第14回：教育を取り巻く諸問題 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 ／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学			田爪宏二（編著）	ミネルヴァ 書房	2200円	978-4-623- 08177-6
	自由記載						
参考書	自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】 無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無							

科目名	日本国憲法		授業番号	NA206	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)			
教員	俣野 英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。具体的にはまず、学生に身近な憲法問題を取り上げ、それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に、各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に、次回の講義で、各グループのグループワークの結果を紹介し、全体討議の後講評を行う。</p> <p>なお、新型コロナウイルスのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には、MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク、講義における質疑を行う。</p>								
到達目標	<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うことから、職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得を必要とするので、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;態度&gt;の修得に貢献する。また、体系的な思考方法を学び、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	<p>ガイダンス、憲法とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学修の目標、評価方法を説明する。</li> <li>2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。</li> </ol>								
第2回	<p>グループワーク1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループワークの仕方を説明する。</li> <li>2 各グループに分かれて、課題選択、課題分析、リサーチを行う。</li> </ol>								
第3回	<p>グループワーク2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループワークのまとめ方を説明する。</li> <li>2 各グループに分かれて、情報整理、報告書の作成を行う。</li> </ol>								
第4回	<p>国家機関としての天皇制</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。</li> <li>2 国民主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。</li> </ol>								
第5回	<p>憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 1――</p> <p>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。</p>								
第6回	<p>憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 2――</p> <p>人権を守るための組織――統治機構 1――</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。</li> <li>2 政治と国民、国会議員について学修する。</li> </ol>								
第7回	<p>人権を守るための組織――統治機構 2――</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 選挙、選挙制度、政党、国会について学修する。</li> <li>2 内閣について学修する。</li> </ol>								
第8回	<p>人権を守るための組織――統治機構 3――</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地方自治について学修する。</li> <li>2 裁判所について学修する。</li> </ol>								
第9回	<p>良心をもつ自由、貫く権利</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 良心の意義について学修する。</li> <li>2 教師の良心を貫く権利について考える。</li> </ol>								
第10回	<p>表現の自由</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。</li> <li>2 マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。</li> </ol>								
第11回	<p>営業の自由と消費者の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学修する。</li> <li>2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。</li> </ol>								
第12回	<p>働く人の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 勤労の権利や労働基本権について学修する。</li> <li>2 女性や非正規労働者の問題について考える。</li> </ol>								
第13回	<p>困った時の権利、差別されている人たちの配慮</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。</li> <li>2 積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。</li> </ol>								
第14回	<p>家庭と女性の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 憲法における家庭と女性の権利について学修する。</li> <li>2 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。</li> </ol>								
第15回	<p>子どもの権利と学校における生徒の人権</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学修する。</li> <li>2 いじめ問題を憲法から考える。</li> </ol>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解、及び、意欲・関心を持ち、講義に積極的に参加する態度を評価する。						
	レポート	30	1回実施。基本原理、基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付けて返却する。						
	小テスト								
	定期試験	40	記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので、各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。</li> <li>2 全体を通じて1回、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。</li> <li>3 中間に1回中間レポートの課題（第7回頃レポート作成要項発表）がある。</li> </ol>
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。</li> <li>2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、ノートに整理して、期末テストに備える。また、発展的学習として選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループワークに参加し、協力して必要事項を調査するとともに、課題に関してそれぞれの意見を交換し、グループ報告書にまとめる共同作業を行う。</li> <li>3 中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し、疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し、自分の意見を練り、レポートにまとめる。</li> </ol> <p>事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。</p>

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから－身近な問題から憲法の役割を考える－	中富公一編著	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400+税
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	978-4-535-52038-7	2300+税
参考書：自由記載	右崎正博・浦田一郎編『基本判例1 憲法【第4版】』（法学書院，2014年）			
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	県教育委員会，県（人権・同和政策課）			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた教育 内容	いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

科目名	教育課程総論			授業番号	NV204	サブタイトル			
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令や学習指導要領総則等について学修する。								
到達目標	<p>・教育課程関係の法令や学習指導要領総則について学び、求められる教育課程について理解する。          なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p> <p>・教育課程の意義・編成の方法について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができるようになることを目的とする。          なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育課程の意義と定義，教育課程の法的根拠								
第2回	学習指導要領 前文								
第3回	学習指導要領の変遷1								
第4回	学習指導要領の変遷2								
第5回	学習指導要領の総則1								
第6回	カリキュラム・マネジメントの意義と定義								
第7回	学習指導要領の総則2								
第8回	学校経営のサイクルとカリキュラム・マネジメント カリキュラム・マネジメントの各プロセス								
第9回	学習指導要領の総則3								
第10回	カリキュラム・マネジメントの評価，活性化の方策								
第11回	学習指導要領の解説総則編1								
第12回	アクティブ・ラーニングの定義と導入の教育行政的経緯 アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの連動								
第13回	学習指導要領の解説総則編2								
第14回	「社会に開かれた教育課程」の理念とその背景 「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント								
第15回	社会に開かれた教育課程・食育実践について								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況等によって評価する。						
	レポート	30	課題に対して，意欲的に取り組んでいるか，自分の考えでまとめられているか等で評価する。						
	小テスト								
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	これからの時代に求められる新たな教育環境を創るために、教育課程からカリキュラム・マネジメントまで学びます。 教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。 配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートやノートを整理する。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03460-7	201
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領解説 総則編	文部科学省	東洋館出版社	978-4-491-03461-4	155
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	小中学校教員 岡山県教育委員会専門的教育職員 小学校教頭・校長			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた教育 内容	学校教育における教育課程の編成やカリキュラムマネジメントについて、教員や学校長、専門的教育職員としての実践をもとにした講義を行うこなう			

科目名	教育方法学	授業番号	NV205	サブタイトル					
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。</li> <li>教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。</li> <li>情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(技能)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標, 内容, 方法, 組織								
第2回	教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法								
第3回	教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定								
第4回	教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発								
第5回	教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為								
第6回	情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり								
第7回	情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際								
第8回	教育の方法 (6) すぐれた実践事例の分析 (1)								
第9回	教育の方法 (7) すぐれた実践事例の分析 (2)								
第10回	教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究								
第11回	教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成								
第12回	教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討 (1)								
第13回	教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討 (2)								
第14回	教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成								
第15回	まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	40	本科目で学習したことを理解し, 論理的に叙述すること						
	小テスト	40	各回の授業に提示される課題について, 自分の考えを具体的に述べていること。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習として、配付している資料をあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2 復習として、課題のレポートを書く。</li> <li>3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。</li> </ol> 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	授業の中でプリントを配布する。			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜、授業の中で紹介する。
----------	---------------

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の 実務経験の有無	無
------------------	---

担当教員の 実務経験	
---------------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

科目名	生徒指導の理論と方法 全8回		授業番号	NV206	サブタイトル				
教員	藤井 裕士								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	選択	必修・選択	講義
授業概要	生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、生徒指導上の諸問題への対応について講義し、演習を通して理解を深め問題解決能力を高める。								
到達目標	一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し、全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、問題行動等への対応について理解することができる。また、個別の課題に対する問題解決能力を高める。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>第1回：生徒指導の基礎（1） 生徒指導の意義や目的等について理解を深める。</p> <p>第2回：生徒指導の基礎（2） 集団指導と個別指導、カウンセリング等について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。</p> <p>第3回：生徒指導と教育課程 教育課程上の生徒指導の位置づけや各教科等との関連について理解する。</p> <p>第4回：チーム学校による生徒指導体制 生徒指導体制や法制度等について理解する。</p> <p>第5回：個別の課題に対する生徒指導（1） いじめ、暴力行為、少年非行について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。</p> <p>第6回：個別の課題に対する生徒指導（2） 児童虐待、自殺、中途退学、不登校について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。</p> <p>第7回：個別の課題に対する生徒指導（3） インターネットに関わる問題、性に関する課題、多様な背景を持つ児童生徒への対応について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。</p> <p>第8回：生徒指導上の問題への対応 想定した生徒指導上の問題への対応を検討し、問題解決能力を高める。</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	15	各回の主要なポイントの理解を、授業後に行う小テストにより評価する。						
	定期試験	55	最終的な理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> <li>事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。</li> <li>発表や討議に積極的に取り組むこと。</li> <li>配付する資料を整理しておくこと。</li> </ol>								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>復習として、テキストを読み授業内容の理解を深める。</li> <li>発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円（税込み）				
使用テキスト：自由記載	同名の書籍が存在するが、令和4年12月に改訂された最新のものを準備すること。 文部科学省のホームページでは、テキストと同じ内容のPDFデータが無料で入手可能である。PDFの印刷、或いはタブレット端末やPC持ち込みによるデータの閲覧も可とする。 ※書籍は、4月の時点では販売されていない可能性がある。発売されていない場合には、文部科学省のホームページからPDFデータを取得し、準備すること。								
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。								
その他									
備考	令和5年度改訂								
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	有								
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭								

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	生徒指導に関する理解を深めることができるように、学校現場における事例を紹介する。

科目名	教育相談	授業番号	NV207	サブタイトル					
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育相談とは								
第2回	カウンセリングの理論								
第3回	カウンセリングの技法								
第4回	いじめ・不登校への対応								
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応								
第6回	虐待・いのちの教育への対応								
第7回	非行・学校不応への対応								
第8回	中間のまとめ								
第9回	発達障害への対応								
第10回	心の病への対応								
第11回	校内・他機関との連携								
第12回	アセスメント：観察・面接								
第13回	アセスメント：心理検査								
第14回	過程の理解と保護者への支援								
第15回	期末のまとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	100	理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編 著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-08178-3	2200円
使用テキ スト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実 務経験の有無	無			
担当教員の実 務経験				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容				

科目名	特別支援教育概論			授業番号	NV208	サブタイトル			
教員	中 典子、池谷 航介								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。						池谷航介		
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。						池谷航介		
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、発達障害者総合支援法の内容を理解する。						池谷航介		
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。						池谷航介		
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。						池谷航介		
第6回	発達障害をはじめとする障害のある子どもへの配慮 合理的配慮について理解する。						中 典子		
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。						池谷航介		
第8回	「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。						池谷航介		
第9回	学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。						中 典子		
第10回	学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。						中 典子		
第11回	多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。						中 典子		
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。						中 典子		
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困について理解する。						中 典子		
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 学習環境を整えるための支援について理解する。						中 典子		
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためどのような対応が必要が理解する。						中 典子		
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート	50	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	50	毎回提示する課題に対し具体的に述べていること。課題に対してはコメントを記入して返却する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までに事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに、事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭，特別支援学校教諭(池谷航介)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，様々な障がい有する児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介)

科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法			授業番号	NV209	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校・中学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、小学校・中学校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。								
到達目標	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 小学校・中学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	道徳教育の意義と目標・内容								
第2回	道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題								
第3回	道徳性の発達								
第4回	総合的な学習の時間の意義と目標・内容								
第5回	総合的な学習の時間の指導計画								
第6回	総合的な学習の時間の学習指導案								
第7回	総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連								
第8回	総合的な学習の時間の指導の手立て								
第9回	総合的な学習の時間の評価								
第10回	特別活動の意義と目標								
第11回	特別活動と各教科等との関連								
第12回	特別活動の内容								
第13回	特別活動の指導と評価								
第14回	特別活動の学習指導案								
第15回	特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	10	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解度を評価する。						
	定期試験	60	最終的な知識や理解の度合いを評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省			
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省			
小学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省			
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『新しい特別活動指導論』、高旗正人・倉田侃司 編著、ミネルヴァ書房、2004年			
その他	毎回、授業ノートを提出するので、ルーズリーフのノートを用意すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）			
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の 有無	無			
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者				
実務経験を いかけた 教育内容	学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

科目名	学校栄養教育指導法 I		授業番号	NW301	サブタイトル				
教員	岡崎 恵子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で、法制度や栄養教諭の職務内容について講義する。児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等を作成し、模擬授業を実践する。学校・家庭・地域との連携や協働・調整の具体を説明する。栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭制度の創設の経緯を把握し、栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解することができるようにする。</li> <li>・児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導について理解し、考えることができるようにする。</li> <li>・学校給食を教材とし、給食時の食に関する指導の指導案等を作成することができるようにする。</li> <li>・学校給食の管理・運営ができる能力を養うことができるようにする。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業形態は講義、演習になる								
回	概要				担当				
第1回	栄養教諭の制度と役割 学校栄養職員の歴史、栄養教諭創設の経緯、栄養教諭の職務内容を正しく理解し、果たすべき役割をとらえる。								
第2回	学校組織と栄養教諭 学校組織と栄養教諭の位置づけについて理解し、学校組織の中で栄養教諭が具体的にどのような働きをしていくかについて理解する。								
第3回	学校給食と日本人の食生活 学校給食は地場産物を活用し、郷土料理や行事食を提供するなど、地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めることで教育的効果をもつ教材としての役割を担っていることを理解する。また、学校給食の歴史を理解する。								
第4回	子どもの発達と食生活 児童生徒の体位、体力、健康状態、栄養摂取状況、食生活の実態を把握し、成人期までの成長を見通した食育を実施できるように、学校における給食の位置づけと食育の重要性を理解する。								
第5回	学習指導要領の意義と食育の在り方 学校において食育を推進するにあたっては、学修指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で、教育課程に位置づけ、組織的・計画的な取り組みを行う大切さを理解する。								
第6回	食に関する指導の全体計画 食に関する指導の全体計画の必要性や考え方、そして、計画に盛り込むべき内容の作成の手順について理解する。								
第7回	食に関する指導の展開 食に関する指導の全体計画を踏まえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成すればよいか、教科や特別活動などと関連付けした指導をどのように行えばよいかについて理解を深める。								
第8回	食に関する指導と小学生用食育教材 文部科学省「食育教材」を教材に、発達段階の合わせた食に関する指導の具体的な内容を把握し、食に関する指導について理解する。								
第9回	給食の時間における食に関する指導 学校給食を教材として、給食の時間における食に関する指導の特徴や進め方、指導の留意点について理解する。								
第10回	給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践 給食の時間の「食に関する指導」の指導案、板書計画、細案の作成を行う。								
第11回	給食の時間における食に関する指導の実践、ディスカッション アクティブラーニングを取り入れ、給食時間の「食に関する指導」を実践する。								
第12回	教科等における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」、生活科、総合的な学習の時間、体育科・保健体育科、道徳、特別活動、総合的な学習時間） 食に関する指導に関連付けられている教科等について学習内容や指導の考えかたを知り、理解を深める。								
第13回	個別栄養相談指導の意義と方法 肥満、痩せ、食物アレルギー、生活習慣の予防、さらに食品や料理の選択、食べ方などが著しく偏っている児童生徒への個別栄養相談指導について理解し考える。								
第14回	家庭・地域との連携、給食だよりの作成・説明 学校と家庭・地域社会との連携を図ることは、児童生徒が地域の良さを理解するとともに、食事の重油性やsh九時を大切にすることを育てる上で効果があることを理解する。								
第15回	学校給食の管理・運営、まとめ、ディスカッション 学校給食の管理・運営、特に衛生管理についてより理解を深める。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他	10	給食時の指導案、給食だより等、提出物により評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	各回が独立して、15回で1つの流れとなつてつながる授業であることから、毎回しっかり学修する態度で事前・事後学修に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。
授業外学修	・授業予定一覧に沿って、使用テキストを利用した予習・復習をすること。 ・指導案や資料等の作成、教材の準備をすること。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
四訂 栄養教諭論-理論と実際-	金田雅代 編著	建帛社	978-4-7679-2116-7	2, 800+税
食に関する指導の手引 第二次改訂版	文部科学省	健学社	978-4-7797-0496-3	1, 300+税
小学校教科書「私たちの家庭科5・6」		開隆堂		
学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課	株式会社 学建書院	978-4-7624-0884-7	1, 800+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
----	----	-----	------	----

参考書：自由記載 「食育教材」文部科学省

その他 適宜紹介する。

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無 有

担当教員の職務経験 管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校・学校給食センター・教育行政・高齢者福祉）35年

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 有

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかけた教育内容 教育現場での実践的な経験を活かし、学生が栄養教諭に必要な知識をもち理解を深め、思考し問題解決能力を養い必要な技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範囲かつ詳細に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範囲に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を十分に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容をあまり理解していない。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解していない。
知識・理解	2. 児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範囲かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範囲に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を基礎的事項をあまり理解していない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解していない。
知識・理解	3. 学校給食の管理についての基礎知識を理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範囲かつ詳細に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範囲に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を十分に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識をあまり理解することができない。	学校給食の管理についての基礎知識を理解することができない。
思考・問題解決能力	1. 児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範囲かつ詳細に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範囲に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導をあまり工夫することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができない。
思考・問題解決能力	2. 学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範囲かつ詳細に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範囲に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができない。	学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができない。
技能	1. 学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案の作成や模擬授業をすることができない。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について指導案の作成や模擬授業をすることができない。

科目名	学校栄養教育指導法Ⅱ		授業番号	NW302	サブタイトル					
教員	栄養B、森寺 勝之									
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について、実践演習を行う。栄養教諭としての効果的な食に関する指導の学習指導案の作成、模擬授業、ロールプレイング、アクティブラーニングを取り入れ、実践的指導力のスキルの育成を行う。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を理解することができるようにする。</li> <li>食に関する指導の指導案の立案、模擬授業等を行うことができるようにする。</li> <li>栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	<p>第1回 学校栄養教育指導法Iを踏まえて（食に関する指導、給食管理）  ○特別活動、給食時間、学級活動における食に関する指導について、発達段階に合わせた題材を知り、自ら考え理解を深める。</p> <p>第2回 学校給食の衛生管理基準  ○食に関する指導の題材となる学校給食の衛生管理(学校給食衛生管理基準、食物アレルギー、危機管理)について、具体的な例を知ることで、より一層理解を深める。</p> <p>第3回～4回 実践演習（1） 1単位時間の学習指導案の作成の基本  ○学級活動 1単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り、理解を深め作成する。</p> <p>第5回 教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭  ○現場で働く栄養教諭について理解を深める。(特別講師)</p> <p>第6～8回 実践演習（2） 食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討  ○学級活動での食に関する指導案等(指導案、板書計画、ワークシート、事前事後の調査)を作成し、模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。</p> <p>第9～14回 実践演習（3） 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討  ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善することで、よりよい指導案に仕上げる。</p> <p>第15回 学校栄養教育実習の説明、全体のまとめ  ○学校栄養教育実習に向けて、事前訪問・学校栄養教育実習書等について理解を深める。</p>									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	70	演習内容、課題への取組を評価する。意欲的な受講態度、ディスカッションへの参加状況によって評価する。							
	レポート	10	食に関する指導についての理解度を評価する。							
	小テスト	20	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。							
	定期試験									
	その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	グループでの活動が多いので、この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際、各自で事前・事後学習に励むこと。
授業外学修	・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して、予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。 ・小中学校の公開時を捉え、授業を参観する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	担当教員が提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	○管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校、学校給食センター、教育行政、福祉）35年      ○小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長（39年）
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	担当教員の教育現場での経験を活かし、学生自ら栄養教諭の職務である学校給食の管理・食に関する指導について知識・理解を深め、子どもの発達段階を考え学級活動・給食時間で行う食に関する指導を進めるための実践的スキル・技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 児童生徒の発達段階に合わせた1単位時間の食に関する指導の内容を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた1単位時間の食に関する指導の内容を広範囲かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた2単位時間の食に関する指導の内容を広範囲に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた3単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた4単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた5単位時間の食に関する指導の内容を理解することができない。
知識・理解	2. 学校給食衛生管理基準について理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範囲かつ詳細に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解することができない。	学校給食衛生管理基準について理解することができない。
思考・問題解決能力	1. 学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範囲かつ詳細に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範囲に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができない。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができない。
思考・問題解決能力	2. 1単位時間の食に関する指導を進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をよりよく適切に進めることができる。	1単位時間の食に関する指導を適切に進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をおおむね進めることができる。	4単位時間の食に関する指導をあまり進めることができない。	5単位時間の食に関する指導を進めることができない。
思考・問題解決能力	3. 意欲的にディスカッションすることができる。	より一層、意欲的にディスカッションすることができる。	より意欲的にディスカッションすることができる。	おおむね意欲的にディスカッションすることができる。	あまり意欲的にディスカッションすることができない。	意欲的にディスカッションすることができない。
技能	1. 栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範囲かつ詳細身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範囲に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができない。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができない。

科目名	学校栄養教育実習研究			授業番号	NV410	サブタイトル			
教員	藤原 三保子、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校・中学校で行う学校栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための演習を中心とした科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに、教材研究・模擬授業などの授業を通して教育実習に向けて実習課題の検討、準備を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の教育現場に入るにあたって心構えができるようになる。</li> <li>・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成、授業の進め方等の技能を身に付け、準備することができるようになる。</li> <li>・より良い教育実習になるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。</li> <li>・学校栄養教育実習に向けて、ふさわしい態度を養うことができるようになる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>第1回 学校栄養教育実習の意義 ○プロとしての栄養教諭について、より理解を深める。</p> <p>第2回 学校栄養教育実習の事前指導 ○教育実習の概要・実習課題の検討・実習日誌の書き方・教育実習校との打合せ・連絡 ○教育実習に向けて、前向きに取り組む心構えや具体的な準備をする。</p> <p>第3回～4回 個別的な相談指導、クラス経営、学校経営 ○個人差への配慮・食物アレルギー、偏食、肥満・痩身傾向 等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質 ○栄養教諭として、子ども理解をするための基本的なことを再確認する。</p> <p>第5～9回 学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション 第10～15回 実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。</p>								
授業計画 備考2	授業形態は演習がメインになるが、教育実習に向けて講義もある。								
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	10	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。						
	定期試験								
	その他	70	指導案、課題等の提出物の内容を評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭を目指す者としての目線に立ち、それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。</li> <li>・教材研究においては、専門的な様々な知識を活かして臨むこと。</li> <li>・学校教育の様々な課題に関心をもち、栄養教諭の社会的使命について考えること。</li> </ul>
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する時事問題に関心をもち、新聞やニュース等を把握しておくこと。</li> <li>・小中学校の教育現場を想定して、授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。</li> <li>・以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</li> </ul>

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	「学校栄養教育実習書」、 学校栄養教育指導法I, IIで使用したテキスト			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	担当教員が提示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校）15年</li> <li>○小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長（39年）</li> </ul>			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習に向けて心構え・態度を身に付けることができるようにする。また、教育実習での食に関する指導の実践に向けて指導案・媒体等を準備し授業ができる技能を修得させる。			

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を広範囲かつ詳細に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解していない。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解していない。
思考・問題解決能力	1. より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範囲かつ詳細に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範囲に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができない。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができない。
技能	1. 食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範囲かつ適切に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範囲に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備できない。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備できない。
態度	1. 教育実習に向けて心構えができるようになる。	教育実習に向けて心構えがより一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが十分できるようになる。	教育実習に向けて心構えがあまりできない。	教育実習に向けて心構えができない。
態度	2. 教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度をより一層身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度をいっそう身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を十分に身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を十分に身に付けることができない。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	学校栄養教育実習			授業番号	NV411	サブタイトル			
教員	藤原 三保子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	学校栄養教育実習は、大学等で学んだ理論を実践的な検証を通して、栄養教諭の職務の実際を知り理解を深める。教育実習校の現場で生徒指導、教育内容、指導方法を体験・研究する。教育実習中は、実習校の指導のもと食に関する指導について、特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に、実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則、実習校は出身校とし、1週間（5授業日）以上の教育実習に取り組む。学校栄養教育実習後は、報告会を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。</li> <li>・栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。</li> <li>・子ども理解を深めることができるようになる。</li> <li>・学習の基盤となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。</li> <li>・自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長、教頭、教務主任による実習受入校での指導(学校経営、校務分掌の理解、服務)</li> <li>2 給食主任、学級担任、栄養教諭(学校栄養職員)による実習受入校での指導</li> <li>3 養護教諭による実習受け入れ校での指導</li> <li>4 校内における連携、調整(校内研修会、職員会議等)の参観、補助</li> <li>5 配属学級での授業観察を通して、(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める、(2)指導案・授業での実際、(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。</li> <li>6 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学級活動及び給食時間における指導の参観、補助</li> <li>(2) 食に関する指導の実践(学級活動・給食時間など)</li> <li>(3) 児童生徒集会、委員会活動等における指導の参観、補助</li> </ol> </li> <li>7 家庭・地域社会との連携・調整の実際</li> <li>8 学校栄養教育実習後に報告会、ディスカッション</li> </ol>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	学校栄養教育実習書 他						
	レポート	70	教育実習校での評価						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1 教育実習生は、教育者としての責任の重大さを自覚し、使命感・責任感と情熱をもって実習に臨むこと。 2 意欲的、積極的な実習に取り組む。 教育実習は、いわば教育上のインターンシップともいふべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢をもって取り組むこと。 3 研究的な実習に徹し、事前・事後学習に励む。 4 健康と安全に留意し、実りの多い実習となるように努力する。 5 本実習を受ける前には、必ず事前に実習受入校を訪問し、指導教諭等と打ち合わせしておくこと。 6 教育実習生としての当然のエチケットとして、実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。
授業外学修	・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。 ・実習校の指導に従って、教材研究等を行うこと。 ・指導案の作成や教材研究にあたっては、年間の授業計画も視野に入れ、他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておくこと。 ・実習校がある区市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。 以上の内容を、週当たり5時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育実習書，学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料等を用意する
-------------	----------------------------------------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
----------	--

その他	特になし
-----	------

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校）15年
-----------	----------------------------------

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	○担当教員の実務経験を活かし、学生が食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応等について実践できる技能を修得させる。 ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため、教育実習指導者の指導の下、学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範かつ詳細に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができない。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができない。
知識・理解	2. 子ども理解を深めることができるようになる。	子ども理解を広範かつ詳細に深めることができるようになる。	子ども理解を広範に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができない。	子ども理解を深めることができない。
知識・理解	3. 栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範かつ詳細に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深めることができない。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	1. 自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範かつ詳細に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができない。	自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができない。
技能	1. 学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を適切にスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をおおむね進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をあまり進めることができない。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができない。
技能	2. 実践的指導ができるようになる。	実践的指導が適切にスムーズにできるようになる。	実践的指導がスムーズにできるようになる。	実践的指導がおおむねできるようになる。	実践的指導があまりできない。	実践的指導ができない。
態度	1. 栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をよりいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をおおむね身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をあまり身に付けることができない。	栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	教職実践演習(栄養教諭)			授業番号	NV412	サブタイトル	(栄養教諭)		
教員	藤原 三保子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	<p>栄養教諭として求められる資質・能力(使命感や責任感・教育的愛情, 社会性や対人関係能力, 児童生徒理解, 食に関する指導力)が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し, 課題解決のための演習・ディスカッション等を行い深めていく。また, 栄養教諭の専門性に関することを再確認する。</p>								
到達目標	<p>・大学での講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合し, 教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることができるようになる。</p> <p>・教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ, 社会人としての優れた識見や対人能力が培われ, 豊かな人間性と思いやりを身に付けようとするようになる。</p> <p>・栄養教諭の専門性に関すること(給食管理・食に関する指導等)について考え, 理解を深めることができるようになる。</p> <p>・学習指導の基本的事項(知識・技能など), 板書, 話し方, 表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。</p> <p>なお, 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち, &lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する</p>								
授業計画備考	演習を中心とするが, 講義もある。								
回	概要						担当		
第1回	教職実践演習の目的 「教職実践演習」の目的を知り, 栄養教諭に求められる資質・能力について履修カルテを使用し自己評価を行う。								
第2回	学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し, ディスカッションする。								
第3回	学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し, ディスカッションする。								
第4回	栄養教諭に求められる資質能力 ディスカッション グループ討論等で栄養教諭に必要な最小限の資質・能力に関する課題について話し合うことで, 自己の課題の解決方法等を明らかにする。								
第5回	学校における食育の推進について 学校における食育の推進のためには, 具体的に何を必要なのか考える。								
第6回	「学校栄養教育の現状とこれから」(特別講師) 外部講師の講話「栄養教諭の現状とこれから」から, より具体的に自己の課題を考える。								
第7回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに, 児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案, ワークシート, 板書計画, 細案を作成する。								
第8回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに, 児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案, ワークシート, 板書計画, 細案を作成する。								
第9回	模擬授業 ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業, ディスカッションをすることで, 教員としての表現力や授業力, 児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり, 効果的な指導法を確認する。								
第10回	模擬授業 ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業, ディスカッションをすることで, 教員としての表現力や授業力, 児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり, 効果的な指導法を確認する。								
第11回	指導料等の作成(授業, 掲示物, 家庭や地域への配布 など) 家庭や地域への配付物(給食だより)・掲示物等を作成することで, 具体的に連携の意義を再確認する。								
第12回	学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方 ディスカッション 栄養教諭は, 専門性を活かして学校内外を通じ, 食に関する教育のコーディネータとしての役割があることを再確認する。								
第13回	社会性や対人関係能力について ディスカッション 食に関する指導の全体計画, 食物アレルギーを有する児童生徒が安全に楽しく学校生活を送るために必要なことについて討論する。								
第14回	栄養教諭の専門性, 学校給食における危機管理 学校給食実施基準を理解し, 児童生徒の成長及び実態を把握した栄養管理ができることを再確認する。 学校給食衛生管理基準の内容を理解し, 衛生管理の基本を身に付けていることを再確認する。								
第15回	総合的まとめ 大学で学んだこと・教育実習で学んだことを活かして栄養教諭の職務, 資質・能力について再確認する。								
授業計画備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度, 討議への参加, 予習・復習の状況によって評価する。						
	レポート	40	教育実習から見えてきた課題と解決策について, 自分の考えを具体的に表現することができるかを評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	40	学習指導案, 模擬授業, 提出物 の内容を評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	実習校で学んだ学校・学級経営の中での子童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い、各自が将来に栄養教諭となるべく、お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分にやり取りすること。
授業外学修	大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて、実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Iでを使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				

備考	令和5年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：(公立小学校・公立中学校)15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験を含めた教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習を通じて得られた知識技能を融合し栄養教諭の専門性や果たすべき職務について理解を深め、栄養教諭に必要な技能を身に付けることができるようにする。また、教員免許保持者としての資質をより高め豊かな人間性と思いやりを身に付けようとする態度をもたせる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解が広範囲かつ詳細に深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解が広範囲に深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解が十分に深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解が十分に深めることができない。	栄養教諭の専門性に関する理解が深めることができない。
思考・問題解決能力	1. 大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習での知識・技能を融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広範囲かつ詳細に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広範囲に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができない。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合することができない。
技能	1. 学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広範囲かつ詳細に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広範囲に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができない。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができない。
態度	1. 教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようとするができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができない。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができない。
態度	2. 教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようとする。	教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようとする。	教員免許保有者としての望ましい資質を一層、高めようとする。	教員免許保有者としての望ましい資質をおおむね高めようとする。	教員免許保有者としての望ましい資質をあまり高めようとする努力しない。	教員免許保有者としての望ましい資質を高めようとする努力しない。

子ども学部 子ども学科

幼稚園教諭一種免許状

小学校教諭一種免許状

共通科目

授業科目名	生活と情報処理		サブタイトル		授業番号	CC201
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。						
【到達目標】 本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：コンピュータの歴史 第2回：パソコン操作についての基礎知識 第3回：ネット利用についての基礎知識（1） 第4回：ネット利用についての基礎知識（2） 第5回：ネット利用についての基礎知識（3） 第6回：ワード・エクセルの基礎知識 第7回：パワーポイントの基礎知識（1） 第8回：パワーポイントの基礎知識（2） 第9回：パワーポイントの基礎知識（3） 第10回：デジタルコンテンツの作成の仕方（1） 第11回：デジタルコンテンツの作成の仕方（2） 第12回：デジタルコンテンツの作成の仕方（3） 第13回：課題作成（1） 第14回：課題作成2 第15回：情報の倫理とセキュリティ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%			
	レポート		80%			
	小テスト			各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験			最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。						
【授業外学修】 1 復習をすること。 2 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	英語I	サブタイトル	子どもと交わす英会話I	授業番号	CD201
担当教員名	浜田 嘉彦				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		

【授業の概要】

本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて、外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い、英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで紹介文を書き、簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。また、各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得を目指す。

【到達目標】

- ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。
- ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。
- ・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。
- ・各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：1-1-2 Welcome to Okayama  
 第2回：1-1-4 At Korakuen  
 第3回：1-2-1 Hofukuji and Sesshu  
 第4回：1-2-2 Kibiji District  
 第5回：1-2-4 Ohara Museum of Art  
 第6回：1-3-1 Hiruzen Height  
 第7回：1-3-2 A Trip to Inujima  
 第8回：1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine  
 第9回：1-3-5 Yunogo Hot Spring  
 第10回：2-1-3 Gift Wrapping  
 第11回：2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags  
 第12回：2-2-4 Peach Farmer's Dessert  
 第13回：2-3-1 Jeans Town Kojima  
 第14回：3-1-4 Eco-friendly Bags  
 第15回：Tea Ceremony（茶道）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	【評価の方法1：評価規準・その他備考】 意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上できるよう、自主的で粘り強い学習に努めること。
- ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
- ・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し、検定合格を目指して学修すること。

【授業外学修】

- 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- 2 前時の授業内容についての練習問題を実施するので2時間以上復習しておくこと。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。
- 4 実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し、予習復習を行うこと。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	岡山から“ハロー”	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	1,000	978-4-88197-743-9

	自由記載	各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の問題集（授業で指定する）
参考書	自由記載	
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 公立中学校教諭		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。		

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	CE201
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。						
【到達目標】 人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える 第6回：「睡眠」とスポーツ 第7回：身体形成と機能の発達 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 ・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。						
【授業外学修】 ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	CE202
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実技		
【授業の概要】						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
【到達目標】						
健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している		
	レポート					
	小テスト		40%	各競技ごとに試合を実施する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
【授業外学修】						
・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	基礎音楽A		サブタイトル		授業番号	CO207
担当教員名	廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
【到達目標】						
コード進行の基礎知識を学び、既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：前期の内容についての確認。子どもの成長と子どもを取りまく音楽について。 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）						
第2回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 1						
第3回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 2						
第4回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵） 基本的な楽典の知識を習得する 3						
第5回：表現法とまとめ 1 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）						
第6回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 4						
第7回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 5						
第8回：表現法とまとめ 2 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）						
第9回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 6						
第10回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する7						
第11回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 8						
第12回：表現法とまとめ 3 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）						
第13回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 9						
第14回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 基本的な楽典の知識を習得する 10						
第15回：表現法とまとめ 4 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子） 楽典						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%				

	小テスト	80%	自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。	
【受講の心得】 実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。			
【授業外学修】 授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。			
使用テキスト	自由記載	『こどもの歌100』, チャイルド本社 『大人のための音楽ワーク (テキスト)』, ヤマハ出版	
参考書	自由記載	『ピアノ1. 2. 3』, ドレミ出版	
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の実務経験】 各公立中学校・高等学校, 音楽教室での講師(嶋田泉), 公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵), ピアノ教室講師(多田悦子)			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			
【実務経験をいかした教育内容】 鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで, 様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵) 実務経験をいかし, ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)			

授業科目名	基礎音楽B		サブタイトル		授業番号	CO308
担当教員名	廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 土師 範子 尾瀨 千咲 多田 悦子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
子どもと保育の内容を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
【到達目標】						
コード進行の基礎知識を学び、既成伴奏及び簡易伴奏の演習を行なう。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：前期の内容についての確認。子どもを取りまく音楽について。 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
第2回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 1						
第3回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 2						
第4回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 3						
第5回：表現法とまとめ 1 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
第6回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 4						
第7回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 5						
第8回：表現法とまとめ 2 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
第9回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 6						
第10回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する7						
第11回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 8						
第12回：表現法とまとめ 3 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
第13回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 土師 範子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 9						
第14回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 土師 範子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
基本的な楽典の知識を習得する 10						
第15回：表現法とまとめ 4 ※（担当廣畑 まゆ美 河田 健二 川崎 泰子 土師 範子 尾瀨 千咲 多田 悦子）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	80%	自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。			

	定期試験		
	その他		
	自由記載		
<p>【受講の心得】  実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。</p>			
<p>【授業外学修】  授業で提示される次回の内容について、予習すること。  授業で提示された課題を実施し、復習すること。  上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>			
使用テキスト	自由記載	『こどもの歌100』, チャイルド本社 『大人のための音楽ワーク (テキスト)』, ヤマハ出版	
参考書	自由記載		
<p>【担当教員の実務経験の有無】  無</p>			
<p>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】  無</p>			

授業科目名	教育原理		サブタイトル		授業番号	CP201
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。 特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。						
【到達目標】 現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。 本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：現代の教育をめぐる諸問題 第2回：教育とは何か 第3回：教育の思想：西洋にみる教育の思想と実践 第4回：教育の思想：幼児教育の思想と実践 第5回：学校教育と学力、家庭 第6回：教員の養成、採用、研修 第7回：学校、放課後、家庭における子どもの日常生活 第8回：江戸期以前の家族と社会による教育 第9回：公教育制度の成立とその思想 第10回：学制と明治期の学校教育制度の成立と展開 第11回：大正期の学校教育制度の成立と展開 第12回：昭和期から現在にいたるの学校教育制度の成立と展開 第13回：教育に係る主な法律 第14回：教育に係る法令 第15回：現代社会における教育課題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	基礎的事項の修得状況を確認する。		
	その他		20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。		
自由記載						
【受講の心得】 テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。						
【授業外学修】 週当たり4時間以上、テキストを読むこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	コンパス 教育原理		古賀一博ほか編著	建帛社	2090	978-4-7679-5130-0
	自由記載					
参考書	自由記載		『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
【担当教員の実務経験の有無】 無						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

科目名	教育心理学			授業番号	CP205	サブタイトル			
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。								
到達目標	実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育心理学とは								
第2回	乳幼児期の発達								
第3回	児童期・青年期の発達								
第4回	学習と知識獲得								
第5回	認知情報処理と記憶								
第6回	動機づけと学習								
第7回	認知発達と学習支援								
第8回	中間のまとめ								
第9回	学級集団と学習支援								
第10回	個性や個人差と学習支援								
第11回	教育評価								
第12回	障害の基本的理解								
第13回	障害児への教育的支援								
第14回	学校教育を取り巻く諸問題								
第15回	期末のまとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	100	理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学	田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	978-4-623-08177-6	2200円
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容				

科目名	日本国憲法		授業番号	CA207	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)				
教員	俣野 英二									
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。</p> <p>次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>									
到達目標	<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら、主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解など幅広い教養の修得とともに、子どもに関わる場面など様々な場面から主体的に憲法の視点から問題解決の方法を思考する力の修得を目的とすることから、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	ガイダンス、憲法とは何か 1 学修の目標、評価方法を説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。									
第2回	国家機関としての天皇制 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民民主主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。									
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 1―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。									
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 2―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。									
第5回	国民主権を実現する仕組み 1 政治と国民、国会議員について学修する。									
第6回	国民主権を実現する仕組み 2 選挙、選挙制度、政党について学修する。									
第7回	人権を守るための組織――統治機構 1―― 国会、内閣について学修する。									
第8回	人権を守るための組織――統治機構 2―― 地方自治、裁判所について学修する。									
第9回	良心をもつ自由、貫く権利、中間試験 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を貫く権利について考える。 3 中間試験を実施する。									
第10回	表現の自由と書かれない権利 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の優越的地位について学修する。									
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク 1 1 知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク (課題選択)									
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク 2 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク (課題分析)									
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク (情報収集、整理)									
第14回	働く人の権利、グループワーク 4 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク (全体討議 1)									
第15回	グループワーク 5 グループワーク (全体討議 2)									
授業計画 備考 2										
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考							
	グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに、要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。不十分な点については、コメントを付して連絡する。							
	小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後、Universal Passportに解説を表示する。							
	中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。							
	定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。							

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	<p>1 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。</p> <p>2 第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするの十分充電して講義に臨むこと。</p> <p>3 中間（第9回）に1回中間テストがある。</p>
授業外学修	<p>1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。</p> <p>2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。</p> <p>3 グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。</p> <p>事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円+税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例1 憲法（第4版）	右崎正博・浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500円+税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に理解し述べる事ができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確ではないがほぼ理解し述べる事ができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、大体述べる事ができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に述べる事ができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、全く表現する事ができない。
知識・理解	2. 国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し、理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に理解し述べる事ができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確ではないがほぼ理解し述べる事ができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、大体述べる事ができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に述べる事ができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、全く表現する事ができない。
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べる事ができる。	課題に対し、結論を述べる事ができる。	課題に対し、結論を述べる事ができない、または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2. 多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見の存在を並列的に述べる事ができる。	課題に対し、不十分なが複数の価値観・意見の存在を述べる事ができる。	課題に対し、複数の価値観・意見を述べる事ができない、または指示事項に沿っていない。

科目名	教育社会学			授業番号	CN213	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	<p>子どもの発達、これまで主として、心理学的アプローチにより説明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし、大きな社会変動と多面的価値観が錯綜する現代社会において、子どもの発達を説明するためには、子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため、特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。</p>								
到達目標	<p>子どもの発達を社会学的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。 特に、学校教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し、子どもに関する問題を自ら分析し、解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	子どもの発達に対する研究 社会学的アプローチとは								
第2回	教育社会学の研究対象と研究方法 何が学問を規定するのか								
第3回	教育社会学の研究対象としての教育政策 我が国における教育政策の展開と現状								
第4回	教育社会学の研究対象としての諸国の教育事情 国際比較から分かること								
第5回	家族集団と子どもの社会化 家族集団における子どもの社会化の特徴								
第6回	仲間集団と子どもの社会化 仲間集団における子どもの社会化の特徴 遊戯集団と活動集団								
第7回	地域社会と学校教育 地域社会と学校の関係								
第8回	地域社会と子どもの教育 近隣集団と地域集団								
第9回	学校集団の構造と組織 学校とは何か 学校の特徴とは								
第10回	学校集団の社会化機能 学校集団における子どもの社会化の特徴								
第11回	学校の安全に関する現状と課題 学校の安全とは								
第12回	学校の安全と危機管理 学校の危機管理とは								
第13回	子どもの社会化と逸脱行動 逸脱行動とは何か								
第14回	子どもの逸脱行動の現実 逸脱行動と子どもの社会化								
第15回	少年非行 少年非行とは 少年非行をめぐる現状と法令								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。						
	コメントペーパー	30	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1) テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。 2) 最終試験レポートの課題を探しながら受講すること。
授業外学修	事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを、週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの発達に関する社会学的アプローチが理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、概要を理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、キーワードを覚えている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2. 具体的な社会化エージェントと子どもの社会化について理解できている。	家族集団、仲間集団、近隣集団、地域集団、学校集団と子どもの社会化について理解できている。	学校集団を含むいくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	いくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	社会化エージェントと子どもの社会化についてキーワードを覚えている。	社会化エージェントと子どもの社会化に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	3. 学校集団の構造について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織もしくは、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能の概略を理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えていない。
知識・理解	4. 学校の安全について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状もしくは、危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理の概略を理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	5. 子どもの社会化と逸脱行動について理解できている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点のうちのいずれかについて、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点の概要を理解している。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えていない。
思考・問題解決能力	1. 社会集団を通した子どもの発達について、考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達を考察することにより、自らの実践の質を向上させることができる。	社会集団を通した子どもの発達について、学修内容に照らして考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達について、自分の経験に基づき語る事ができる。	社会集団を通した子どもの発達について語る事ができる。	社会集団を通した子どもの発達について理解することができない。

科目名	教育相談	授業番号	CN215	サブタイトル	(カウンセリングを含む)				
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し、これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。								
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる、カウンセリングの考え方を解説する。								
第3回	カウンセリングの技法 クライアントとのコミュニケーションに有効となる、カウンセリングの基本的な技法を解説する。								
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し、教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。								
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し、学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。								
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り、必要な対応や支援を考える力を身につける。								
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか、その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	発達障害への対応 個性が非常に高い発達障害について、その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。								
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し、教師として何ができるかを考える力を身につける。								
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。								
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し、支援するアセスメントについて、ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。								
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどの連携を踏まえ、心理検査についての概論および留意点を学ぶ。								
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで、ともに子どもを育てていく方法を考える。								
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度									
レポート									
小テスト									
定期試験		100	理解度を評価する。						
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職イクササイズ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編 著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-08178-3	2200円
使用テキ スト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無			
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者				
実務経験を いかした教 育内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	教育方法学			授業番号	CP203	サブタイトル	
教員	住野 好久						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。</li> <li>教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。</li> <li>情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(技能)の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育の方法(1) これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。						
第2回	教育の方法(2) 教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。						
第3回	教育の方法(3) 教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？						
第4回	教育の方法(4) 教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「4段階教授法」とその弟子たちが編み出した「5段階教授法」を学ぶ。						
第5回	教育の方法(5) 教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。						
第6回	教育の方法(6) 今求められている教育方法 今、求められている教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。						
第7回	情報機器及び教材の活用(1) プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。						
第8回	情報機器及び教材の活用(2) ICT活用授業と個別最適な学び・協働的な学び 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。						
第9回	教育の技術(1) 相互主体的な授業のための技術(1) 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。						
第10回	教育の技術(2) 相互主体的な授業のための技術(2) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。						
第11回	教育の技術(3) 相互主体的な授業のための技術(3) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。						
第12回	教育の技術(4) 相互主体的な授業のための技術(4) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。						
第13回	教育の技術(5) 指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。						
第14回	教育の技術(6) 指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。						
第15回	教育の技術(7) 指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度							
レポート		30	本科目で学習したことを理解し、論理的に叙述すること				
小テスト		40	各回の授業に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。				
定期試験							
指導プラン		30	授業で作成する指導プランの面白さ、緻密さ、妥当性				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、配付している資料をあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	授業の中でプリントを配布する。			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜、授業の中で紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も視野に入れて今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は理解していないが、今日求められる教育方法は理解している。	歴史的な教育方法の発展も今日求められる教育方法も理解していない。
知識・理解	2. 教育の目的に適した指導技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解している。	教育の目的に適した指導技術の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解していない。
技能	1. 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を十分身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力をだいたい身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を少し身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしていない。

科目名	教育・保育課程総論		授業番号	CP206	サブタイトル				
教員	佐々木 弘記、岡崎 三鈴								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	第1～7回においては、幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について、基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。 第8～15回においては、小学校期における学習指導とカリキュラムについて、歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。								
到達目標	・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。〈知識・理解〉 ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる。〈知識・理解〉 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育・保育について 「保育の基本原則」、「養護および教育を一体的に行うこと」について理解する。					(岡崎)			
第2回	教育課程とは 「教育課程の役割」、「教育課程編成のときに押さえるべき基本」、「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。					(岡崎)			
第3回	保育におけるカリキュラム 「教育課程の役割」、「教育課程編成のときに押さえるべき基本」、「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。					(岡崎)			
第4回	保育における記録 「教育課程の役割」、「教育課程編成のときに押さえるべき基本」、「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。					(岡崎)			
第5回	保育における省察 「保育の省察」、「保育評価の意義」、「保育の評価と反省」について理解する。					(岡崎)			
第6回	保育カンファレンス 「保育カンファレンス」、「保育のファシリテーション」、「働きやすい職場にするために」について理解する。					(岡崎)			
第7回	保育におけるカリキュラム・マネジメント 「園が何を指すか」、「カリキュラムマネジメントのPDCAサイクル」について理解する。					(岡崎)			
第8回	学習指導とカリキュラム(1) 伝達観と助成観 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について、学習指導の様式である伝達観と助成観の観点から分析し、理解する。					(佐々木)			
第9回	学習指導とカリキュラム(2) 形式陶冶と実質陶冶 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について、学習指導の様式である形式陶冶と実質陶冶の観点から分析し、理解する。					(佐々木)			
第10回	学習指導とカリキュラム(3) 経験主義と系統主義 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について、学習指導の様式である経験主義と系統主義の観点から分析し、理解する。					(佐々木)			
第11回	教育課程の変遷(1) 戦後の学習指導要領の変遷について、当時の学校教育の状況や歴史事象と対応させながらその特質を理解する。					(佐々木)			
第12回	教育課程の変遷(1) 平成以降の学習指導要領の変遷について、当時の学校教育の状況や歴史事象と対応させながらその特質を理解する。					(佐々木)			
第13回	カリキュラムを支える学習指導法 戦後の学習指導要領の特質に応じた学習指導法の変遷について、「主体的・対話的で深い学び」との対応させながらその特質を理解する。					(佐々木)			
第14回	学習評価からカリキュラム評価へ 学校の特色に応じたカリキュラムの評価方法(パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等)について習得する。					(佐々木)			
第15回	小学校におけるカリキュラム・マネジメント 特色あるカリキュラム作りのための地域との連携の仕方について理解する。					(佐々木)			
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	10	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し解説する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	第1～7回においては、毎回復習として授業時に提示したレポートに取り組み、次の授業時に提出すること。レポートについては、コメントを記入して返却する。 第8～15回においては、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習すること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
幼稚園教育要領解説	文部科学省			
保育所保育指針	厚生労働省			

使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 「保育所指導指針・解説」厚生労働省 「幼稚園教育要領・解説」文部科学省
-------------	------------------------------------------------------------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	毎回、授業ノートに回収するので、ルーズリーフのノートを用意すること。
----------	------------------------------------

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭（15年）、県教育センター（9年）（佐々木弘記）
-----------	-----------------------------------

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等での経験を生かして、教育・保育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。
---------------	---------------------------------------------------------

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して広範かつ詳細に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して広範に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を十分に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を十分に理解していない。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	2. 児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を広範かつ詳細に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を広範に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できていない。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を説明できていない。

科目名	特別支援教育		授業番号	CP208	サブタイトル				
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。								
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。								
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、発達障害者総合支援法、障害者の権利に関する条約の内容を理解する。								
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。								
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。								
第6回	発達障害をはじめとする障害のある子どもへの合理的配慮 合理的配慮について理解する。								
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。								
第8回	「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。								
第9回	学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。								
第10回	学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。								
第11回	多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。								
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。								
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困対策について理解する。								
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。								
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する						
授業ごとに示す課題		90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。 課題についてはコメントを記入して返却する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストを読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無			
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方の理解が十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できない
思考・問題解決能力	1. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができない

科目名	ICT活用の理論と実践		授業番号	CP225	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」			
教員	岸 誠一								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに、GIGAスクール構想における令和の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について、具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その「背景や歴史」「これを利用して育成しようとする資質・能力」、現状および今後の方向性について学修する。授業における児童や教員によるICT活用のほか、授業の準備、学習評価に関する活用、校務の情報化における活用について解説する。 また、情報社会を生き抜いていくための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて体験的に学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。</li> <li>・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。</li> <li>・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。</li> <li>・教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。</li> </ul> なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉と〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ガイダンス、現代社会におけるICTの役割 高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学修する。そして、この授業は、ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたいと思う理想の授業」を「自分でデザインしていく」授業であり、そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。								
第2回	教育方法の基礎的理論と歴史 教育方法の歴史について以下の3つの視点で学修する。 ・変貌する教室、授業の様式（一斉指導から子ども中心のアクティブラーニングへ） ・授業の歴史（コメンツの「世界図絵」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法								
第3回	教育方法に関わる4つの学習理論（行動・認知・構成・社会的構成主義）と授業設計 それぞれの学習理論を確立した代表的な人物と実践事例について解説し、各学習理論の長所・課題等について考察する。この授業終了後レポートを提出する。								
第4回	教育メディアと著作権 様々な学校での著作権の事例をクイズ形式で考えながら学修する。特にSNS等で発信する際に起こりそうな事例を挙げ、著作権の問題を自分の起こりうる問題として認識する。								
第5回	対話的な学びを深めるICTの活用 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の在り方と、その実現に必要な教師の役割について学ぶ。								
第6回	個別最適な学びを支えるICTの活用 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で、主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また、個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。								
第7回	遠隔授業・遠隔学習と学びの保障 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。								
第8回	特別支援・幼児教育におけるICT活用 特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学ぶと共に、ICT活用の意義と活用に応じた留意点を考える。								
第9回	校務の情報化とICT環境の整備 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。								
第10回	情報モラル・情報セキュリティ教育について インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探索。また、SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味について学修する。後半の講義では、学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い、指導案を作成する。								
第11回	プログラミング教育がめざすこと 子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して、プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また、本学で開発したプログラミング教材「おしゃれなCAT」も体験する。								
第12回	学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館) 「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。 ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学時に児童はタブレット端末を各自持っているという想定で、美術館の絵の説明や、児童の間での情報の共有等にどう活用するか ・見学したあとの事後指導にどうICTを活用するか そして、実際に児童になりきって大原美術館を見学し、自分が設計した授業について反省する。								
第13回	児童生徒によるICT活用 学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から、基礎的な指導方法を学ぶ。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）についてもその指導技術・指導法を理解する。								
第14回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価I 模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案（ICT活用レシピ）作成について学修し、次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い、ICT活用レシピを作成する。								
第15回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価II 前回計画したICT活用レシピにより模擬授業を行う。その模擬授業演習において、「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか」について学生の相互評価を実施する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。							
ミニレポート	30	随時それぞれの受講内容に応じて、ミニレポートの課題を数回出し、授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。							
模擬授業	20	模擬授業演習において、情報機器を効果的に活用する場面が見られるかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後、口頭でコメントする。							
最終レポート	30	この授業の総括として、授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては、コメントを記入して返却する。							

評価の方法：自由記載	(1) 履修者には、授業の進行に応じて出題するミニレポートに取り組んでもらう。(30%) (2) 毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%) (3) 期末に全員に課す最終レポート(30%)と、模擬授業(20%)を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が各種ICT機器、環境を活用し、体験的に学ぶ機会を設けることを基本とする。毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。
授業外学修	1. 授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材(予習用の動画教材)を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、よく予習しておくこと。 2. PCの操作技能等を身につけるために、随時復習をすること。 3. 模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。  1および2の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	稲垣忠, 佐藤和紀 (編著) (2021) ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして, 北大路書房 ロバートガニエ(著) 鈴木克明 (訳) (2007) インストラクショナルデザインの原理, 北大路書房 堀田龍也, 佐藤和紀 (2019) 教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術, 三省堂 稲垣忠 (編著) (2019) 教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン, 北大路書房			
その他	パソコンを大切に使用すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年), 公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務), 公立小学校教諭(13年), 岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年), 岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしていく。また、教諭時代、授業の中でICTの活用をした経験や、生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行った研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など、様々な内容について指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解が不十分。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について十分理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3. 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考案提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つけ、調べ、自分なりの解決策を考案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えが不十分である。
技能	1. ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法の理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2. 児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を多様な視点で考え、実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を考えることができるが、試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。
態度	1. 提出物	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなどで内容が発展的に充足している。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなどで工夫して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について、授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。

科目名	障害児援助論			授業番号	CN208	サブタイトル			
教員	藤井 裕士								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	障害のある子どもとその家庭（保護者）への支援，配慮を具体的に学修する。 特に，知的障害や発達障害のある子どもの実態をアセスメントを通して把握し，エビデンスを基にした支援の計画が立案できるようになることをめざす。								
到達目標	障害のある子どもの障害特性を理解し，それを説明することができる。また，実態に応じた支援を行うため，客観的な見立てを行うことができる。そして，実態に応じた支援を計画することができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	特別支援教育の理念 「障害児・者」とのこれまでの出会いを振り返る中で，障害観を表出する。特別支援教育の理念を理解する。								
第2回	ICFの理念と自立活動 ICFや合理的配慮の理念について理解する。また，自立活動の考え方や，個別的教育支援計画，個別の指導計画の考え方について理解する。AACやATの理念について理解する。								
第3回	障害の理解 視覚障害／聴覚障害／肢体不自由／病弱の特性を理解する。								
第4回	知的障害の理解 知的障害の障害特性を理解する。知的障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。								
第5回	発達障害の理解 ASD/ADHD/LDの障害特性を理解する。								
第6回	実態把握を活かした指導・支援① フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメントについて理解する。また，フォーマルなアセスメントの中から，田中ビネー，KABC-II，WISCの概要について理解する。検査結果を基にした指導や支援の立案について理解する。								
第7回	実態把握を活かした指導・支援② 太田ステージの実施方法を演習を通して理解する。検査結果を基にした指導や支援の立案について理解する。								
第8回	実態把握を活かした指導・支援③ 見ること・聞くことに関する実態把握について理解する。実態把握を基にした指導や支援の立案について理解する。								
第9回	実態把握を活かした指導・支援④ 言語理解・言語表出に関する実態把握（PVT-R，質問応答関係検査など）について理解する。実態把握を基にした指導や支援の立案について理解する。								
第10回	実態把握を活かした指導・支援⑤ N-Cプログラムの実施方法を演習を通して理解する。検査結果を基にした指導や支援の立案について理解する。								
第11回	支援の技法① ABA・TEACHプログラムなどの概要を理解する。また，MASやコミュニケーションサンプルを活用する。								
第12回	支援の技法② PECS・SST・ソーシャルストーリー・コミック会話などの概要を理解する。								
第13回	学級経営 『学び合い』，イェナプラン教育，モンテッソーリ教育を例に，クラスづくり・集団づくりの方法，ポイントを学修する。学級経営・集団あそびなどを模擬的に経験する。								
第14回	個別的教育支援計画 個別的教育支援計画の意義と作成方法を演習を通して理解する。								
第15回	個別の指導計画 個別の指導計画の意義と作成方法を演習を通して理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。						
	演習への取り組み姿勢／態度	30	演習への参加意欲・態度，ワークシートへの記述状況から評価する。						
	試験	55	最終的な理解度を，筆記試験で評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1 事前・事後に資料や参考文献を読むこと。 2 発表や演習に積極的に取り組むこと。 3 配布する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、配布され資料のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問を明らかにする。 2 復習として、配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実 務経験の有無	有			
担当教員の実 務経験	特別支援学校教諭（14年）			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容	特別支援教諭（14年）の経験等を生かして、障害のある子どもの実態把握や支援の計画に関する具体的な方法を教授する。			

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 障害のある子どもの障害特性を理解し、それを説明することができる。	障害特性を、理解し説明することができる。	障害特性を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性の一部を説明することができる。	障害特性を、ほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	2. 障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため、客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを、根拠立てて説明することができる。	客観的な見立てを、自分なりに説明することができる。	客観的な見立てを、教員の説明通りに一通り説明することができる。	見立ての方法の一部を説明することができる。	見立ての方法を、ほとんど説明することができない。
技能	3. エビデンスに基づく支援の計画を立てることができる。	エビデンスに基づく支援の計画を立てることができる。	自分なりに支援の計画を立てることができる。	教員の助言や友人からの助言を得て、支援の計画を立てることができる。	支援の計画の立案ができる場合と、できない場合がある。	支援の立案を行うことができない。
態度	4. 学んだ知識をもとに、支援のために自ら考え行動しようとする。	学んだ知識をもとに、支援のために自ら考え行動しようとする。	支援に関する知識を活かし、積極的に関与しようとする。	指示があれば支援に取り組むことができる。	支援活動に対して消極的で、受け身の姿勢が目立つ。	支援活動への関心が低く、取り組みようとする姿勢がほとんど見られない。

科目名	発達心理学		授業番号	CN216'	サブタイトル				
教員	國田 祥子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、特に誕生から乳幼児期にかけての生理的・心理的発達について解説する。								
到達目標	子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	発達心理学とは 20世紀の終わりから21世紀にかけて飛躍的に進歩した乳幼児研究で得られた知見を解説する。								
第2回	赤ちゃんはいかに有能か 新生児期の子どもが持っている能力を、知覚や情動の観点から紹介する。								
第3回	人間発達の可塑性 幼いころに経験したネガティブな経験の影響は、どのようにして補償できるのか。								
第4回	母子相互作用の不思議 言葉が使えない乳児でも、生まれたばかりの新生児ですら、母親とコミュニケーションしている。								
第5回	世界認識の始まりと個性の育ち 「物の永続性」の理解はどのように進むのか、他者の反応を参考に行動を決定する「社会的参照」に見られる個性とは。								
第6回	象徴機能の成立と言語発達 頭の中に作られる表象と「ことば」の結びつきはどのように成立していくのか。								
第7回	言語の機能と会話の発達 誰かに伝えるための「ことば」と、頭の中で考える「ことば」の発達。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	記憶し想像する心の発達 乳幼児が持つ記憶力の限界と、子どもが「思い出す」ときの特徴。								
第10回	心の理論の成立 自己と他者のそれぞれにある「心」を理解することが、思いやる心の発達につながる。								
第11回	遊びの発達と遊びからの学び 友達とかかわり遊びの世界を楽しむ中で、子どもたちが身につける多くのこと。								
第12回	思考と語りの成立過程 「物語る」ことの機能と、想像する心の発達が創造につながるまで。								
第13回	科学する心の芽生え 数を数えること、計算すること、生物学や物理学、論理的思考はどのように発達していくのか。								
第14回	生活世界から学びの世界へ 読み書き、デジタルメディア、英語学習……早期教育に効果はあるのだろうか。								
第15回	期末のまとめ 第9回から第14回の内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度									
レポート									
小テスト									
定期試験		100	理解度を評価する。						
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる乳幼児心理学	内田伸子（編）	ミネルヴァ書房	978-4-623-05000-0	2400円
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	教育社会学演習		授業番号	CN314	サブタイトル				
教員	中田 周作								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし、社会学の専門用語を確認しながら精読していく。同時に、子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法、子ども学の役割についても検討する。								
到達目標	子ども学は未だ発展の途上である。 子ども学の確立を目指すためには、まず、様々な学問分野からのアプローチが必要である。 本演習は、その一助として、社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育社会学の研究対象と方法 授業の目的と方法								
第2回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子ども社会学の位置付け)								
第3回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの遊びとは)								
第4回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：実証的アプローチとは)								
第5回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：民間の子育て支援活動)								
第6回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの仲間集団)								
第7回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの放課後)								
第8回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：自然体験活動の意義)								
第9回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：マンガと子ども)								
第10回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どものイメージ)								
第11回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：地域社会と子ども)								
第12回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：家庭と子ども)								
第13回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：少年非行と子どもの発達)								
第14回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：学歴社会と受験戦争)								
第15回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの発達と新しいメディア)								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	作成したレジュメに基づく発表と発表後の修正	70	作成したレジュメ、発表時の内容・態度・姿勢を評価する。 発表時に質問形式でフィードバックする。						
	他者の発表時の質問	30	他者の発表時に必ず質問する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	課題論文を読むこと。討論に積極的に参加すること。
授業外学修	1. 自分の発表前は、レジメの作成をすること。 2. 発表後は、発表中に指摘を受けた事項を踏まえて、レジメを修正し、提出すること。 3. 他者の発表の前に、テキストの該当箇所を読んで、質問を考えておくこと。  以上、週当たり4時間以上取り組むこと。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹編	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2, 100円 + 税
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実 務経験の有無	無			
担当教員の実 務経験				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
思考・問題解決能力	1. 子ども社会学の観点からの考察と、自らの実践力の向上ができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について、自分の経験に基づき語るすることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について語るすることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を捕捉することができない。

科目名	教育史		授業番号	CP202	サブタイトル				
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目は、教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、現代に至るまで変遷してきたのかを理解する科目である。								
到達目標	1) 家庭と社会による教育の歴史を理解する。 2) 近代教育制度の成立と展開を理解する。 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育への歴史的視点 教育の歴史について知っていることを整理するとともに、この科目の目標・内容・方法を理解する。								
第2回	人類史のなかの教育 人間はいつからどうして教育をはじめたのか考える。								
第3回	中世の西洋教育史 中世に成立した最初の教育機関である「大学」について理解する。								
第4回	中世の日本教育史 古代・中世における日本の教育機関について理解する。								
第5回	17世紀までの西洋教育史 ルネサンス期のヒューマンイズムの教育からコメニウスの教育思想までについて理解する。								
第6回	18世紀までの西洋教育史 (1) ルソーの教育思想とフランス革命期の公教育改革について理解する。								
第7回	18世紀までの西洋教育史 (2) ヘスタッチの教育思想と教育実践について理解する。								
第8回	19世紀までの西洋教育史 ヘルバルトの教育思想について理解する。								
第9回	19世紀までの日本教育史 江戸時代までの教育について理解する。								
第10回	産業革命期の西洋教育史 産業革命が社会・教育にもたらした影響とこの時期の教育思想・学校制度等について理解する。								
第11回	明治時代の日本教育史 明治政府によって進められた公教育の制度化について理解する。								
第12回	20世紀前半までの西洋教育史 J.デューイの教育思想とこの時期の学校・教育改革について理解する。								
第13回	20世紀前半までの日本教育史 戦前の日本の教育制度、教育実践について理解する。								
第14回	戦後教育改革期の日本教育史 第二次世界大戦後の日本の教育、学校改革について理解する。								
第15回	まとめ 教育の過去と現在について、自分の教育経験もふまえて振り返る。最終レポートを作成し、発表する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
確認テスト		50	毎回の授業内容をふまえて、課題に適切に回答する。						
最終レポート		50	この授業科目の内容の理解度を評価する。 教育の思想家や実践家の特色と意義を考察できる。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	適宜、コメントシート（感想、意見、関心など）を使い、授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し、授業に臨んでほしい。
授業外学修	予習として、授業内容にかかわる人物や事項を調べる。 復習として、授業で配布したプリントを読み直す。 発展学修として、授業で紹介される参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要に応じ、授業でプリント資料を配布する。 なお、参考書を下記に示すので、読んで関心を広げることを推奨する。			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	1.尾上雅信他編『新・教職課程演習』教育史（第2巻）、協同出版、2022年。 2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育』明文書林、2022年。 3.尾上雅信編『西洋教育史』ミネルヴァ書房、2018年。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づき評価項目）	評価の観点				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 西洋における教育の歴史について理解している。	学修した内容について、正確に理解し、述べるができる。	学修した内容について、ほぼ理解し、述べるができる。	学修した内容について、大體述べるができる。	学修した内容について、正確に述べるができないが、自分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まったく表現できない。
知識・理解	2. 日本における教育の歴史について理解している。	学修した内容について、正確に理解し、述べるができる。	学修した内容について、ほぼ理解し、述べるができる。	学修した内容について、大體述べるができる。	学修した内容について、正確に述べるができないが、自分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まったく表現できない。
知識・理解	3. 教育の歴史における西洋と日本の関係について理解している。	学修した内容について、正確に理解し、述べるができる。	学修した内容について、ほぼ理解し、述べるができる。	学修した内容について、大體述べるができる。	学修した内容について、正確に述べるができないが、自分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まったく表現できない。
思考・問題解決能力	1. 現在の教育の状況や問題について、歴史の視点をふまえ、その背景や原因を考察することができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べるができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項にそっていない。

科目名	保育・教職実践演習(幼・小)			授業番号	CP428	サブタイトル	(幼・小)		
教員	齊藤 佳子、太田 憲孝、溝田 知茂、岡崎 三鈴、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教育活動の具体的な場面で生きて働く知の総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていきたい。また、履修カルテを参照し、個別的に補完指導を行う。								
到達目標	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のいずれにも共通して、 (1)子どもを理解する力、(2)保育(授業)をデザインする力、(3)保育(授業)を実践する力、(4)保育(授業)を省察する力の4点を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の取得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と授業内容。 「保育者・教師への歩みと足跡」各自、保育者・教職を目指してきた思いや、履修カルテをもとにこれまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。					齊藤			
第2回	グループワーク:「保育者・教師への歩みと足跡」について、合同グループで発表し、話し合い、自分自身の思いや覚悟を確かめる。					溝田・岡崎			
第3回	グループワーク:「子どもの理解の方法と実際」保育者として、教師として、子どもを理解することについて改めて考え、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。					溝田・岡崎			
第4回	グループワーク:「問題行動の理解と対応」子どもの問題行動に関して、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。					溝田・岡崎			
第5回	ロールプレイング:「保護者対応」保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で、それぞれの立場でロールプレイングを行い、保護者の思いを共感的に受け止め、問題を整理し、誠実な態度で対応することについて考える。					岡崎・土師			
第6回	模擬保育・模擬授業(1) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。					太田・岡崎・土師			
第7回	模擬保育・模擬授業(2) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。					太田・岡崎・土師			
第8回	模擬保育・模擬授業(3) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。					太田・岡崎・伊藤			
第9回	グループワーク:「幼保小の接続」幼保小の相違点、幼保小の接続の在り方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫などについて、合同グループで話し合い、保育者・教師として必要な支援について考える。					岡崎・土師			
第10回	グループワーク:喫緊の課題(1) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する					溝田・齊藤・土師			
第11回	グループワーク:喫緊の課題(2) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する					溝田・齊藤・土師			
第12回	グループワーク:喫緊の課題(3) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する。					溝田・齊藤・土師			
第13回	「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」 情報教育、ICT教育・プログラミング教育について、今後、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。					齊藤・太田			
第14回	ロールプレイング:「初めて子どもに出会う日」 初めて子どもたちと出会う日という想定で、子どもたちに、また、子どもと保護者を前に、それぞれの立場でロールプレイングを行い、学級の担当者また、学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え、気持ちを新たにする。					岡崎・土師			
第15回	「私のめざす保育者・教師像と今の自分、これからの自分」 私のめざす保育者・教師像について、教員の講話を聴講し、最終レポートに向けて、自分の夢や決意を固める。					子ども園園長(齊藤)・太田			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。						
	レポート	40	毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について、コメントして返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	40	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。						
評価の方法:自由記載	グループ討議、実技指導、補完指導などの結果を踏まえ、教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し、単位認定を行う。								
受講の心得	全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は、その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に、向上心を持って授業に臨むこと。								
授業外学修	1 予習として、事前に配布された資料を読み、自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として、授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ、提出する。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料や書籍を読み、記録に残す。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト:自由記載	随時、必要な資料を配付する。								

参考図書		書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載						
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の 実務経験の有無	有					
担当教員の 実務経験		小中学校教員31年・岐阜県教育委員会文部教育5年（太田憲孝）				
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者の有無	無					
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者						
実務経験を いかした教育内容						

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 子どもについて理解している。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 保育・授業を想定した保育・教科内容・教育課程に関する基礎的な知識を習得している。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、まったく表現することができない。
知識・理解	3. 教職に求められる教養を身に付けている。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、正確に理解し、説明できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、ほぼ理解し、説明できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、大体述べることができる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. これまでの学修（履修カルテ）を振り返り、各自の課題を明確にし、その解決策について考えることができる。	自分の到達点と課題を的確に自覚し、課題を克服するための自己研鑽に努めている。	自分の到達点と課題を的確に自覚し、課題を克服するための努力をしている。	自分の到達点と課題を自覚し、課題を克服するための努力を始めている。	自分の到達点と課題を自覚している。	履修カルテに記入している。
思考・問題解決能力	2. 保育・授業のデザイン・実施・省察の実践的な問題解決全過程において探究を進めていくことができる。	自己の課題を的確に認識し、その解決に向けて、学びつづける姿勢を持ち、自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような、優れた創造力を発揮している。	自己の課題を認識し、その解決に向けて、努力をしている。	自己の課題を認識し、その解決に向けて、努力を始めている。	自己の課題は認識できている。	自己の課題を十分に認識できていない。
思考・問題解決能力	3. 保育・教育時事問題について関心を持ち、意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確に理解し意見を持ち、それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確ではないがほぼ理解し意見を持ち、それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、自分の意見を持ち、大体述べることができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確に説明できないが、自分なりに意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持って、意見を持つことができない。
技能	1. 保育・授業の実践的・実務的な技能を身に付けている。	子どもの特徴を把握し、それに対応できる様々な指導上の工夫を行って、すべての子どもに効果的な学びを促すような魅力的な保育・授業を実践することができる。	子どもの特徴を把握し、それに対応できる様々な指導法を用いて、多くの子どもが学べるような保育・授業を実践することができる。	基本的な指導技術を使って、筋の通った1時間の保育・授業を実践することができる。	様々な人に対して、自分の思いや意見を、わかりやすく伝えることができる。	身近な人に対して、自分の思いや意見を伝えることができる。
技能	2. 保育者・教師に必要な不可欠な子ども、同僚教師などとの適切なコミュニケーション能力、つまり人間関係構築力が身に付いている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わることができる。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる努力をしている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる努力を始めている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚している。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等を分析しようとしている。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

子ども学部 子ども学科  
幼稚園教諭一種免許状

授業科目名	子どもと絵本		サブタイトル		授業番号	CN203
担当教員名	廣畑 まゆ美 河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解したうえで、絵本から広がったり深まったりする様々なつながりを生み出す方法を具体的に検討する。また、保育・教育現場で絵本を取り入れられるように絵本の読み合いや分析、模擬保育など、実践的活動を実施する。多くの絵本を知り、自らが興味・関心を持てるよう、多様な観点からアプローチする。						
【到達目標】 1, 絵本の特徴と意義を多角的な観点から捉えることができる。 2, 絵本と子どもの発達について理解できる。 3, 絵本を保育・教育のなかに取り入れていく具体的な方法が提案できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：現状をもとに授業の目標を決める ※ (担当廣畑)						
第2回：絵本を分析する ※ (担当河原)						
第3回：絵本の読み聞かせの方法を考える(1) ※ (担当河原)						
第4回：絵本の読み聞かせの方法を考える(2) ※ (担当河原)						
第5回：子どもの発達と絵本への反応を知る(1) ※ (担当河原)						
第6回：子どもの発達と絵本への反応を知る(2) ※ (担当河原)						
第7回：絵本の読み聞かせ発表(1) ※ (担当河原)						
第8回：絵本の読み聞かせ発表(2) ※ (担当河原)						
第9回：絵本を使った保育の方法を考える(1) ※ (担当廣畑)						
第10回：絵本を使った保育の方法を考える(2) ※ (担当廣畑)						
第11回：模擬保育(1) ※ (担当廣畑)						
第12回：絵本を使った発展的な保育の方法を考える(1) ※ (担当廣畑)						
第13回：絵本を使った発展的な保育の方法を考える(2) ※ (担当廣畑)						
第14回：模擬保育(2) ※ (担当廣畑)						
第15回：授業と実践の振り返り ※ (担当廣畑)						
【授業計画 備考2】 少人数のグループでの取り組みや、クラス内で絵本を読みあうことを多く行います。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 ／態度					
	レポート	45%	授業毎の課題を評価する			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	55%	読み聞かせや模擬保育のパフォーマンスを評価する			
	自由記載					
【受講の心得】 毎授業、自らテーマを設定し、絵本を紹介する。多くの絵本と出会い、生活を豊かにしてほしい。						
【授業外学修】 絵本探索を含め、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要に応じて適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	子どもと健康	サブタイトル		授業番号	CP212
担当教員名	河原 智美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		

【授業の概要】

本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきか常に考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。

【到達目標】

下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。
2. 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。
3. 子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。

【授業計画】

- 第1回：「健康」とは何か  
 第2回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1) 乳幼児期の発達と心の安定  
 第3回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2) 生活リズム  
 第4回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3) 安全と食を営む力  
 第5回：領域「健康」の指導計画の立案  
 第6回：領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について  
 第7回：領域「健康」における保育者の役割について  
 第8回：領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫  
 第9回：領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫  
 第10回：領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫  
 第11回：領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心  
 第12回：領域「健康」指導上の留意事項(1)子どもの体力づくりと運動遊び  
 第13回：領域「健康」指導上の留意事項(2) 保育環境の安全性  
 第14回：領域「健康」指導上の留意事項(3) 子どもたちの食育  
 第15回：子どもの健康を育む保育の在り方

評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	授業への積極的な態度や取組について評価する。
	レポート		10%	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。
	小テスト			
	定期試験		60%	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。
	その他			
	自由記載			

【受講の心得】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり、実際に子どもに接する機会を意図的にもち、子ども理解を深めたりしていく。そして、理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。

【授業外学修】

1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。また質問事項についてノートにまとめておくこと。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		コンパクト版 保育内容シリーズ健康		谷田貝公昭, 高橋弥生 編者	一藝社	2000円
	自由記載	コンパクト版 保育内容シリーズ健康				
参考書	自由記載	『最新保育講座7保育内容「健康」』 著者名 河邊貴子・柴崎俊行・杉原隆編 発行所 ミネルヴァ書房 『新保育ライブラリ』保育内容 健康 著者名 民秋 言・小田 豊・栃尾 勲・無藤 隆 発行所 北大路書				

		房 『保育所保育指針解説』厚生労働省 発行所 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 発行所 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 発行所 フレーベル館
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 公立幼稚園教諭, 私立幼稚園園長		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 より実践的な領域「健康」の指導ができるよう教育内容を指導する。		

授業科目名	子どもと健康指導法		サブタイトル		授業番号	CP313
担当教員名	河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>演習形式で、領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。</p> <p>また、遊びに関わるだけでなく、安全教育、食育、小学校との接続を踏まえた指導について考えていく。</p>						
【到達目標】						
<p>幼児期の身体に関する問題は、多様化、複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について、方法とその具体的内容について理解することを目的とする。</p> <p>子どもと健康の内容を踏まえ、ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また、実践における評価について学習する。</p> <p>なお、本科目は、デュプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解</p> <p>第2回：領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点</p> <p>第3回：領域「健康」の具体的指導場面（基本的生活習慣）の指導と幼児理解（ICT）</p> <p>第4回：領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT）</p> <p>第5回：領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）</p> <p>第6回：領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）</p> <p>第7回：領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）</p> <p>第8回：領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）</p> <p>第9回：領域「健康」に関する安全指導と保健指導</p> <p>第10回：食育に関する指導（3歳未満児を対象として）</p> <p>第11回：食育に関する指導（3歳以上児を対象として）</p> <p>第12回：乳幼児の病気とアレルギーに対する指導</p> <p>第13回：特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導</p> <p>第14回：小学校を見通した領域「健康」における指導</p> <p>第15回：領域「健康」における評価</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	授業への積極的な態度や取組について評価する。		
	レポート		20%			
	小テスト					
	定期試験		50%	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。</li> <li>・保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。</li> </ul>						
【授業外学修】						
<p>1. 毎回、授業に使用するテキストを読み、授業内容の概要を理解すること。</p> <p>2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し、分からないところを明確にしておくこと。</p> <p>以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の实務経験】						
公立幼稚園教諭，私立幼稚園園長						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

【実務経験をいかした教育内容】

より実践的な領域「健康」の指導ができるよう教育内容を指導する。

授業科目名	子どもと人間関係	サブタイトル		授業番号	CP214
担当教員名	廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		

【授業の概要】

領域「人間関係」は人とかかわる力を養う観点から示されている。この授業では、保育内容「人間関係」のねらい及び内容について理解し、保育者の役割や指導の在り方について学ぶ。

【到達目標】

子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ、「人とかかわる力の基礎」を理解する。  
 保育者・教育者に求められる幅広い教養と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。  
 保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく・前向きで誠実な態度を身につける。  
 これらは、ディプロマポリシーにあげている学士力の内容<知識・理解><態度>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する。
- 第2回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題…多様な家族形態が抱える諸問題
- 第3回：子どもの人間関係の発達課題（1）…愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達
- 第4回：子どもの人間関係の発達課題（2）…いざこざを通じた育ち、いざこざに対する保育者の援助
- 第5回：子どもの人間関係の発達課題（3）…道徳性と規範意識の芽生え
- 第6回：幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く
- 第7回：遊びの発達と人間関係…遊びのなかで育まれる人間関係
- 第8回：保育者に求められる援助の視点…年齢別の援助とは、自立を考える
- 第9回：子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでほくらは人間になる」を視聴、グループワーク
- 第10回：人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り
- 第11回：保育場面での気になる子どもとのかかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助
- 第12回：乳児の人間関係；乳児期の人間関係の芽生え
- 第13回：子ども理解；子ども理解の視点、グループワーク
- 第14回：親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係、子育て支援の今後の課題
- 第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への取組の積極性、発表などによる評価
	レポート	30%	提出物、レポートが課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されたりしている。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

授業において、『しっかりと話を聞く』『自分の考えを話す』『記録の整理』をするなどを大切にすること。  
 また、演習では積極的に取り組み、乳幼児期の『人間関係』の大切さを学んでほしい。

【授業外学修】

テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。  
 人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など、授業前後の準備・振り返りをする。  
 このことについて、1時間以上の学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育内容「人間関係」第2版	濱名浩 編	株式会社みらい	2100円＋税	9784860154455
	自由記載				
参考書	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	子どもと人間関係指導法		サブタイトル		授業番号	CP315
担当教員名	廣畑 まゆ美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「人間関係」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。</p>						
【到達目標】						
<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：領域「人間関係」とは(1)  第2回：領域「人間関係」とは(2)  第3回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(1)  第4回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(2)  第5回：遊びの中の人とのかかわりの育ち(1)  第6回：遊びの中の人とのかかわりの育ち(2)  第7回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(1)  第8回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(2)  第9回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(3)  第10回：人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)  第11回：人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)  第12回：人とのかかわりを支え広げる実践(1)  第13回：人とのかかわりを支え広げる実践(2)  第14回：領域「人間関係」における今日的課題  第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	授業への取組の積極性、発表などによる評価		
	レポート		30%	提出物、レポートが課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されたりしている。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
<p>授業において、『しっかりと話を聞く』『自分の考えを話す』『記録の整理』をするなどを大切にすること。  また、演習では積極的に取り組み、乳幼児期の『人間関係』における保育者の援助・指導法の大切さを学んでほしい。</p>						
【授業外学修】						
<p>テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。  人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など、授業前後の準備・振り返りをする。  このことについて、1時間以上の学修をすること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ)		若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	2400+税	4472405644
	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	子どもと環境		サブタイトル		授業番号	CP216
担当教員名	齊藤 佳子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 「環境」に関わる内容を楽しく体験的に学び、環境に関する基礎力を養成する。						
【到達目標】 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーの<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。 1. 「環境」のねらいについて、自分の言葉で語ることができる。 2. 環境の内容について、多様な視点から述べるができる。 3. 環境に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付ける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 (1)領域「環境」についての内容、(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」、(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の3項目を授業で行う。						
第1回：・幼児教育の基本と「環境」・幼児教育で育みたい資質・能力 ・理科ソング「草花」 ・工作など「手裏剣」 ※ (担当 齊藤)						
第2回：・領域「環境」のねらいと内容 ・理科ソング「七草」・工作 「紙鉄砲」 ※ (担当 齊藤)						
第3回：・領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容 ・理科ソ ング「野菜の歌」 ・工作「兜」 ※ (担当 齊藤)						
第4回：・領域「環境」における1歳以上3歳未満時の保育 ・理科ソ ング「セミの歌」・工作「紙テープコマ」 ※ (担当 齊藤)						
第5回：・領域「環境」内容の取り扱い ・理科ソング「甲虫類」・ 工作「紙飛行機」 ※ (担当 齊藤)						
第6回：・植物との関わり ・理科ソング「むせきつい動物」・しゃぼ ん玉・泡遊び ※ (担当 齊藤)						
第7回：・植物採集と標本（押し葉）づくり ・理科ソング「空の雲」 ※ (担当 齊藤)						
第8回：・自然、季節とのかかわり、自然現象、季節をとらえる遊び ※ (担当 齊藤)						
・理科ソング（復習） ・工作「押し葉絵」						
第9回：・生き物（動物・昆虫）との関わり ・理科ソング（復習） ※ (担当 齊藤)						
・工作「秋の自然物を使って(1)」						
第10回：・物「素材・道具」との関わり ・理科ソング（復習） ・ ※ (担当 齊藤)						
工作「秋の自然物を使って(2)」						
第11回：・数量や図形との関わり、園行事と子ども ・理科ソング ※ (担当 齊藤)						
（復習） ・工作「節分」						
第12回：・標識や文字との関わり ・理科ソング（復習） ・実技 ※ (担当 齊藤)						
「お手玉、あやとり」						
第13回：・情報や施設との関わり ※ (担当 佐々木)						
第14回：・地域社会と文化と伝統、遊びを通しての地域社会との連 ※ (担当 齊藤)						
携・交流 ・理科ソング（復習） ・実技「けん玉」						
第15回：・他の領域や小学校教育との関わり、領域「環境」全体のま ※ (担当 齊藤)						
とめ ・理科ソング（復習）・工作「依頼がし」						
【授業計画 備考2】 (1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マジック (6)授業時間に指示した物						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 ／態度	10%	意欲、発言、実技の態度			
	レポート	20%	記述内容（要点を押さえているか、自分の考えを述べているか等）			
	小テスト					
	定期試験	50%	環境の内容、理科ソング 習得度			
	その他	20%	植物標本、工作物、実技			

	自由記載				
【受講の心得】					
・環境の内容を楽しく体験しながら, 子どもの興味・関心, 主体性について考えてもらいたい。					
【授業外学修】					
・身近な動植物を意識的に探し, 子どもがどのような反応をするか, 遊びに使えるかなどを考えること。					
・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみること。					
・季節の変化に注意し言葉で表現すること。					
・地域の伝統・文化を探ぐり体験してみること。					
		書名	著者・編集者	出版社	定価
使用テキスト		新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境	無藤隆 監修	萌文書林	本体2200円 +税
	自由記載				ISBN
					978-4-89347-258-8
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	子どもと造形		サブタイトル		授業番号	CP224
担当教員名	伊藤 智里 他					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 この講義では、幼児の「表現とその発達」について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。						
【到達目標】 (1)幼児の表現の姿や、その発達について理解する。 1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 1-2)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。 2-3)協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、子どもの表現活動を展開させることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「表現」に出会う ※ (担当伊藤)						
第2回：表現活動におけるICTの活用 ※ (担当伊藤)						
第3回：素材との出会い ※ (担当伊藤)						
第4回：加工との出会い ※ (担当伊藤)						
第5回：生活との出会い ※ (担当伊藤)						
第6回：自然との出会い ※ (担当伊藤)						
第7回：道具との出会い ※ (担当伊藤)						
第8回：シンボルとの出会い ※ (担当伊藤)						
第9回：イメージとの出会い ※ (担当伊藤)						
第10回：物語との出会い ※ (担当伊藤)						
第11回：他者との出会い ※ (担当伊藤)						
第12回：見立てとの出会い ※ (担当伊藤)						
第13回：総合的な表現 1 ※ (担当伊藤)						
第14回：総合的な表現 2 ※ (担当伊藤)						
第15回：表現活動の振り返り ※ (担当上岡)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	ポイントの理解を記述内容によって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	スケッチブック等の内容により評価する		
自由記載						
【受講の心得】 「感性や創造性を豊かにする」とはということなのかについて探求してほしい。						
【授業外学修】 1. 復習として、課題を課すことがある。 2. 予習として、資料を配布することがある。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修することが望ましい。						
使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。				
参考書	自由記載	適宜、提示する。				
【その他】						

はさみ, のり, テープ, 色鉛筆, 水彩絵具, 定規, コンパス, カッター, スケッチブックなど, 様々な画材, 素材, 道具を使用する。図工・造形セット等, 詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

科目名	子どもとおやつ			授業番号	CN202	サブタイトル			
教員	加賀田 江里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち、欠かすことのできないものである。そこで、この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の栄養の基礎知識を習得する</li> <li>・幼児期における間食の必要性について理解する</li> <li>・間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得する</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	この授業は全8回の授業である。 履修人数によっては2クラスで隔週開講となる場合がある。								
回	概要					担当			
第1回	幼児期の間食の意義 子どもにとっておやつとはどんな存在かについて理解する。								
第2回	子どものおやつ（1） 子どものおやつを作る上で必要な事項（エネルギー、形態など）を理解する。								
第3回	子どものおやつ（2） 子どものおやつとアレルギー（アレルギーの多いもの、食品表示の見方）について理解する。								
第4回	子どものおやつ（3） 子どものおやつの作り方を理解する。								
第5回	子どものおやつ（4） 子どものおやつの作り方を理解する。								
第6回	子どものおやつ（5） 子どものおやつの作り方を理解する。								
第7回	アレルギー対応のおやつ アレルギーをもつ子どものおやつの作り方を理解する。								
第8回	子どもと一緒に作るおやつ 子どもと一緒に作るおやつについて理解する。								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	70	授業の内容の最終的な理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	幼児の栄養や、調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。 髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。								
授業外学修	1. 授業で出てきたポイントを復習すること 2. 日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち、自ら情報収集を行うこと 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載									
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと楽器 1クラス	授業番号	CN204A	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴、大坪 加奈				
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
					選択
授業概要	幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。				
到達目標	子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身がまず、集中して首に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	領域「表現」と楽器の関係				
第2回	様々な楽器の演奏と指導法				
第3回	子どもが使用する楽器				
第4回	子どもが使用する楽器と楽曲（3，4歳児）				
第5回	子どもが使用する楽器と楽曲（5，6歳児）				
第6回	楽器と合奏				
第7回	合奏法とその留意点				
第8回	日本の楽器（1）				
第9回	日本の楽器（2）				
第10回	日本の楽器と指導法（1）				
第11回	日本の楽器と指導法（2）				
第12回	世界の楽器（1）				
第13回	世界の楽器（2）				
第14回	生活と楽器（1）				
第15回	生活と楽器（2）				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度、発表・グループ課題への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	30	出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を述べているかを評価する。		
	小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験				
	その他				
評価の方法：自由記載					
受講の心得	子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時、出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合う事。 日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにすること。				
授業外学修	1. 予習として、子どもの楽器について調べる。 2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。または、単発の授業ではなく、それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	講義ごとに必要なプリントを配布します。				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					
その他					
備考					
注意事項					

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	ジュニアオーケストラ講師
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと環境指導法	授業番号	CP317	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
授業概要	<p>幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり、発見を楽しんだり考えたり、生活に取り入れる。本授業では、幼児を取り巻く「環境」を整理し、保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能を具体的な活動を通して体験的に学ぶ。また具体例を取り上げ、幼児の発達段階の特徴や興味・関心、遊びの発展や展開を踏まえた環境の構成の仕方と保育者の配慮、その環境で幼児がどのような活動をするかについて考える。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。</li> <li>・「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。</li> <li>・子どもたちに考えさせたり、工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。</li> <li>・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ、どのように指導すればよいかを説明することができる。</li> <li>・「環境」の活動の楽しさを実感し、子どもにどのように接すればよいかを話すことができる。</li> <li>・具体的な指導計画を作ることができる</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考	<p>①領域「環境」の基礎知識の整理 (1)子どもを取り巻く環境 (2)ねらいと内容 (3)園の環境 (4)子どもの発達と環境          ②実際に体験する活動          ③工夫したり、調べる活動          ④考える活動          ⑤指導計画をつくる</p>				
回	概要			担当	
第1回	・保育の基本と環境 ・子どもを取り巻く環境				
第2回	・「環境」のねらい及び内容				
第3回	・園の環境 ・子どもの発達と環境				
第4回	・自然とふれあい感動する ・植物の栽培 (体験する活動) (調べる) (考える)				
第5回	・物事の法則性に気づく (体験する活動) (調べる) (考える)				
第6回	・季節感を味わう (体験する活動) (調べる) (考える)				
第7回	・自然を取り入れて遊ぶ (体験する活動) (調べる) (考える)				
第8回	・生き物との関わり ・生命の営みに触れる ・ダムゴムシ探しと飼育 (体験する活動) (調べる) (考える)				
第9回	・身のまわりの物に愛着をもつ (体験する活動) (調べる) (考える)				
第10回	・科学を体感する ・かいわれ大根の水栽培 (体験する活動) (調べる) (考える)				
第11回	・数量・図形に親しむ (体験する活動) (調べる) (考える)				
第12回	・標識や文字の必要性を育む (体験する活動) (調べる) (考える)				
第13回	・園外の活動 ・身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする (体験する活動) (調べる) (考える)				
第14回	・指導計画をつくる(1) ・指導形態とカリキュラム ・指導計画作成手順				
第15回	・指導計画をつくる(2)				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な姿勢、態度		
	レポート	20	授業ごとのレポート内容、ダムゴムシの飼育、かいわれ大根の水栽培		
	小テスト				
	定期試験	60	「環境」基礎知識 習熟度		
	その他	10	指導計画(指導案)の内容		
評価の方法：自由記載	<p>・授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。          ・基礎概念の理解度についての試験を実施する。</p>				
受講の心得	<p>・授業に前向きに取り組み、考えたり、工夫しようとしている姿勢を重視する。</p>				
授業外学修	<p>・日常的に環境を意識し、子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し、ノートに記録する。          ・身近なものを使い、子どもが喜びそうな工作を考える。</p>				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法	小櫃 智子 編著	わかば社	9784907270339	1760円(本体1600+税)
使用テキスト：自由記載					
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	子ども言葉 1クラス			授業番号	CP218A	サブタイトル			
教員	伊藤 智里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	発達にもなう子どもの「言葉」の世界の広がりについて、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。								
到達目標	<p>保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。</p> <p>人間とつっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。</p> <p>言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>児童文化財について基礎的な知識を身に付け、実践することができる。</p> <p>これらは、ディプロマ・ポリシーに挙げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の習得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育と保育内容領域「言葉」-人間と言葉-								
第2回	乳幼児期の言葉の獲得								
第3回	子どもの発達と言葉								
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び-								
第5回	児童文化財-お話-								
第6回	児童文化財-お話の実際-								
第7回	児童文化財-紙芝居-								
第8回	児童文化財-紙芝居の実際-								
第9回	児童文化財-ペープサート-								
第10回	児童文化財-ペープサートの実際-								
第11回	児童文化財-パネルシアター-								
第12回	児童文化財-パネルシアターの実際-								
第13回	児童文化財-文字あそび かるた-								
第14回	児童文化財-かるたの実際-								
第15回	児童文化財-絵本と子ども-								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な取組（体験、発表など）による評価。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	50	理解について評価する。						
	その他	30	児童文化財の制作物について、保育で使用するものとして適切か評価する。						
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。								
授業外学修	<p>テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。</p> <p>いろいろな児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。</p> <p>このことについて、1時間以上の学修をすること。</p>								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	保育学生のための「幼児と言葉」言葉指導法	馬見塚昭久/小倉直子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400 + 税				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」								
その他									
備考	令和4年度改訂								
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと表現 1クラス			授業番号	CP220A	サブタイトル	
教員	牛島 光太郎、大坪 加奈、織田 典恵						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることが領域「表現」の目指すものである。領域表現に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。なお、本講義はディプロマ・ポリシーの「思考・問題解決能力」<技能>の修得に貢献する。						
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2)表現を生成する過程について理解している。</p> <p>3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通じ、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>4)協働して表現することを通じ、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p>						
授業計画 備考	令和5年度改訂						
回	概要					担当	
第1回	「表現」と出会う（伝える・受け止める を通した表現の生成過程）					大坪加奈	
第2回	「表現」と身体（生活と動きの気づき）					織田典恵	
第3回	「表現」と音楽（自然の音を感じ、楽器で表現）					大坪加奈	
第4回	「表現」と色・形（素材との出会い－素材の特性を活かして－）					牛島光太郎	
第5回	「表現」と身体（言葉と動きの工夫）					織田典恵	
第6回	「表現」と音楽（身近な音を、楽器で表現）					大坪加奈	
第7回	「表現」と色・形（自然との出会い－身近な自然との関わりを活かして－）					牛島光太郎	
第8回	「表現」と身体（音と動きの楽しみ）					織田典恵	
第9回	「表現」と音楽（リズム遊びを展開）					大坪加奈	
第10回	「表現」と色・形（描画材との出会い－描画の関わりを活かして－）					牛島光太郎	
第11回	幼児表現の特徴（みて、感じて、よみとる）					織田典恵	
第12回	「表現」と身体（イメージと動きの味わい）					織田典恵	
第13回	「表現」と音楽（楽器を使ってアンサンブル）					大坪加奈	
第14回	「表現」と色・形（イメージとの出会い－言葉や物語との関わりを活かして－）					牛島光太郎	
第15回	ICTの活用と総括					牛島光太郎	
授業計画 備考2							
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート	60	「幼児の表現を支える」ことについて具体的に述べていること。				
	小テスト	40	各回のポイントの理解を評価する。				
	定期試験						
	その他						
評価の方法：自由記載	授業内での小課題（40%）、最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。						
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。						
授業外学修	<p>1. 復習として課題を課すことがある。</p> <p>2. 予習として資料を配布することがある。</p> <p>以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。</p>						
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領、保育所保育指針、保幼連携型認定こども園教育・保育要領						
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載	適宜提示する。						
その他							

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵)
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の 有無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかけた 教育内容	幼児におけるリトミック等々の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

科目名	保育計画 I 1クラス		授業番号	CQ216A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園、保育所、認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに、理論的な知識をもとに、実践的な保育技術についての具体的な手法を知り、実践発表を通してスキルを身につけられるよう、保育の計画との関係性を明らかにする。								
到達目標	1, 乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。 2, 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。 3, 乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(技能)〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育における計画の意義								
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要								
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ								
第4回	指導計画の全体構造について								
第5回	部分指導案の考え方と作成(1)								
第6回	部分指導案の考え方と作成(2)								
第7回	0歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践								
第8回	1歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践								
第9回	2歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践								
第10回	3歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践								
第11回	4歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践								
第12回	5歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践								
第13回	3歳未満児の生活と指導計画								
第14回	3歳以上児の生活と指導計画								
第15回	小学校との接続について								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	20	乳幼児の発達的特徴や、各年齢に応じた保育計画を理解し、幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。						
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレポーターを増やせるように心がけ、練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。								
授業外学修	1, 次回授業までに、毎回授業終了時に出す課題を行い、練習すること。 2, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784805402283	本体500円＋税				
使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	適宜紹介する。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	保育計画Ⅱ 1クラス		授業番号	CQ317A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また、基本的な理論を理解した上で、各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ、「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮、援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し、提案できるよう解説する。								
到達目標	1, 指導計画の作成について具体的に理解できる。 2, 子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。 3, 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造をとらえ、実践できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法								
第2回	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法								
第3回	長期・短期指導計画の作成について (1)年間指導計画(2)期間指導計画(3)月間指導計画(4)週間指導計画(5)日案の作成について								
第4回	幼稚園の指導計画の作成								
第5回	保育所・認定こども園の指導計画の作成								
第6回	様々な指導計画（個別の支援計画，異年齢編成による指導計画，行事の指導計画等）								
第7回	保育の評価について								
第8回	指導案の作成（グループワーク）								
第9回	模擬保育の観察と記録								
第10回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ1・2）								
第11回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ3・4）								
第12回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ5・6）								
第13回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ7・8）								
第14回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ9・10）								
第15回	模擬保育及び全体を通しての評価と改善								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	20	提出する指導案複数（40％）と模擬保育についてのレポート（40％）の内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	50	保育計画に関する知識・理解について評価する。						
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	グループ内で協力し，積極的に発言や発表を行い，自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備，練習を怠らないこと。								
授業外学修	1, 指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 2, 模擬保育については，グループ内で協力し合い，準備・練習を入念に行うこと。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他，適宜紹介する。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	幼児理解の理論と方法			授業番号	CN212	サブタイトル			
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について、発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。								
到達目標	乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育における「子ども理解」とは 子どもの見ている世界を共に見て、子どもの側からその「意味」を探る、保育者の子どもを理解する「まなざし」の意味や意義を学ぶ。								
第2回	子どもを取り巻く環境の理解 子どもたちの身を置く周囲の環境との関係の中で、子どもの姿や育ちをとらえていく視点について学ぶ。								
第3回	子ども理解における発達の視点 乳幼児期の発達段階に沿った仲間入りやいざこざ、言葉での伝え合いや協同的な活動について学ぶ。								
第4回	保育カウンセリング(キンダーカウンセリング) 2021年、学校教育法施行規則が改定され、幼稚園にスクールカウンセラーが配置できるように。保育現場におけるカウンセラーの役割とは。								
第5回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド 保育者が子どもの気持ちに共感し温かく寄り添うことで、子どもは自分の世界を広げていくことができる。								
第6回	保育における観察と記録の実践 保育の観察や記録においては、正確さや具体性に加え、子どもの気持ちや育ちを読み取ることも必要となる。								
第7回	保育カンファレンス 子どもの姿や自分自身の関りについて自分以外の他者と語り合うことで、新しい視点や手掛かりを得られる。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	保育における個と集団の関係の理解と援助 1人の子どもが「みんな」と関り合っていくなかで、どのように「個」と「集団」が育ちあっていくのか、その育ち合いを支える保育のあり方について学ぶ。								
第10回	1人1人の子どもの特別なニーズの理解と援助 多様なニーズをもつ子どもたちにとって、それぞれの育ちを支えていくために必要とされる保育のありようを探る。								
第11回	発達臨床の現場 子どもの発達を支える現場として、保育所や幼稚園、認定こども園以外にどのような現場があるのかを解説する。								
第12回	発達臨床にかかわる人々 発達臨床の現場ではどのような人々が働いているのか、保育者以外の主な専門職を紹介する。								
第13回	保護者理解と援助の基本 保護者が子育ての喜びを感じられるよう、子育て中の不安や戸惑いに寄り添い支えることも保育者の重要な役割である。								
第14回	「子ども理解」を深めるための保育共同体 子ども理解を深めていくために求められる保育者間の関係構造について探る。								
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	100	理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座(3) 子ども理解と援助	高嶋景子・砂上史子(編著)	ミネルヴァ書房	9784623085316	2200円
使用テキスト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる臨床発達心理学第4版	麻生 武・浜田寿美男(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-06326-0	2800円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	保育者論	授業番号	CP204	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴				
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	講義
					必修・選択
授業概要	保育者は日々の保育実践に関し、主体的且つ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ、保育者の基本的な資質と役割について学び、自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質、保育者になる構えといった学び続ける保育者としての事項を学習する。				
到達目標	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的且つ曖昧である。すなわち、保育者は、この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基礎を培うことを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	保育者になるということとは 事例を基にグループワークを行い、考えを深め理解すること。				
第2回	保育の本質 「保育の本質とは何か、保育者の子ども観・保育観」について理解する。				
第3回	保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満） 「保育所における子どもとの関わり」、「幼保連携型認定こども園における子どもと保育者」について理解する。				
第4回	保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前） 「幼稚園における子どもとの関わり」について理解する。				
第5回	豊かな環境をつくる保育者 「環境と保育」、「子どもの生活を支える環境」、「豊かな環境をつくるために」について理解する。				
第6回	保育の展開と評価 「全体的な計画に基づく保育の展開」、「保育記録と自己評価」、「保育カンファレンス」について理解する。				
第7回	保育の展開と評価 「教育課程の役割と編成」等について理解する。				
第8回	保育者の協働 「求められる保護者支援」「保護者との協働の実際」、「専門職間の連携・協働」について理解する。				
第9回	小学校と連携する保育者 「幼稚園・保育所等から小学校への段差とは」、「子どもの交流活動」について理解する。				
第10回	小学校との連携 「連携の様々な形」、「見守る大人たちのつながり」について理解する。				
第11回	専門職、他の機関との連携 「他の機関・専門職との連携」について理解する。				
第12回	保育者のキャリア形成と生涯発達 「幼稚園における保育者」、「保育所における保育者」、「幼保連携型認定こども園における保育者」、「児童福祉施設における保育者」について理解する。				
第13回	法令で定められた保育者の責務 法令で定められた、免許状・資格・職責等、保育者のあり方に関することについて理解すること。				
第14回	歴史から学ぶ保育者の在り方 「保育者の誕生から平成における保育制度や保育者像等」について理解すること。				
第15回	子育て環境と保育者の役割 「少子化と保育」、「地域の子育て家庭と保育」及び「家庭・地域との連携、支援」について理解すること。				
授業計画 備考2	事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて、学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。				
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	30	授業で提示される課題について、授業内容に関連させ自分の考えを具体的に述べているかを評価し、コメントを記入して返却する。		
	小テスト				
	定期試験	50	本科目の総合的な理解度を評価する。		
	その他				

評価の方法： 自由記載	提出物（レポートを含む）30%，授業への取組20%，試験50%
受講の心得	講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。 保育者としての自分の在り方を探求するために、自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。
授業外学修	・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。 ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり、討議したりする。 ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね、社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べる。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
シードブック改訂『保育者論』	榎田二三子・大沼良子・増田時枝	建帛社	978-4-7679-3295	2000円＋税
使用テキスト：自由記載	シードブック改訂『保育者論』榎田二三子・大沼良子・増田時枝 編著，建帛社			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説，「新しい保育講座 2 保育者論」他適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無				
担当教員の 実務経験				
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無				
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者				
実務経験を いかした教 育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、教育・保育過程の作成と日々の保育を工夫し、自らよよい実践のために学び続ける意欲と資質向上をめざす意思の基礎を培う。	自己課題について他者の意見も受け入れ、協働からの学びを積極的に活かし、自己の人間性と専門性の向上を図っている。	自分の課題を認識し、その課題改善に向けて努力すべきことを的確に実践できる。	授業で得た保育に関する知識と現代における保育の問題に関連づけて考察し、自分の考えが言える。	実習での自分の課題を大学の授業でにつなげ、疑問点について考察ができる。	保育に関する情報や問題に関して基本的な知識を得る努力をし、疑問点について考察できるように努力している。
思考・問題解決能力	1. 保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させる。	保育の場で生じる様々な問題を的確に解決するための計画を立案できる。	保育に関する問題について基本知識をもち、課題解決を図るための情報を取り入れ、自らスキルアップのための意欲がある。	保育について探求心をもち、問題解決に向けて、理解を深めている。	保育について問題解決に向けて、自分なりに理解をしようと取り組んでいる。	保育に対する情報や問題に関して基本的な知識を得たり、疑問点について考察できるよう努力している。
態度	1. 事前学修・意見発表・グループ討議などを取り入れ、意欲的な学修態度を評価する。	保育者としての自分のあり方を探求するために、自分の考えを発表し他者の意見を吸収したり社会における保育の課題や資質について学んだりするなど、意欲的に参加する。	保育者としての自分のあり方を探求するために、自分の考えを発表し他者の意見を吸収するなど、積極的に参加する。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり課題に取り組んだりする。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したりする。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したりすることが消極的である。

科目名	保育内容総論 1クラス		授業番号	CP207A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のねらい及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発達と保育の目標とを関連付けただうえで、保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。</li> <li>2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。</li> <li>3. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。</li> <li>4. 保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決&gt;の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</li> </ol>								
授業計画 備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。								
回	概要				担当				
第1回	保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 「保育の基本」、「保育の目的・目標及び内容」について理解する。								
第2回	保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 「養護に関わる保育の内容」、「教育に関わる保育の内容」を理解する。								
第3回	保育内容の歴史の変遷 「戦前の保育の内容」、「戦後の保育の内容」及び「現行の保育の内容」について理解する。								
第4回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－乳幼児保育、満1歳以上3歳未満児－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」、「発達過程に応じた保育」について理解する。								
第5回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児、異年齢－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」、「発達過程に応じた保育」について理解する。								
第6回	個と集団の発達と保育内容（5領域） 「個の発達と保育内容」、「集団の発達と保育内容」及び「個と集団の発達を踏まえた保育内容」について理解する。								
第7回	保育における観察と記録 「観察の観点と方法」、「記録の観点と方法」について理解する。								
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 「養護と教育」、「3歳未満児における養護と教育が一体的に展開する保育」、「3歳以上児における養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する。								
第9回	環境を通して行う保育の在り方 「子どもにとっての身近な環境環境を通じた保育の大切さ」、「保育の内容としての環境、環境の種類」及び「計画的な環境構成」について理解する。								
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 「子どもにとっての本来の遊びと遊び的活動」、「ねらいが総合的に達成されること」について理解する。								
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 「生活の連続性」、「発達と学びの連続性」及び「体験の多様性・関連性」について理解する。								
第12回	家庭、地域との連携をふまえた保育－長時間保育含む－ 「保護者との連携」、「保育所・幼稚園・認定こども園と地域とその社会資源との連携」及び「長時間保育における職員間の連携」について理解する。								
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 「乳幼児期の保育・教育と児童期以降の教育の違い」、「小学校等との相互理解」について理解する。								
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 「特別な配慮を要する子どもの保育の基本」、「家庭との連携」及び「専門機関との連携」について理解する。								
第15回	多文化共生の保育 「国籍や文化の違い」、「性差や個人差」、「共生の保育」について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	事前学習、テキストの理解、意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。						
	レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	期末試験・レポート（80%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
受講の心得	発表やグループ討議など、主体的に参加すること。そのための予習、復習を欠かさないこと。
授業外学修	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定新版マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	開 仁志 編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円+税
使用テキスト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無				
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの発達と保育内容の目標を関連づけようとして、保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。	保育内容論について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができる。	多様な領域からの見解を深く理解できる。	多様な領域からの見解を一定程度理解できる。	多様な領域からの見解をあまり理解できていない。	多様な領域からの見解を理解できていない。
知識・理解	2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。	現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定の程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定の程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について積極的に取り組めない。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。
思考・問題解決能力	1. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。	保育者の役割と指導など、保育者の専門性を理解する。	適切で明確な問題を設定して積極的に取り組んでいる。	適切で明確な問題を設定して取り組んでいる。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	ある程度、明確で適切な問題を設定しているが、適切な問題であるといえない。
態度	1. 事前学習、テキストの理解、意見交換できる。	予習復習をして授業に臨み、発表やグループ討議など、主体的に参加する。	事前学習、テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	発表やグループ討議など、自分の意見を述べる。	発表やグループ討議などには、参加するが消極的である。

科目名	子どもと言葉指導法		授業番号	CP319	サブタイトル				
教員	伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	模擬保育・事例などを基に、体験したり、協議したりして領域「言葉」の視点から、幼児を理解したり、環境構成、指導上の留意点及び、保育の構想などを理解する。								
到達目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</li> <li>・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</li> <li>・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーにあげた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育内容領域「言葉」と指導法について 幼児教育の基本を踏まえ、保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する								
第2回	子どもの発達と言葉（１） 乳児期の言葉の発達について理解する								
第3回	子どもの発達と言葉（２） 幼児期の言葉の発達について理解する								
第4回	前言語期のコミュニケーションと保育 言葉を話す前の乳児の発達と関わり方について理解する								
第5回	言葉を育てる保育活動を考える 遊びを通して幼児教育実践のための、環境構成、保育者の援助、幼児理解について考えながら日誌・指導案を作成することを理解する								
第6回	児童文化財の活用 1 パネルシアターを活用した保育活動を例とした指導案作成について								
第7回	児童文化財の活用 2 パネルシアターを活用した保育活動の指導案をもとにした模擬保育について								
第8回	児童文化財の活用 3 模擬保育の評価・改善を行い、幼児理解と指導の援助、評価について理解する								
第9回	言葉を育てる児童文化財 様々な児童文化財について知り、領域「言葉」の視点から保育教材としての価値を理解する								
第10回	話し言葉の機能と発達 「話す」ということを理解し、話す力を育てる遊びの視点を持つ								
第11回	書き言葉の発達と保育 文字の読み書きの発達過程を理解し、書き言葉を育てる環境構成を考える								
第12回	配慮を必要とする子どもへの支援について 言語障害の基礎的知識を習得し、必要な支援や配慮について考える								
第13回	多文化共生時代における子どもの支援 外国にルーツのある子どもの現状理解と、その支援について考える								
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」 「遊びを通しての総合的な指導」と領域「言葉」の在り方について理解する								
第15回	保幼小接続と領域「言葉」 領域「言葉」の視点から保育・幼児教育と小学校との円滑な接続について理解する。								
授業計画 備考 2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な取組、発表などによる評価							
レポート	20	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりすること。課題提出後の授業で全体的な傾向や内容の補足等についてコメントする。							
定期試験	70	最終的な理解度を評価する							
評価の方法：自由記載									
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることができるよう主体的に受講する。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習としてテキストを読み、疑問点等を自分なりに整理する。</li> <li>2. 復習として授業の内容をまとめ、課題を作成する。</li> <li>3. 発展学修として、言葉を育てる子どもの遊びについて文献等で調べる。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載	テキストは、演習「子どもと言葉」で使用した『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』（馬見塚明久/小倉直子編著、ミネルヴァ書店、ISBN：798-4-623-09251-2）を使用する。								
	「子どもと言葉」の未受講者は、準備すること。								
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を適宜使用する。								
その他									
備考	令和4年度改訂								
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	無								
担当教員の实務経験									

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかの保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2. 言葉の獲得に関する子どもの発達過程の理解	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程をとり、子どもに対する理解を深め、児童文化財の使用および発達にあわせた環境も含めて保育内容を検討することができる。	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助と児童文化財を用いた保育について考えることができる。	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助について理解することができる。	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助について理解することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	3. 指導計画に関する知識及び理解	言葉に関する指導計画を全体計画から日案まで通して計画する必要性を理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用と工夫、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について十分理解することができる。	言葉に関する指導計画を月案から見通して計画する流れを理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程についておおむね理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し、活動に基づいた日案を計画することや、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画することについて理解、計画作成が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達過程に合わせた活動を考える。	同一の児童文化財を用いた活動において場面や年齢に応じて活動を変化させ、展開した遊びを考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項を十分検討することができる。	同一の児童文化財を用いた活動を年齢に応じた変化を付けて考えることができる。その児童文化財が複数ある。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	複数の児童文化財において年齢に応じた活動を考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	特定の児童文化財において年齢、場面を設定して活動を考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	保育活動において年齢、児童文化財の特性を考える視点が不十分であり、子どもが体験していることへの想定や保育者の配慮すべき事項についての検討ができていない。
思考・問題解決能力	2. 具体的な保育場面を想定した指導計画を作成する。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、その計画の評価・改善について、年齢、事前準備、環境構成などを意識して適切なねらいと配慮の整合性の取れた改善策を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画の評価・改善について、ねらい、内容、年齢、準備、環境構成、時間、配慮などの問題点を意識して改善策を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画の評価・改善について、子どもの発達過程を意図した適切なねらいと配慮を再考して改善点を見つけることができる。	具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画について実践することが難しい点を見つけることができる。	計画した内容を振り返る力が不十分である。
思考・問題解決能力	3. 言葉の獲得に関する思考力	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点で問題点を明らかにし、自分なりの意見や考えを持ち、表現することができる。	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点でとらえ、自分の考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し、自分なりの意見や考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し、授業で提示した一般的な意見や考えを知る。	言葉の獲得に関する諸問題について一般的な情報を知る努力が不十分である。
技能	1. 言葉の獲得を中心とした指導案作成	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身に覚えやすい内容と指導上の留意点の関係を理解し、整合性を取ることができる。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身に覚えやすい内容と指導上の留意点の関係を理解することができる。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。	環境構成、時間、配慮など活動に必要な情報が不足しているが幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、一連の活動の最初から最後まで通した指導案を作成することができる。	指導案の内容が全体的に希薄で実践するために不十分である。
技能	2. 児童文化財指導の実践	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育を十分に想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育をある程度想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。	それぞれの児童文化財の特性を理解し、必要な準備を行って実践することができる。	児童文化財を使用した実践の準備が不十分である。
技能	3. レポート作成技術	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分である。
態度	1. グループ活動の主体的参加	他人の話聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見を言えないが、他人の話聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子どもと表現指導法	授業番号	CP321	サブタイトル	
教員	牛島 光太郎、土師 範子、織田 典恵				
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	幼児教育において育みたい資質・能力や領域「表現」のねらい及び内容について、関連する領域に触れながら講義する。その上で、幼児の発達段階に即して、深い学びが実現するよう、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や環境の設定などについて説明する。				
到達目標	<p>(1)幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解できる。</p> <p>1)幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3)幼児教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。</p> <p>(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。</p> <p>1)幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。</p> <p>5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考	令和6年度改訂				
回	概要			担当	
第1回	領域「表現」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに 「表現」の具体的な内容（2歳児未満）			土師範子	
第2回	幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形、色、手触り） 「表現」の具体的な内容（2歳児未満）			牛島光太郎	
第3回	幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音） 「表現」の具体的な内容（2歳児未満）			土師範子	
第4回	幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き） 「表現」の具体的な内容（2歳児未満）			織田典恵	
第5回	幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形、色、手触り） 指導案の作成（造形表現） 「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児）			牛島光太郎	
第6回	幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音） 「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児）			土師範子	
第7回	幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き） 「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児）			織田典恵	
第8回	具体的な指導場面について 保育構想と造形表現			牛島光太郎	
第9回	具体的な指導場面について 保育構想と音楽表現			土師範子	
第10回	具体的な指導場面について 保育構想と身体表現			織田典恵	
第11回	指導案の構造について 指導案の作成（音楽表現）			織田典恵	
第12回	模擬保育（形、色、手触り） 振り返りとグループ討議			牛島光太郎	
第13回	模擬保育（音楽表現） 振り返りとグループ討議			土師範子	
第14回	模擬保育（身体表現） 振り返りとグループ討議			織田典恵	
第15回	発達段階に応じたICTの活用について 小学校との関連			牛島光太郎	
授業計画 備考2					
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート・課題	50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。		
	その他	20	模擬保育の準備・発表、ディスカッション等への参加状況等により評価する。		
	その他	20	毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。		

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(10年)(織田典恵)
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	幼児におけるリトミック等々の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「表現」に関わる内容(音楽・造形・身体)の指導上の留意点を理解し，指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を十分に理解した上で，具体的な指導場面を想定し指導案を作成し，指導上の留意点を説明することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で，具体的な指導場面を想定し指導案を作成し，保育を構想し，指導上の留意点を理解している	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で，具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性は理解しているが，具体的な指導場面を想定し指導案を作成することが不十分である	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解できておらず，具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができない
思考・問題解決能力	1. 実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて，子ども役等の視点からも振り返り，課題を見つけ，保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて，子ども役等の視点からも振り返り，個別の課題を見つけ，保育内容や環境を十分に改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて，子ども役等の視点からも振り返り，保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて，子ども役等の視点からも振り返り，保育内容や環境を改善する視点を持つことができる	実施した模擬保育に対して，保育内容や環境についての省察が不十分である	実施した模擬保育に対して，課題を発見したり改善する視点を持っていない
技能	1. 適切な環境を整え模擬保育を実践することができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を具体的に想定し，十分な環境設定ができ，幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助や表現活動を促す活動ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し，環境設定ができ，幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し，環境設定ができ，幼児の表現意欲を引き出すための援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定はできるが，幼児の表現意欲を引き出すための援助が不十分である	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定ができず，幼児の表現意欲を引き出すための援助をすることができない

科目名	子どもと音楽	授業番号	CP222	サブタイトル					
教員	川崎 泰子、河田 健二、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼児にとって音を通じた遊びは本来、楽しく有意義なものである。その中で、拍節的な活動は身体的、知的な発達を促進させ、無拍節的な活動は叙情的な活動を助長する。そこで楽器遊び、描写的な音楽作りを実体験しながら、保育の実践者としての表現法と指導法を探っていく。また弾き歌いを習得することで保育・教育現場での活用方法を学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を理解し、発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。</li> <li>・弾き歌いの必要な知識を習得し、現場で実践できる技能を身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	授業説明、発声指導、音楽理論の基礎 授業の説明。楽典の基礎知識を確認する。発声の基礎を習得する。						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第2回	弾き歌い・楽典の復習(1) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第3回	弾き歌い・楽典の復習(2) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第4回	弾き歌い・楽典の復習(3) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第5回	弾き歌い・楽典の復習(4) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第6回	弾き歌い・楽典の復習(5) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第7回	弾き歌い・楽典の復習(6) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第8回	小テスト これまで学習した弾き歌い曲の試験を行う						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第9回	グループに分かれて演習(1) 楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解する						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第10回	グループに分かれて演習(2) 楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解する						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第11回	グループに分かれて演習(3) 楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解する						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第12回	グループに分かれて演習(4) 楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解する						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第13回	グループに分かれて演習(5) 楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解する						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第14回	グループに分かれて演習(6) 楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解する						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
第15回	楽器①、楽器②、合唱に分かれそれぞれの特性を理解し、練習の成果を発表する 終わり次第、それぞれのグループに対して好評を行う						川崎泰子 河田 健二 土師 範子		
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		30	弾き歌いなどの課題への取り組み。						
音楽理論課題解答提出		30	添削後、返却する。						
小テスト(弾き歌い/グループ発表)		40	弾き歌いはそれぞれの課題をクリアしている。グループ発表では協働してそれぞれのグループの目標を達成できている。						

評価の方法： 自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。
受講の心得	保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり1時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	こどものうた100 (小林美実編著, チャイルド本社) 大人のための音楽ワーク・ドリル (ヤマハ出版)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜資料を配布する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校, 中学校, 私立中学, 私立高校講師などの教員歴 (20年)、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】(12年)、数々の学校にて歌唱指導 (20年) 川崎泰子
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし、学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に、専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	2. 歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	3. 楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	4. 楽典の内容を理解している	質問するなど楽典の問題に積極的に取り組んでいる	楽典の問題に時間はかかるが積極的に問題を解こうとする姿勢がみられる	時間はかかるが理解しようとしている	苦手ながらも楽典の問題に取り組もうとしている	理解する姿勢が感じられない
技能	1. 歌唱	歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がある	歌唱する姿勢が感じられない
技能	2. 弾き歌い	教育現場で必要なレパートリーが増え弾き歌いでできている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	3. 器楽演奏	楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	1. グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない
態度	2. 積極的に授業に参加できる	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、次授業までに課題を主体的にしておく	授業目標を意識して積極的に課題をしておく	授業目標を意識してある程度授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができない

科目名	子ども音楽研究	授業番号	CP323	サブタイトル	
教員	土師 範子				
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	演習
					必修・選択
					選択
授業概要	「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに、保育やの現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また、表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</li> <li>・身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識や技術を習得する。</li> <li>・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、具体的展開のための技術を習得する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</li> </ul>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	子どもの成長と身体表現				
第2回	子どもの成長と音楽-遊びをとおして				
第3回	表現活動と身体表現-音・音色・音楽				
第4回	子どもの歌とピアノ・リズム 1				
第5回	子どもの歌とピアノ・リズム 2				
第6回	ピアノによる簡易伴奏の作り方				
第7回	弾き歌いの表現法 1				
第8回	弾き歌いの表現法 2				
第9回	音楽表現 -歌唱 1				
第10回	音楽表現 -歌唱 2				
第11回	音楽表現 -器楽 1				
第12回	音楽表現 -器楽 2				
第13回	音楽表現 -弾き歌い 1				
第14回	音楽表現 -弾き歌い 2				
第15回	表現法のまとめと考察				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，姿勢，発表。		
	レポート	30	課題・レポートの，理解度・定着度。添削後，返却する。		
	小テスト	20	授業内の筆記・実技等の小テスト		
	定期試験	20	理解度，定着度。		

評価の方法： 自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。
受講の心得	毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し、毎日課題を演習することで、子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」、『続こどもの歌200』、「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で、その都度紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかけた教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識を習得できる。	保育の内容を十分に理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得し、発展することができる。	保育の内容を十分に理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を習得している。	保育の内容を理解しようとし、知識を習得しようとしている。	保育の内容は理解しようとし、知識を習得しようとしている。
知識・理解	2. 身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得し、発展することができる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようとしている。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようとしている。
思考・問題解決能力	1. 表現活動に係る教材等の活用及び作成することができる。	子どもの姿や、保育現場での取り組みを想定することができ、表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようとしている。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようとしている。
技能	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得することができる。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得し、発展することができる。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようとしている。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようとしている。
技能	2. 身体表現、音楽表現、の表現活動に関する技術を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得し、発展させることができる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようとしている。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようとしている。
技能	3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成をことができ、具体的展開のための技術を習得できる。	子どもの姿や、保育現場での取り組みを想定することができ、表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる、具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にことができ、具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にことができ、具体的展開のための技術を習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようとしている。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にことができ、具体的展開のための技術を習得しようとしている。
態度	1. 授業の積極的な態度や意欲を、発表への取り組みなどを評価する。	自己課題を明確にし、授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い、課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い、課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。発表やグループ活動を行い、課題に積極的に取り組むことができる。	授業内容が定着するよう努力している。発表やグループ活動に消極的である。	課題の未提出がある。発表やグループ活動へ参加していない。

科目名	教育実習研究 A 1クラス			授業番号	CP329A	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子、岡崎 三鈴						
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習
						必修・選択	選択
授業概要	本科目では、教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にし、教育実習の意義、実習計画と事前準備、心構え、指導案立案、実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また、大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し、現場の実践と結びつけて考察し、実践へつなげる力を身に付ける。						
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実際の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技能を学び、それを生かして実習できるよう準備する。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前訪問（実習園オリエンテーション）について理解し、学生個人票（下書き）を作成する。・実習園への通勤方法の確認（学割の手続き）をする。						
第2回	実習日誌の書き方(1)、実習の目的と意義、目標、実習の心得 教育実習に参加し学ぶ者としての態度と心得について理解する。実習園からの調査票を確認する。						
第3回	教育実習の実際、指導計画（案）の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割、実習生の活動、指導計画（案）作成の手順と内容について確認する。 学生個人票（清書）を作成する。						
第4回	教材研究、指導計画（案）の書き方(2) 絵本を見る活動、自ら選んだ遊び、製作遊び、造形遊び、運動遊び、登園・降園、弁当（給食）等、部分実習（部分指導）の指導案の立て方について確認し、指導案を作成する。						
第5回	教育実習の進め方、実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。						
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画、実習園の概要、園庭・園舎を平面図を記入する。						
第7回	附属園見学前説明、実習に係る提出書類 見学記録の書き方、誓約書清書、提出書類（休園届、遅刻・早退・欠勤届等）、実習における異常気象時の対応、お礼状の書き方を確認する。						
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。						
第9回	幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） 現場における保育の実際を見学し、こども園での子どもたちの様子や保育教諭の生活の一端を知り、教職についての意義を知る。						
第10回	幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） 保育の場における保育教諭と幼児のかかわり方及び1日の生活の流れを中心に見学をし、幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに、具体的な保育教諭の指導を観察し、幼児教育の特徴を捉える。 実習日誌の見学記録を記入する。						
第11回	教育実習の振り返り(1)、お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み、自己評価を行い、改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと、感動したことを整理する。						
第12回	教育実習の振り返り(2)、お礼状の作成 実習終了後、10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。						
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をもとにグループワーク討議に取り組み、分かりやすく説明する力、他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに、様々な園の実態を知り、実習の学びを深める。						
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめ、発表準備を行う。						
第15回	教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業で説明する実習の目的、意義について説明できる。また、実習に向けて健康管理と心構えをする。				
	レポート	70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪問して実際の保育場面を観察・記録し、整理することで、理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動、環境構成、教師の援助の事例について分析・考察し、グループ討議を行い、その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等）を考えて生活する。また、人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。
授業外学修	1. 授業で事前学習する内容（実習の目的、意義、実習の内容）について事前学習ページに記載する。 2. 実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携 幼稚園教育実習	監修・著：森本眞紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体価：2,100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携 幼稚園教育実習	監修・著 森本眞紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 実習の目的、意義について理解している。	実習の目的、意義について、正確に理解し、述べることができる。	実習の目的、意義について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	実習の目的、意義について、概ね述べることができる。	実習の目的、意義について、正確に述べることができないが、自分の言葉で表現できる。	実習の目的、意義について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりとまとめることができる。	事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページを概ねまとめることができる。	事前学習ページを十分にまとめることができない。	事前学習ページをまったくまとめることができない。
知識・理解	3. 実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に、十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができる。	自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について概ねまとめることができる。	自己課題の達成度について十分にまとめることができない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができない。
思考・問題解決能力	3. 担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2. 学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができている。
技能	3. 学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができている。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切に課題を提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、課題を提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上で課題を提出している。	授業に出席し、課題を提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、課題の提出をしていない。

科目名	教育実習 A		授業番号	CP430	サブタイトル					
教員	齊藤 佳子、岡崎 三鈴									
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
授業概要	幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし、幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際に体験し、幼児と心と心を通わせ、幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び、「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身に付ける。また、観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ、実践における教師の役割と環境構成の重要性に気付く感性を養う。									
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はディプロマ・ポリシーの<技能><態度>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実際の場を経験し、責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより、その後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち、その職務への自覚を深め、自己を陶冶する。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	<p>第1週 観察実習</p> <p>(1) 実習園について理解する。 教育の基本方針、学級の人員構成・担当教諭の学級経営、環境（物的：敷地、建物の構造、配置及び施設設備・人的：職員構成、勤務形態等）を把握する。</p> <p>(2) 観察の仕方を学ぶ。</p> <p>第2～3週 参加実習</p> <p>(1) 幼児の発達の概要を知る。 (2) 幼稚園教育の一日の流れを把握する。 (3) 基本的な生活習慣の援助や遊びの指導について学び、担当教諭の補助をする。</p> <p>第3～4週 指導実習（部分実習・責任実習）</p> <p>(1) 3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。 (2) 幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。 (3) 様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。 (4) 指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。 (5) 指導の反省と評価の方法について学ぶ。 (6) 幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導） (7) 保護者とのコミュニケーションの方法について学び、家庭・地域社会との連携について理解する。</p>									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習園からの評価（評価表の内容）を基準にする。4週間の教育実習における次の8項目の評価により成績をつける。意欲、責任感、研究的態度、協調性、指導計画、指導技術、事務処理、総合評価。							
	レポート	30	実習日誌の内容、指導案立案（指導案の作成・実施・評価）の資料を基に評価する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法： 自由記載	教育実習における実習園の評価表，実習日誌，指導案立案，指導実習の準備や成果などを総合的に判断し，実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	現場での実践に積極的に臨み，自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また，今後，社会人として役立つこととして，何を大切にすべきか，互いに協同し合うこととはどのようなことを学ぶ。
授業外学修	1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。 2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入する。 3. 指導案等の実習指導計画を作成し，指導にあたっての教材研究をする。 以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園及び認定こども園等の実習指導者			
実務経験をいかした教育内容	学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように，実際の幼児との生活の中で指導を行う。			

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を大変よく作成できている。	指導計画を作成できている。	指導計画を概ね作成できている。	指導計画をほぼ作成できていない。	指導計画をまったく作成できていない。
技能	2. 指導技術を身につけている。	指導技術を大変よく身につけている。	指導技術を身につけている。	指導技術を概ね身につけている。	指導技術をほとんど身につけていない。	指導技術をまったく身につけていない。
技能	3. 事務処理ができる。	事務処理が大変よくできている。	事務処理ができている。	事務処理が概ねできている。	事務処理がほぼできていない。	事務処理がまったくできていない。
態度	1. 実習において意欲がみられる。	実習においてひととき意欲がみられる。	実習において意欲がみられる。	実習において概ね意欲がみられる。	実習において十分な意欲がみられない。	実習においてまったく意欲がみられない。

科目名	保育実践研究 I a			授業番号	CO431a	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子、山田 恵子、國田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 愛美								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育の本質・目的、子ども理解の在り方、保育の内容・方法、保育の表現技術等、子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。								
到達目標	1, 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2, 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。						山田		
第2回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						山田		
第3回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にも幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる資質について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						山田		
第4回	保育の心理学 特に乳幼児期において、実践の場でみられる子どもの行動が、認知発達とどのように結びついているのかを理解する。						國田		
第5回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では、数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。						國田		
第6回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では、数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。						國田		
第7回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						齊藤		
第8回	子どもの健康と安全 保育者として必要な子どもの発育・発達と保健、疾病と適切な対応等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						齊藤		
第9回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						齊藤		
第10回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。						岡崎		
第11回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。						岡崎		
第12回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。						岡崎		
第13回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。						大田原		
第14回	身体表現(2)リズム表現 リズムに着目した身体表現の指導法について確認し、子どもと行うことができるリズム表現を実践する。						大田原		
第15回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。						大田原		
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。							
レポート	50	課題に対して適切な内容であること。コメントして返却、または授業内でフィードバックを行う。							
小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。							

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年）、公立幼稚園園長（5年）（山田恵子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をかした教育内容	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年）、公立幼稚園園長（5年）（山田恵子）			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて俯瞰した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	2. 保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就くことを想定した内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題についての調査、現状分析が不十分である。
技能	1. 保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	1. 主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究 I β			授業番号	CO431b	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子、山田 恵子、國田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 愛美								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育の本質・目的、子ども理解の在り方、保育の内容・方法、保育の表現技術等、子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。								
到達目標	1, 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2, 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						山田		
第2回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						山田		
第3回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中みる幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる資質について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						山田		
第4回	保育の心理学 特に乳幼児期において、実践の場でみられる子どもの行動が、認知発達とどのように結びついているのかを理解する。						國田		
第5回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では、数的処理をとま論理的思考が獲得されているかを確認する。						國田		
第6回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では、数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。						國田		
第7回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						齊藤		
第8回	子どもの健康と安全 保育者として必要な子どもの発育・発達と保健、疾病と適切な対応等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						齊藤		
第9回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。						齊藤		
第10回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。						岡崎		
第11回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。						岡崎		
第12回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。						岡崎		
第13回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。						大田原		
第14回	身体表現(2)リズム表現 リズムに着目した身体表現の指導法について確認し、子どもが行うことができるリズム表現を実践する。						大田原		
第15回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。						大田原		
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	課題に対して適切な内容であること。コメントして返却、または授業内でフィードバックを行う。						
	小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年）、公立幼稚園園長（5年）（山田恵子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて俯瞰した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	2. 保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就くことを想定した内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題についての調査、現状分析が不十分である。
技能	1. 保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	1. 主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅱ a			授業番号	CO432a	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子、山田 恵子、國田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 愛美						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談、育児相談、園及びクラス運営の在り方、専門機関との連携等について、実践的に研究する。						
到達目標	1, 問題解決のための対応, 判断方法等について学びを深める。 2, 必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。					大田原	
第2回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。					大田原	
第3回	手遊びと保育について 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。					大田原	
第4回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い、保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。					國田	
第5回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するであろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ、連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。					國田	
第6回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となったりやすいことらについてモデルケースを用いて検討し、これまで得てきた知識の活用を意識する。					國田	
第7回	児童文化財を用いた実践 絵本（物語・紙芝居など）の読み合いの中で、言葉の楽しさや美しさを実感し、幼児の発達に即した実践の在り方を再確認する。					山田	
第8回	造形実技について 保育現場で使用する、廃材、粘土などを使った立体造形についての知識を確認し、造形遊びを行う。					山田	
第9回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。					山田、齊藤	
第10回	食育の計画と保育実践 食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。					齊藤	
第11回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第12回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第13回	保育実践(1) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第14回	保育実践(2) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第15回	保育実践(3) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した通年の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
授業計画 備考2							
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。				
	小テスト	30	最終的な理解度を評価する。				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	1. 予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 発表の担当の際には、準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				

注意事項	・幼児のおやつ調理では、材料代として500円程度徴収します。
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年）、公立幼稚園園長（5年）（山田恵子）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	1. 問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。

科目名	保育実践研究Ⅱ β			授業番号	CO432b	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子、山田 恵子、國田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 愛美						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習
							必修・選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談、育児相談、園及びクラス運営の在り方、専門機関との連携等について、実践的に研究する。						
到達目標	1, 問題解決のための対応, 判断方法等について学びを深める。 2, 必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ, 自らの学びを振り返り, 保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し, 発展的に身体表現活動を行う。					大田原	
第2回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し, 模擬保育を行う。					大田原	
第3回	手遊びと保育について 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し, 保育における手遊びについて発展的に実践する。					大田原	
第4回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い, 保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。					國田	
第5回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するであろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ, 連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。					國田	
第6回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となったりやすいことらについてモデルケースを用いて検討し, これまで得てきた知識の活用を意識する。					國田	
第7回	児童文化財を用いた実践 絵本(物語・紙芝居など)の読み合いの中で, 言葉の楽しさや美しさを実感し, 幼児の発達に即した実践の在り方を確認する。					山田	
第8回	造形実技について 保育現場で使用する, 廃材, 粘土などを使った立体造形についての知識を確認し, 造形遊びを行う。					山田	
第9回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ, 保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し, 保育者になる際の自らの課題について検討する。					山田, 齊藤	
第10回	食育の計画と保育実践 食育について, 幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。					齊藤	
第11回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について, クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第12回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について, クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第13回	保育実践(1) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では, 各年齢の発達やこどもの育ちに適した春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第14回	保育実践(2) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では, 各年齢の発達やこどもの育ちに適した秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第15回	保育実践(3) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では, 各年齢の発達やこどもの育ちに適した通年の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
授業計画 備考2							
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却, または授業でのフィードバックを行う。				
	小テスト	30	最終的な理解度を評価する。				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	1. 予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 発表の担当の際には、準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				

備考	
注意事項	・幼児のおやつ調理では、材料代として300円程度徴収します。
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年）、公立幼稚園園長（5年）（山田恵子）
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	1. 問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。

科目名	地域福祉論		授業番号	CQ215	サブタイトル						
教員	佐藤 伸隆										
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	選択	
授業概要	保育を含む今日の社会福祉は「地域福祉の推進」を目的として実施されている。本授業では、地域福祉の今日的意義と理念を理解するとともに、受講する学生諸氏が将来、放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者として活動するために必要な知識、技術を講義する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。</li> <li>地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。</li> <li>子ども家庭福祉の専門職をめざすものとして、地域援助技術（コミュニティワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。</li> </ol> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	今日の地域社会とその課題 ⇒「地域」「地域社会」の意味を理解する。／地域社会の機能を理解する。／地域関係の崩壊と地域社会の機能喪失によって構造的に生じている「地域課題」を理解する。										
第2回	地域福祉の推進(1) ⇒地域福祉の概念と歴史的展開を理解する。／社会福祉法における「地域福祉の推進」の意義と理念を理解する。										
第3回	地域福祉の推進(2) ⇒「地域共生社会」の実現、「地域包括ケアシステム」の構築の意味と住民を主体とした地域福祉推進の関係性を考察する。／今日における地域福祉の機能と役割を理解する。										
第4回	地域福祉に関わる法令 ⇒社会福祉法における地域福祉の詳細を理解する。／保育所保育指針等と地域・地域社会の関係性を理解する。／放課後児童クラブ運営指針と地域・地域社会の関係性を理解する。／障害（児）関係法令と地域・地域社会の関係性を理解する。										
第5回	ボランティア活動と福祉教育 ⇒ボランティア活動の歴史と阪神淡路大震災「ボランティア元年」を理解する。／今日のボランティア活動の特徴を整理する。／福祉教育の意義と現状を理解する。										
第6回	地域課題を探る ⇒子ども家庭に関わる地域（生活）課題を探る。／地域（生活）課題の特徴、傾向を明らかにする。										
第7回	地域福祉の推進機関・団体（社会福祉協議会） ⇒社会福祉協議会の歴史と今日的意義を理解する。／社会福祉協議会の活動原則、機能を理解する。／現在の社会福祉協議会の体制を理解する。／社会福祉協議会の活動と放課後児童クラブ、保育所等の関係性を理解する。										
第8回	地域福祉の推進機関・団体（国・都道府県・市町村と関係団体） ⇒地域福祉に関わる国の機関の機能を理解する。／地域福祉に関わる都道府県、政令指定都市の機関を理解する。／地域福祉に関わる市町村の機関を理解する。／要保護児童対策地域協議会・障害者自立支援協議会の役割を理解する。										
第9回	地域福祉の推進機関・団体（民生委員児童委員・福祉委員） ⇒民生委員児童委員の歴史を遡る。／民生委員児童委員の役割を理解する。／主任児童委員の役割と活動を理解する。／福祉委員の役割と活動を理解する。／民生委員児童委員・福祉委員の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。										
第10回	地域福祉の推進機関・団体（NPO法人・自治会・中間支援団体・民間企業） ⇒特定非営利活動（NPO）法人の機能と活動を理解する。／自治会（町内会）の機能と活動を理解する。／ボランティアセンター・市民活動支援センターの機能と活動を理解する。／民間企業におけるCSRの現状を理解し、可能性を検討する。										
第11回	地域福祉を推進する専門職 ⇒コミュニティワーカーの役割と専門性を理解する。／地域支援コーディネーターの役割と専門性を理解する。／ボランティアコーディネーターの役割と専門性を理解する。										
第12回	地域福祉援助技術（コミュニティワーク） ⇒コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワーク・コミュニティソーシャルワークに至る歴史的展開と、それぞれの意義、機能を理解する。／コミュニティワークの展開方法を理解する。										
第13回	地域福祉演習(1) ⇒第6回で抽出、整理した地域（生活）課題の解決方法を検討する。										
第14回	地域福祉演習(2) ⇒演習事例に基づき、「きび町」の地域課題の解決方法を検討する。										
第15回	地域福祉演習(3) ⇒演習事例に基づき、放課後児童クラブ、保育所等における地域(生活)課題を解決する。／放課後児童クラブの支援員、保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として地域福祉を推進する意味を総括する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、予習・復習の取り組み状況を評価する。								
	課題への取り組みの状況／態度	20	ワーク課題に対する発表態度やその内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。								
	定期試験	60	授業全体の理解度、目標達成度を筆記試験で評価する。								
評価の方法：自由記載	[フィードバック] ○レポート等については、授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は、担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にないため。										
受講の心得	学生の皆さんにとって「地域社会」との関わりは遠く、分りづらいものかも知れない。本科目の受講を機に地域を意識し「地域（社会）とは何か？」また「地域社会にはどのような働きがあるのか？」を探求してほしい。 そして、地域社会が子どもや保護者の生活にどのような影響を与え得るか、放課後児童支援員・保育者等として地域社会にどう関わり、協働していくかを考察してほしい。 なによりも、地域福祉論の現場は「地域（社会）」にある。										
授業外学修	〈予習〉※90分／週 ○授業内容に関わる部分を参考図書、図書館の書誌、インターネット等で調べ、自らの関心事と疑問点を明らかにする。 〈復習〉※120分／週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか、自分の言葉で整理する）。 (2)事前学修（予習）内容と授業の内容を振り返り合わせ、「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」に整理する。 (3)「分らなかったこと」「新たな疑問点」を、参考書籍や図書館の書誌、インターネット等で調べ、自分自身で明らかにする。 ⇒自分自身で調べても不明な場合、真偽を確認したい場合は、次の授業で担当教員に質問すること。 〈発展〉※30分／週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたかったことを書籍、インターネット等で調べ、学びを深めること。										

使用テキスト		書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト ト：自由記載						
参考図書						
書名	著者	出版社	ISBN	備考		
新版 よくわかる地域福祉	上野谷加代子・松端克文・永田祐編	フレーベル館	9784623085927	2640		
地域福祉援助をつかむ	岩間伸之・原田正樹	有斐閣	9784641177147	2310		
保育をひらく「コーディネーター」の視点	まちの保育園・こども園／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター	フレーベル館	9784577815021	1980		
「地域に信頼される保育園になるための調査」～保育園と地域とのかわり状況を把握する～調査報告書	東京都社会福祉協議会保育園部調査研究委員会	東京都社会福祉協議会	9784863532793	770		
参考書：自由記載						
その他						
備考	令和5年度改訂					
注意事項						
担当教員の実務経験の有無	有					
担当教員の実務経験	社会福祉協議会の職員として地域福祉推進に従事（15年）。NPO法人の役員として地域福祉推進に関わる（5年）。団体を主宰して地域（福祉）創生とコミュニティ・ソーシャル・ワークを進めている（13年）。					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容	これまで、さまざまな形で地域福祉推進に関わり続けてきた経験を生かし、受講する学生諸氏が将来、放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として現場に出ることを前提に、具体的、実践的な授業を提供する。					

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	評価の観点				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、根拠立てて説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、自分の言葉で一通り説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念の一部を説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、ほとんど説明することができない。
知識・理解	2. 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を合理的に説明することができる。	地域の社会資源を自分自身で調べ、まとめる方法を自分なりに説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を教員の説明通りに説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を、一部のみ説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法をほとんど説明することができない。
知識・理解	3. 子ども家庭福祉の専門職として、地域援助技術（コミュニティ・ワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、根拠立てて説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和する方法を、自分なりに説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、教員の説明通りに説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題を、一部のみ説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題を、ほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、根拠立てて考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、自分なりに考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、グループで考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、考察することができるときと、できないときがある。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、考察することがほとんどできない。
思考・問題解決能力	2. 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を考察し、合理的にまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を考察し、自分なりにまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法をグループで考察し、まとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を調べ、まとめることができる。できないときがある。	地域の社会資源の活用、創造方法を調べ、まとめることがほとんどできない。
思考・問題解決能力	3. 子ども家庭福祉の専門職として、地域援助技術（コミュニティ・ワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、根拠立てて考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、自分なりに考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、グループで考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、考察することができるときと、できないときがある。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、考察することがほとんどできない。
技能	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を個別にとらえることができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を包括的にとらえることができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題をイメージでとらえることができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点で、地域社会や地域住民、地域（生活）課題をとらえることができるときと、できないときがある。	地域福祉の今日的意義、理念、視点で、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を、とらえることがほとんどできない。
技能	2. 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を自分自身で調べ、合理的にまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を自分自身で調べ、自分なりにまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を自分自身で調べ、グループでまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を調べ、まとめることができる。できないときがある。	地域の社会資源の活用、創造方法を調べ、まとめることがほとんどできない。
技能	3. 子ども家庭福祉の専門職として、地域援助技術（コミュニティ・ワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、根拠立てて解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、自分なりに解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、教員や友人からの助言を得て解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、解決・緩和することができるときと、できないときがある。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を解決・緩和することがほとんどできない。
態度	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約に則った、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、ほとんど説明することができない。

子ども学部 子ども学科  
小学校教諭一種免許状

授業科目名	生活	サブタイトル		授業番号	CO203
担当教員名	池原 繁延				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

生活科の目標・内容・特徴的な指導法などの基本を学習する。その過程で、生活科の本質と教育の基本について、自分自身の言葉で表現しながら、自分なりの教育哲学を構築する。

【到達目標】

(1)生活科の目標・内容・指導法について、簡潔に説明することができる。  
(2)教師の力量のもととなる教育の原点を、自分の頭で考え、自分なりの教育観を持つことができる。  
(3)歌や工作などを、子どもの気持ちで楽しみ、子どもの心が理解ができる。  
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

(1)生活科の目標・内容・指導法・評価に関する基礎的な理解を深める  
(2)教育・人生の基本について、自分なりの考え方を構築していく  
(3)歌、工作を子どもの気持ちで楽しく行い、子ども理解を深める

第1回：(1)生活科の目標 (2)大切なものとは (3)三角鉄砲  
第2回：(1)自立の本質 (2)何のために生きているのか (3)イカ飛行機  
第3回：(1)教科目標の趣旨 (2)愛とは何か (3)小鳥と熊  
第4回：(1)学年の目標設定と趣旨 (2)幸福とは何か (3)くるくるウサギ  
第5回：(1)内容構成の考え方(1) (2)子育ての目標 (3)手裏剣  
第6回：(1)内容構成の考え方(2) (2)親の仕事とは何か (3)折紙・犬  
第7回：(1)具体的な内容 (2)子どもの仕事とは何か (3)へそ飛行機  
第8回：(1)生活科の歴史的な考察 (2)教え方の基礎 (3)吹きごま  
第9回：(1)年間指導計画の作成と学習指導 (2)勉強のできる子の育て方 (3)ツバメ飛行機  
第10回：(1)指導計画の作成と学習指導 (2)叱ること、怒ること (3)バラン笛  
第11回：(1)年間指導計画の作製上の留意点 (2)いい先生、ダメ先生 (3)がいこつ  
第12回：(1)単元計画の作成 (2)パートナーの見つけ方 (3)折紙・鶴  
第13回：(1)評価のあり方 (2)頑張れの意味 (3)手品のカード  
第14回：(1)学習指導の進め方 (2)子どもが幸せを感じる時 (3)楽しい体験  
第15回：(1)生活科の本質 (2)教師力とは

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発表内容、意欲的な授業態度
	レポート	30%	宿題レポートの内容
	小テスト		
	定期試験	50%	基礎・基本の理解度
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

自立の基礎を養う生活科を通して、信頼される教師の力量・人生について深く考えてもらいたい。

【授業外学修】

(1)テキストの授業で学習する項目を予習しておくこと。  
(2)授業で学習した項目についてテキストを詳読し復習しておくこと。  
(3)教育の基礎について出されたテーマについて考えレポートを作成すること。  
(4)自分の人生について考え、将来設計、夢などをまとめてみる。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	『小学校 生活』教科書 東京書籍

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	音楽		サブタイトル		授業番号	CO204
担当教員名	川崎 泰子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに、授業を構成するために必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。						
【到達目標】 小学校音楽科の授業を行うために必要な、基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し、それらを応用する知識を身につけ、各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校における音楽科教育の目標と内容 第2回：教科の目標と学習指導要領 第3回：表現－歌唱、器楽、創作－ 1年生 第4回：表現－歌唱、器楽、創作－ 2年生 第5回：表現－歌唱、器楽、創作－ 3年生 第6回：表現－歌唱、器楽、創作－ 4年生 第7回：表現－歌唱、器楽、創作－ 5年生 第8回：表現－歌唱、器楽、創作－ 6年生 第9回：鑑賞教材－1, 2年生 第10回：鑑賞教材－3, 4年生 第11回：鑑賞教材－5, 6年生 第12回：音楽理論の確認と伴奏法 第13回：「器楽・歌唱・創作」と教材・教具の工夫 第14回：共通教材確認-MLでの活動をとおして- 第15回：コンピュータを使った授業の工夫						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な学習態度、予習及び復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他		20%	課題の理解度から評価する。添削後返却する。		
自由記載						
【受講の心得】 小学校教員への教職意識を持つこと。 授業内で適宜小テストを行うので、前時間の復習をして授業に臨むこと。 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】 授業で提示される次回の内容について、予習すること。 課題を実施すること。 上記を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集		大海由佳他	学研プラス	1, 600	978-4-05-154195-8
	小学校音楽科教育法			教育芸術社		
	自由記載	小学校音楽1～6年（教育芸術社）				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 有						

【担当教員の実務経験】

公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少女少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導。

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

授業科目名	図画工作		サブタイトル		授業番号	CO205
担当教員名	上岡 弘明					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、実際の活動を通して、「造形的な見方・考え方」について身につけることを目的とする。						
【到達目標】						
(1)「造形的な見方・考え方」を理解する。 1-1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深い認識をもつことができる。 1-2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。 1-3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように発想や構想することができる。 2)表現及び鑑賞の活動を通して、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)自分らしく、創造的に表現活動をすることができる。 2-2)「造形的な視点」について理解することができる。 2-3)材料や用具の適切な使用方法について理解することができる。 2-4)表し方などの工夫について理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：表現と鑑賞とは －図画工作科の目的と内容－ 第2回：図画工作科におけるICT活用 第3回：低学年における表現と鑑賞1 －造形あそび－ 第4回：低学年における表現と鑑賞2 －絵にあらわす－ 第5回：低学年における表現と鑑賞3 －立体にあらわす－ 第6回：低学年における表現と鑑賞4 －工作にあらわす－ 第7回：中学年における表現と鑑賞1 －造形あそび－ 第8回：中学年における表現と鑑賞2 －絵にあらわす－ 第9回：中学年における表現と鑑賞3 －立体にあらわす－ 第10回：中学年における表現と鑑賞4 －工作にあらわす－ 第11回：高学年における表現と鑑賞1 －造形あそび－ 第12回：高学年における表現と鑑賞2 －絵にあらわす－ 第13回：高学年における表現と鑑賞3 －立体にあらわす－ 第14回：高学年における表現と鑑賞4 －工作にあらわす－ 第15回：「造形的な見方・考え方」の振り返り						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 ／態度	40%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。			
	定期試験					
	その他	30%	各階の表現活動における作品			

	自由記載	
【受講の心得】 この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。		
【授業外学修】 1. 復習として課題を課すことがある。 2. 予習として事前に資料を配布することがあるので理解しておくこと。 以上の内容をもとに、週当たり4時間以上学修すること。		
使用テキスト	自由記載	適宜, 提示する。
参考書	自由記載	適宜, 提示する。
【その他】 はさみ, のり, テープ, 色鉛筆, 水彩絵具, 定規, コンパス, カッター, スケッチブックなど, 様々な画材, 素材, 道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。		
【担当教員の実務経験の有無】 無		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		

授業科目名	社会		サブタイトル		授業番号	CO209
担当教員名	紙田 路子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。						
【到達目標】 小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校社会科の目標と内容 第2回：小学校社会科の特色と関連専門諸科学 第3回：地理的分野の基本的事項(1) 第4回：地理的分野の基本的事項(2) 第5回：地理的分野の基本的事項(3) 第6回：地理的分野の演習問題 第7回：歴史的分野の基本的事項(1) 第8回：歴史的分野の基本的事項(2) 第9回：歴史的分野の基本的事項(3) 第10回：歴史的分野の演習問題 第11回：公民的分野の基本的事項(1) 第12回：公民的分野の基本的事項(2) 第13回：公民的分野の基本的事項(3) 第14回：公民的分野の演習問題 第15回：社会認識について						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況、予習復習の状況によって評価する。		
	レポート		30%	社会科の目標、内容、方法について自分なりに理解し、具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。レポートにはコメントをつけて返却する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 社会科は社会的事象を教材とする教科である。日常から新聞、ニュース、雑誌、書籍等の情報に留意することが必要である。						
【授業外学修】 1. 予習として、次時の授業内容の教科書を読み、それに関わる情報を新聞、ニュース、雑誌等から集めておく。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。  以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 社会編		文部科学省	東洋館出版社		4491031606
自由記載						
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				
【担当教員の実務経験の有無】 有						

【担当教員の実務経験】

小学校教諭，中学校講師

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

小・中学校における教育現場経験を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。

授業科目名	音楽科教育法	サブタイトル		授業番号	CO318
担当教員名	川崎 泰子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校学習指導要領、小学校における音楽科教育の意義、目標、指導内容について理解を深め、小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成(指導計画の作成)、教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校学習指導要領の目標を理解した上で、教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。

- (1)小学校学習指導要領について説明することができる。
  - (2)第1～6学年の系統性を踏まえ、発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。
  - (3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。
  - (4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。
- なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：小学校における音楽科教育の意義と目標、内容  
 第2回：日本の音楽科教育の歴史／学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理解  
 第3回：授業設計と指導上の留意点  
 学習指導案の書き方・授業の進め方について  
 年間学習指導計画と題材の評価規準  
 第4回：教材研究と指導法/「表現(歌唱)」の活動 伴奏法  
 第5回：教材研究と指導法/「表現(歌唱・器楽)」の活動  
 第6回：教材研究と指導法/「表現(音楽づくりとコンピュータ)」の活動  
 第7回：教材研究と指導法/「鑑賞」の活動  
 第8回：評価規準の意義と設定  
 第9回：学習指導案の作成方法/指導計画の作成と内容の取扱い  
 第10回：学習指導案の作成  
 第11回：模擬授業と討議 1－第1学年，第2学年  
 第12回：模擬授業と討議 2－第3学年，第4学年  
 第13回：模擬授業と討議 3－第5学年  
 第14回：模擬授業と討議 4－第6学年  
 第15回：模擬授業後の研究討議と全体のまとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業に取り組む姿勢，態度，発表。
	レポート	10%	課題・レポート・指導案の，理解度・定着度。添削後，返却する。
	小テスト	50%	暗誦の課題の到達度を評価する。
	定期試験	10%	知識の理解度・定着度。
	その他	20%	模擬授業の内容。
	自由記載		

【受講の心得】

小学校教員への教職意識を持つこと。  
 使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について，予習すること。  
 授業で提示された課題を実施し，復習すること。  
 上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領平成29年公示解説 音楽編		平成29年6月，文部科		

			学省		
	小学校音楽1～6年		教育芸術社		
	自由記載	授業中に適宜資料を配付する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校音楽科教育法		教育芸術社		
	自由記載				
【その他】 ソプラノリコーダーを持参すること。					
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少年少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導。					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。					

授業科目名	図画工作科教育法	サブタイトル		授業番号	CO319
担当教員名	未定				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方を修得することを目的とする。

【到達目標】

- (1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。  
1-1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。  
1-2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。  
1-3)図画工作科における学習評価の考え方を理解している。  
(2)基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。  
2-1)子どもの認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。  
2-2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。  
2-3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  
2-4)模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。  
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：図画工作科の学習指導要領  
－教科の目標と内容，全体構造－  
第2回：図画工作科の授業構造  
第3回：図画工作科における教師の支援  
－指導上の留意点－  
第4回：図画工作科における評価  
－学習評価の考え方－  
第5回：図画工作科における安全指導  
第6回：「造形あそび」の授業の組立と支援  
－教材研究と指導上の留意点－  
第7回：「絵にあらわす」の授業の組立と支援  
－教材研究と指導上の留意点－  
第8回：「立体にあらわす」の授業の組立と支援  
－教材研究と指導上の留意点－  
第9回：「工作にあらわす」の授業の組立と支援  
－教材研究と指導上の留意点－  
第10回：「鑑賞」の授業の組立と支援  
－教材研究と指導上の留意点－  
第11回：図画工作科の学習指導案 1  
－学習指導案の構成の理解－  
第12回：図画工作科の学習指導案 2  
－学習指導案の作成－  
第13回：模擬授業の実施と振り返り 1  
第14回：模擬授業の実施と振り返り 2  
第15回：図画工作科教育法の振り返り

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	60%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
	定期試験		
	その他	20%	模擬授業の準備・発表について評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

「造形的な見方・考え方」が活かした授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。

2. 予習として資料を配布することがある。

以上の内容をもとに、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	文部科学省『学習指導要領解説・図画工作編』
参考書	自由記載	適宜、提示する。

【その他】

はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スケッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	異文化コミュニケーション論		サブタイトル		授業番号	CO227
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 「文化」及び「コミュニケーション」という2つの言葉を、私たちは日常生活においてほとんどその意味を吟味しないまま口にする事が多い。理由は、両者ともに深く考える対象としては、あまりにも私たちの身近にあり過ぎるためであろう。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」など一連の諸概念を詳しく考察すると共に、日本人が多用するコミュニケーション型と諸外国で用いられるコミュニケーション型を比較検討し、これらコミュニケーション型の違いから生じる諸問題とその解決方法について学習する。						
【到達目標】 「『異文化を理解する』とはどういうことか」、また「日本人のコミュニケーション行為の諸特徴とは何か」等の設問に答えることができるようになること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：なぜ異文化コミュニケーション論を学ぶのか？ 第2回：「文化」とは何か(1) 第3回：「文化」とは何か(2)：「文化」vs「文明」 第4回：「文化」とは何か(3)：Melfordo E. Spiroの文化観 第5回：ことばと文化 第6回：コミュニケーションとは何か：知覚・意味・解釈 第7回：日本人のコミュニケーション(1)：コミュニケーションの動因と志向性 第8回：日本人のコミュニケーション(2)：コミュニケーションの基本型8 第9回：文化・情報・コミュニケーション 第10回：トランプ遊びによる「疑似異文化体験」 第11回：文化相対主義の批判的考察(1) 第12回：文化相対主義の批判的考察(2) 第13回：英語コミュニケーション(1)：「英語支配」を考える 第14回：英語コミュニケーション(2)：認識と実践 第15回：全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。		
	レポート		30%	与えられた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 受講生がグループを作り、「意見交換」の機会を持つ（日本語で）。この活動には積極的に参加し、実践的なコミュニケーション能力の習得の場にしてほしい。各回に「～について考えて来てください」と言われたテーマについて考察することで「事前学習」を、そして配布するレジュメを読み返すことで「事後学習」としてほしい。						
【授業外学修】 1 予習として、与えられたテーマについて考え、自分の立場や疑問点を明らかにしておく。 2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	異文化コミュニケーションキーワード		石井敏 他	有斐閣		
自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】 無						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	教職概論	サブタイトル		授業番号	CP209
担当教員名	小川 孝司				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教職概論は、教職の意義と教員の役割、教員の職務内容について、制度的・実際の側面から学ぶ。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を培う。

【到達目標】

教職の意義、教員の役割、職務内容など教職に対する正しい理解を深めるとともに、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を確認することを到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：子どもの生活と学校
- 第2回：学習指導
- 第3回：生徒指導・進路指導
- 第4回：教育相談
- 第5回：学級経営
- 第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか
- 第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること
- 第8回：教員養成の制度
- 第9回：教職課程の仕組みと内容
- 第10回：教員の採用
- 第11回：教員の研修
- 第12回：教員の地位と身分
- 第13回：教員の待遇と勤務条件
- 第14回：学校制度
- 第15回：学校管理・運営体制

評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度			
	レポート		45%	授業毎のレポート課題を評価する
	小テスト			
	定期試験		55%	最終的な理解度を評価する。
	その他			
	自由記載			

【受講の心得】

受講期間中は現在の学校教育の課題と、学校教員の社会的使命について真剣に考えること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教師教育講座 第1巻 教職概論		曾余田浩史	共同出版	2420円	978-4-319-10670-7
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

広島県立広島高等学校・広島大学附属福山中・高等学校

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	小学校教育基礎演習		サブタイトル		授業番号	CP126
担当教員名	姫野 俊幸 満田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。						
【到達目標】 基礎的な小学校教員の職務内容について理解し、自分自身の適性について考える。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校の教師になるとはどのようなことなのか考える ※ (担当姫野)						
第2回：どんな小学校教師になりたいのか考える ※ (担当姫野)						
第3回：教員免許状はどのように授与されるのかを知る ※ (担当姫野)						
第4回：小学校教師になるために大学で学ぶべきことは何なのかを考える ※ (担当姫野)						
第5回：小学校教師と子どもとの関係について考える ※ (担当姫野)						
第6回：小学校教師と法律について考える ※ (担当姫野)						
第7回：小学校教師の仕事について考える ※ (担当姫野)						
第8回：小学校教師とコンピュータについて考える ※ (担当姫野)						
第9回：「生活科」の学習活動を体験する（中国学園大学探検隊） ※ (担当姫野)						
第10回：「特別活動」の学級活動を体験する（学級ゲーム） ※ (担当姫野, 満田)						
第11回：示範授業をみて、模擬授業の計画を立てる ※ (担当姫野)						
第12回：模擬授業に挑戦してみる（1） ※ (担当姫野)						
第13回：模擬授業に挑戦してみる（2） ※ (担当姫野)						
第14回：模擬授業に挑戦してみる（3） ※ (担当姫野)						
第15回：授業のまとめと最終レポートを作成する ※ (担当姫野)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度、予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート		50%	レポートの記述内容と提出状況を評価する。		
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験					
	その他					
【受講の心得】 小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。						
【授業外学修】 1 予習として、事前に配布された資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業内容・配布資料をノートにまとめる。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートにまとめる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導						

力の向上に努める。

---

授業科目名	小学校教育基礎研究		サブタイトル		授業番号	CP227
担当教員名	姫野 俊幸 満田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることで、教師になりたいという気持ちを確認なものにする。						
【到達目標】 基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解し、教師を目指す思いを高める。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校の教師になるために必要なことを考える ※ (担当姫野) 第2回：授業参観に向けての教材研究に挑戦する ※ (担当姫野) 第3回：授業参観（岡山市立吉備小学校） ※ (担当姫野) 第4回：小学校の1日を想像する ※ (担当姫野) 第5回：小学生との交流に向けての交流企画立案と準備をする ※ (担当姫野) 第6回：小学生との交流（岡山市立吉備小学校） ※ (担当姫野) 第7回：自分の教室の掲示物を作ってみる ※ (担当姫野) 第8回：小学校の体育の時間を体験する ※ (担当満田, 姫野) 第9回：教育委員会事務局の方の話を聞く ※ (担当姫野) 第10回：ふじぎサイエンスクラブに入部する ※ (担当姫野) 第11回：「読み聞かせ絵本動画」を作成する(1) ※ (担当姫野) 第12回：「読み聞かせ絵本動画」を作成する(2) ※ (担当姫野) 第13回：学校生活を豊かにする係活動を考える ※ (担当姫野) 第14回：小学校教員としてのやりがいについて、現場教員の話を聞く ※ (担当姫野) 第15回：授業のまとめと最終レポートを作成する ※ (担当姫野)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	意欲的な受講態度、活動や討議への積極的な取り組みの状況によって評価する。		
	レポート		50%	レポートの内容と提出状況を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。						
【授業外学修】 1. 授業ごとに配付したり、紹介したりする参考資料等をよく読み込み、次時の予習とする。 2. 授業内容について興味をもった事柄について、自ら深く調べることで復習とする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

科目名	国語			授業番号	CO201	サブタイトル			
教員	小川 孝司								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員免許の取得に関係して、小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科教育の目標及び内容等について、教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材をもとに具体的に理解し、授業力の基礎を身に付ける。 グループによる話し合い等を通して、各教材の特質を理解するとともに、教材の見方や教材研究の素地を養う。								
到達目標	教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材等を分析することを通して、各教材の特質を理解するとともに、小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科の目標及び内容を具体的に理解できるようにする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	一斉学習と小グループでの活動により授業を行う。								
回	概要					担当			
第1回	本科目を学ぶ目的（言葉の働き）								
第2回	国語科教育と国語教育								
第3回	文学的文章の指導（虚構と仕掛け）								
第4回	文学的文章の指導（装置に反応する読者）								
第5回	「書くこと」の学習過程								
第6回	実用的文章を書く指導								
第7回	生活文を書く指導								
第8回	「話すこと・聞くこと」の指導（話し合うこと）								
第9回	「話すこと・聞くこと」の指導（スピーチ）								
第10回	説明的文章の特質（筆者が伝えたいこと）								
第11回	説明的文章の特質（説得性と潤色の表現）								
第12回	説明的文章の特質（論理的思考力）								
第13回	読書指導の目的と方法								
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の趣旨と学習過程								
第15回	「主体的・対話的で深い学び」に沿った授業改善								
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更したりする場合がある。								
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		20	予習への取り組み、意欲的な学習態度や話し合い活動への参加を評価する。						
レポート		30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。						
小テスト									
定期試験		50	最終的な学習内容の定着度を評価する。						
その他			授業時に作成する課題等によって評価する						
評価の方法：自由記載	レポートは、予習した内容や資料を写すのではなく、その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。								
受講の心得	配布資料及びレポートは、整理してファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では、積極的に参加し互いに考えを深めること。								
授業外学修	1. 予習として、資料や課題に示された教科書の部分を読み、レポートにまとめ提出すること。 2. 使用した教材をきっかけに、関連する教科書教材に関心を広げること。 3. 日常的に読書に親しむこと。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
小学校国語科授業研究 第五版	田近洵一・中村和弘他	教育出版	978-4-316-80465-1	2000円＋税					
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	岡山市公立小学校, 岡山大学教育学部附属小学校
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	小学校学習指導要領の理解, 教材分析

科目名	算数			授業番号	CO202	サブタイトル					
教員	姫野 俊幸										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	選択	
授業概要	小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。										
到達目標	1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について理解する。 2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。 4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	科目を学ぶ意義、算数を学ぶ意味										
第2回	数と計算領域（1）数の概念と表記、自然数										
第3回	数と計算領域（2）数の把握、数の表記										
第4回	数と計算領域（3）たし算、ひき算、かけ算、わり算										
第5回	数と計算領域（4）小数、分数										
第6回	数と計算領域（5）各学年における数の学び										
第7回	図形領域（1）基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係										
第8回	図形領域（2）面積、体積										
第9回	測定領域（1）量と測定										
第10回	測定領域（2）量と測定の指導										
第11回	変化と関係領域（1）異種の量の割合										
第12回	変化と関係領域（2）関数の考え										
第13回	データの活用領域（1）統計と確率										
第14回	文章題、問題解決										
第15回	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシー										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	15		意欲的な学習態度、発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。								
レポート	30		「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。								
小テスト	40		前回の授業の主要な内容の理解を評価する。								
定期試験											
その他	15		ノートのまとめ方を評価する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら、実際に問題を解いたり、考え方を考えたりすること。										
授業外学修	1 配付資料や小テスト等を整理して、本時の講義内容をノートにまとめ復習する。 2 発展学習として、授業で興味を持った内容について調べ深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
小学校学習指導要領解説算数編	文部科学省	文部科学省	9784491015507	242円							
小学校算数教科書1年～6年		啓林館									
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載											
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭, 教頭, 校長, 教育委員会事務局
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	公立小学校, 教育委員会事務局等での実務経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

科目名	理科	授業番号	CO210	サブタイトル					
教員	佐々木 弘記								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに、中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について習得する。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を習得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	光の性質								
第2回	力のつり合い								
第3回	圧力と浮力								
第4回	仕事と仕事率								
第5回	力学的エネルギー								
第6回	電流と電圧								
第7回	電力と電力量								
第8回	ものの溶け方、気体の性質								
第9回	燃焼と酸化・還元、電気分解								
第10回	化学反応と物質質量								
第11回	生物の分類								
第12回	体のしくみ								
第13回	遺伝のしくみ								
第14回	地層の成り立ち								
第15回	地震と災害								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。						
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2 復習として、課題のレポートを書く。</li> <li>3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版		111				
使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

科目名	家庭	授業番号	CO211	サブタイトル	家族や家庭、衣食住、消費や環境など生活事象の理解				
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	家庭科教育で児童に何を指導し、何を学ばせ、どんな資質・能力を育むのかについて、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また、小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身に付ける。								
到達目標	家庭科教育の意義を理解し、家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。								
回	概要				担当				
第1回	小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、小学校家庭科の内容構成								
第2回	「A家族・家庭生活」：自分の成長と家族・家庭生活、生活時間、家庭生活と仕事、地域との関わりについて								
第3回	「B衣食住の生活」：基礎縫いとボタンの付け方								
第4回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作／フェルトを使った小物作り								
第5回	「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも、ゆで卵のゆで時間による変化								
第6回	「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方								
第7回	「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理								
第8回	「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事、1食分の献立作成								
第9回	「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ								
第10回	「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方、環境に配慮した生活、実験・実習（通風・換気実験）								
第11回	「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と環境								
第12回	「B衣食住の生活」：子どもの学びを高めるICTの活用								
第13回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ等）								
第14回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ等）								
第15回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ等）								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		10	意欲的な姿勢・態度						
レポート		20	実験・実習、課題						
小テスト									
定期試験		50	最終的な理解度を評価する。						
その他		20	基礎縫い：5%、フェルトの小物：5%、エコバッグ・手提げバッグ等：10% 作品についてはコメントを記入して返却する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに、常に「自分が授業するなら、どの題材を用いて、どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。								
授業外学修	シラバスで計画的な学修を促すため、授業予定表に、具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと、中学校家庭科の教科書のページを明記しているため、予習として授業前に読んでおくこと、授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施する。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂		9784304080647	274円				
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社		9784491023748	103円				
使用テキスト：自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。								
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
新編 新しい技術・家庭（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍		9784487122820	646円				
平成29年改訂小学校教育課程実践講座 家庭	岡 陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい		9784324103104	1944円				
参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、受講者全員に購入させる必要はないが、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されているからである。								
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	英語	授業番号	CO212	サブタイトル	
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	小学校高学年の現在の外国語活動が、2020年度から、高学年では教科となり、中学年では活動型の外国語活動が導入された。本講義では、小学校教師、小学校等の外部講師や一般英会話学校講師を目指す学生に、「英語に関する背景知識」と「授業実践に必要な英語力」の修得を行う中で、毎回、音声学に関する理解をもとに数分の発音練習を行い継続的に英語の音声に慣れることにより、授業実践に必要な英語運用力の向上を目指す。発音練習では、発音トレーニング、スピーキングトレーニング、クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの会話、授業実践に必要な単語、目標表現、Teacher talkなどを扱うようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「英語に関する基本的な知識」、「児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）」、「異文化理解」、「第二言語習得に関する基本的な知識」などの英語に関する背景知識を理解する。</li> <li>学級担任と外部指導者のTTについての考察</li> <li>外国語活動・外国語の授業実践に必要な「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」から成る、CEFR A2（英検準2級）程度の英語力を身に付ける。</li> </ul> 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	オリエンテーション 自分の英語力を知る。（聞くこと・話すこと・やり取り・発表）・読むこと・書くこと）自分の英語学習経験を振り返る。発音練習				
第2回	音声に関する基本的な知識（1）、歌・チャンツの指導（1）（聞くこと・話すこと）、発音練習				
第3回	音声に関する基本的な知識（2）、歌・チャンツの指導（2）（聞くこと・話すこと）、発音練習				
第4回	発音と綴りに関する基本的な知識（1）、歌・チャンツの指導（3）（聞くこと・話すこと）、発音練習				
第5回	発音と綴りに関する基本的な知識（2）、歌・チャンツの指導（4）（聞くこと・話すこと）、発音練習				
第6回	文構造・文法に関する基本的な知識、活動体験を通じた児童とのやり取り（話すこと・やり取り）（1）、発音練習				
第7回	語彙に関する基本的な知識、活動体験を通じた児童との英語のやり取り（話すこと・やり取り）（2）、発音練習				
第8回	第二言語習得に関する基本的な知識（1）、自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと・発表）（1）、発音練習				
第9回	第二言語習得に関する基本的な知識（2）、自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと・発表）（2）、発音練習				
第10回	児童文学（絵本、詩）に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践（1）（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習				
第11回	異文化理解に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践（2）（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習				
第12回	異文化コミュニケーションに関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践（3）（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習				
第13回	場面や目的に応じたALTやJTLとの会話（話すこと・やり取り）、発音練習				
第14回	正書法に関する基本的な知識 板書・掲示物における英語の表記（書くこと）、発音練習				
第15回	発音練習、まとめ				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。		
	レポート	30	レポートに記述された学びの状況の評価する。		
	小テスト	50	発音・教師の使う英語・絵本の読み聞かせといった技能に関する小テストで評価する。		
	定期試験				
	その他				
評価の方法：自由記載					
受講の心得	予習・復習と授業中の積極的な発言を強く求める。				
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>教科書のうち、次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。</li> <li>1の予習をする中で、疑問に思う点をまとめておくこと。</li> <li>授業後に、2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。</li> <li>英語検定準2級程度の英語力取得に向けて、英語の4技能に関する学習を行うこと</li> </ol> 以上の学修に、週あたり4時間以上の時間をかけること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ小学校外国語科内容論	酒井英樹・滝沢雄一・巨理陽一	三省堂		2,090円
使用テキスト：自由記載					

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと英語	松香洋子	(株) mpi		1, 452円
小学校外国語教育の指導と評価	直山木綿子	文溪堂		2, 200円
小学校英語とストーリーテリング：絵本の読み聞かせに始まる指導案・活動・評価	小野尚美, 田縁真弓	研究社		2, 420円
小学校英語 だれでもできる英語の音と文字の指導	山本玲子, 田縁真弓	三省堂		2, 090円
先生のための授業で1番大切な英語発音(楽しい英語授業をつくるシリーズ)	山崎祐一	Jリサーチ		2, 200円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭 県教育委員会指導主事			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかけた教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語力を育成する。			

科目名	社会科教育法		授業番号	CO314	サブタイトル					
教員	紙田 路子									
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせる。									
到達目標	小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し、授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	小学校社会科の意義と役割									
第2回	小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会）									
第3回	第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象）									
第4回	第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土）									
第5回	第6学年の目標と内容（我が国の歴史、政治、国際理解）									
第6回	問題解決的な学習過程									
第7回	社会科の評価の観点と評価規準									
第8回	小学校社会科学習指導案の作成									
第9回	社会科の多様な学習活動									
第10回	模擬授業									
第11回	模擬授業									
第12回	模擬授業									
第13回	模擬授業									
第14回	模擬授業									
第15回	社会科学習指導法の課題とまとめ									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況等を毎回のミニレポートで評価する。ミニレポートは毎回コメントをつけて返却する							
	レポート	30	社会科教育に関わる理論を理解できているか、それを科学的な根拠に基づき評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。							
	小テスト									
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。							
	その他									
評価の方法：	自由記載									
受講の心得	「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと									
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習として、課題に必ず取り組むこと。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う）</li> <li>2. 復習として、課題のレポートを書く。</li> <li>3. 発展学習として、社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりすることが望ましい。</li> </ol> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>									
使用テキスト										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
	小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社	4491031606						
	小学社会3, 4年上		日本文教出版							
	小学社会5年上		日本文教出版							
	小学社会6年上		日本文教出版							
使用テキスト：自由記載										
参考図書										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載										
その他										

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	小学校教諭, 中学校講師
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	小・中学校における教育現場経験を生かし, 主体的, 対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。

科目名	算数科教育法		授業番号	CO315	サブタイトル				
教員	姫野 俊幸								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。								
到達目標	1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	算数教育の意義、目標、内容、略案の書き方								
第2回	算数指導の心構え、教材研究、模擬授業（1）								
第3回	準備物、時間の使い方、机間指導、効果的な発問、模擬授業（2）								
第4回	板書の仕方、発表、習熟、模擬授業（3）								
第5回	学習指導案の書き方、模擬授業（4）								
第6回	ノート指導、家庭学習、模擬授業（5）								
第7回	指導と評価の一体化、模擬授業（6）								
第8回	授業改革の二大論点について、模擬授業（7）								
第9回	教材・教具の準備と作成、ICTの活用、模擬授業（8）								
第10回	数学的活動、数学的な見方・考え方、模擬授業（9）								
第11回	授業実践力・授業評価力、授業を支える基礎技術、模擬授業（10）								
第12回	授業改革の二大論点についての提案と協議（1）								
第13回	授業改革の二大論点についての提案と協議（2）								
第14回	授業改革の二大論点についての提案と協議（3）								
第15回	授業改革の二大論点についての提案と協議（4）								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。						
	レポート	10	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。						
	小テスト	25	前回の授業の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験								
	その他	50	模擬授業とグループ提案、協議のパフォーマンスを評価する。						
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	小学校の教員として、子どもたちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。								
授業外学修	1 配布資料や小テストを整理して、本時の講義内容をノートにまとめて復習する。 2 教材研究等、模擬授業の準備を積極的に行うこと。また、他学生の模擬授業の単元についても教科書を確認する等の予習を行うこと。 3 「7つの提言」についてグループで読み込み、検討・議論し、提案できるように協力して取り組むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	小学校学習指導要領解説算数編	文部科学省							
	小学校算数教科書1年～6年		啓林館						
使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説 算数編、小学校算数教科書1年～6年は、ともに、「算数」で使用したものである。下巻等、所有していない教科書のみ購入すること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭, 教頭, 校長, 教育委員会事務局
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	公立小学校, 教育委員会事務局等での実務経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

科目名	理科教育法		授業番号	CO316	サブタイトル				
教員	佐々木 弘記								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標を分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。その上で、学習指導案の作成に取りかかり、観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	小学校理科の目標								
第2回	小学校理科の内容								
第3回	育成すべき資質・能力								
第4回	理科の学習理論								
第5回	理科の学習指導法								
第6回	問題解決能力の育成								
第7回	教科書での題材の配列								
第8回	教材研究の仕方								
第9回	学習指導案の作成								
第10回	物質・エネルギーにかかわる教材研究								
第11回	生命・地球にかかわる教材研究								
第12回	模擬授業 1								
第13回	模擬授業 2								
第14回	模擬授業 3								
第15回	模擬授業 4								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、模擬授業、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。						
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2 復習として、課題のレポートを書く。</li> <li>3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版		111				
使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

科目名	生活科教育法			授業番号	CO317	サブタイトル			
教員	池原 繁延								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、生活科の教科書に沿って、単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し、指導案が作成できるようにする。								
到達目標	(1)生活科における「新しい学習指導要領が期待するもの」について実際の授業と結びつけながら習得することができる。 (2)生活科における学習評価の在り方を習得することができる。 (3)上記の内容を踏まえ、活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージ指導案が作成できるようにする。								
授業計画 備考	【授業計画 備考】 (1)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージ指導のポイントを把握する。 (2)各単元と学習指導要領の内容を結びつけながら「新しい学習指導要領が期待するもの」について具体的に習得できるように実際の小学校における授業場面と結びつけながら学習を進める。 (3)評価と指導の一体化について学習し、実際の授業において一人一人の児童の持つ「良さ」を見出すポイントを身に付ける。								
回	概要						担当		
第1回	(1)生活科 学習指導の要点 観察カードの内容に対するコメントの書き方								
第2回	(1)単元「きれいにさいてね」小単元「たねをまこう」授業検討 (2)「生活科の栽培活動」について								
第3回	(1)単元「きれいにさいてね」小単元「はなのようすをつたえよう」授業検討								
第4回	(1)単元「なつがやってきた」小単元「こうていでくさばなやむしをさがそう」授業検討 (2)「評価規準」について								
第5回	(1)単元「なつがやってきた」小単元「みんなのこうえんであそぼう」「みずであそぼう」授業検討								
第6回	(1)単元「なつがやってきた」小単元「たのしかつたことをつたえよう」授業検討 (2)「振り返りの活動、交流活動」について								
第7回	(1)単元「いきものなかよし」小単元「むしをさがそう」授業検討 (2)「動物飼育」について								
第8回	(1)単元「いきものなかよし」小単元「みんなでどうぶつをかおう」授業検討(2)「気づきの質を高めるための板書の構造化」について								
第9回	(1)単元「たのしいあきいっぱい」小単元「こうていであきをさがそう」授業検討 (2)気づきの質を高めるために								
第10回	「たのしいあきいっぱい」小単元「こうえんであきをさがそう」「はっぱやみであそぼう」「いっしょにあそぼう」授業検討 (2)「比較」について								
第11回	(1)単元「じぶんでできるよ」小単元「じぶんのいちにちをみつめよう」「じぶんでできることをしよう」授業検討 (2)「実態把握、家庭との連携、家庭環境への配慮」について								
第12回	(1)「新しい学習指導が期待するもの」について								
第13回	(1)「スタートカリキュラム」について								
第14回	(1)単元「どきどきわくわく1ねんせい」小単元「がっこうのことがしりたいな」「みんなとなかよくなりたいな」授業検討 (2)「スタートカリキュラム」について								
第15回	(1)単元「もうすぐ2ねんせい」小単元「あたらしい1ねんせいを しょうたいしよう」「しょうたいしたことをはなしあおう」「1ねんかんをふりかえろう」授業検討								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合		評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度	60		意欲的な授業態度						
レポート	40		課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
小テスト									
定期試験									
その他									
評価の方法：自由記載									
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業を受けること。								
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載	教材用のプリントを用意する								
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載	東京書籍 新しい生活 上・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	小学校教諭・管理職
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかけた教 育内容	小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容

科目名	家庭科教育法	授業番号	CO321	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	小学校家庭科の授業を通して、「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって、学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等、学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。 授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の実施・評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。				
到達目標	小学校家庭科の授業開発を通して、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには、どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し、効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考	最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については、模擬授業の実施日が決定した時点で、実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。				
回	概要			担当	
第1回	学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて				
第2回	年間指導計画と題材指導計画、学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目				
第3回	既成の家庭科指導案を基に細案を作成				
第4回	細案を基に模擬授業を実施1・2「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5・6年生)				
第5回	細案を基に模擬授業を実施3・4「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)				
第6回	細案を基に模擬授業を実施5・6「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)				
第7回	細案を基に模擬授業を実施7・8「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)				
第8回	指導案の作成(1)「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」領域の内容理解(5・6年生)				
第9回	指導案の作成(2)「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」領域の内容理解(5・6年生)				
第10回	模擬授業の実施・分析・評価1・2「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5年生)				
第11回	模擬授業の実施・分析・評価3・4「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5年生)				
第12回	模擬授業の実施・分析・評価5・6「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(6年生)				
第13回	模擬授業の実施・分析・評価7・8「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(6年生)				
第14回	模擬授業の実施・分析・評価9・10「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)				
第15回	模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な姿勢、態度について評価する。		
	レポート	20	指導案、模擬授業を通して身に付けたことや改善点などの記述について評価する。		
	小テスト	10	指導要領の内容理解について評価する。		
	定期試験	50	最終的な理解度について評価する。		
	その他	10	模擬授業：教師としての授業態度、発問、板書の字、声の大きさ等について評価する。		
評価の方法：	自由記載				
受講の心得	教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し、更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また、授業開始時に配付する授業予定表に、授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので、授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。				
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前に、模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。</li> <li>2 模擬授業についての感想を、授業後に数人発表する。</li> <li>3 模擬授業について、学生に迅速で建設的なフィードバックを行い、次の模擬授業に活かす。</li> <li>4 模擬授業についての感想を毎時間書かせ、授業者に一言コメントとして、良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。</li> </ol> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
	小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円
	使用テキスト：自由記載				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	新訂 新しい技術・家庭 (家庭分野)	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円
参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されている。				
その他	採用試験には、具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には、「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は、全て実践して身に付けておくことが望ましい。				
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	英語科教育法	授業番号	CO322	サブタイトル	
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期
				授業形態	講義
					必修・選択
授業概要	授業実践に必要な知識を修得することに加え、授業観察や指導教員による授業体験を児童の立場で体験することを通して、小学校の外国語活動・外国語の授業について体験的に理解するとともに、教師の立場で模擬授業を行い振り返り授業改善を行う。さらに、小学校での授業観察や授業参加などを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在の小学校外国語教育についての知識・理解」や「子どもの第二言語習得についての知識・理解」に関する小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識を理解する。</li> <li>・「指導技術」と「授業づくり」の基礎を身に付け、計画・授業実施・省察・改善のサイクルを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力の基本を身に付ける。</li> </ul> なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	オリエンテーション 外国語教育導入の経緯・理念・現状				
第2回	学習指導要領(外国語 活動と外国語科) 小・中・高等学校との連携と小学校の役割				
第3回	主教材、ICT教材の活用について、学習到達目標 指導計画 技能統合型の活動				
第4回	授業映像視聴 児童や学校の多様性への対応 子どもの学び方の特徴(言語使用を通じた言語習得、類推から理解へ 音声によるインプットの在り方) 児童の認知発達に即した指導法				
第5回	授業模擬体験 ことばの学び方の特徴(場面に合った意味のあるやり取り、受診から発信 音声から文字へと進むプロセス)				
第6回	授業模擬体験 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方 児童とのやり取りの進め方 文字言語との出会わせ方 読む活動・書く活動への導き方 言葉の面白さや豊かさへの気付き				
第7回	授業映像視聴(小学校・中学校・高等学校) 小・中・高等学校の連携、ALT等とのチームティーチングによる指導の在り方、異文化理解の視点、第二言語習得理論についての知識とその活用				
第8回	評価の観点と評価規準				
第9回	題材選定、教材研究				
第10回	指導計画(年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等)の作成方法 学習指導目標、指導計画作成(1時間の学習指導案作成)				
第11回	授業準備 教材作成				
第12回	模擬授業(1) 振り返り 授業改善(1)				
第13回	模擬授業(2) 振り返り 授業改善(2)				
第14回	小学校での授業参観・授業参加				
第15回	振り返り、まとめ				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	積極的な気づきや改善案への建設的な議論に参加する態度を評価する。		
	レポート	50	授業を通しての気づきや学びの記述を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
評価の方法：自由記載					
受講の心得	教師になる自覚と意欲をもって参加すること。				
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案・指導細案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。</li> <li>・教師が使用する英語技能の習得に努め、実用英語検定準2級の取得をめざすこと。</li> </ul> 以上の学修を、週4時間以上行うこと。				

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語 (はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導 者養成のためにーコアカリキュ ラムに沿ってー)	小川隆夫・東仁美	mpi		2, 420円
Here We Go! 5		光村図書		587円
Here We Go! 6		光村図書		587円
『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』平成 29年7月ー平成29年告示	文部科学省	東洋館出版社		141円
「指導と評価の一体化」のた めの学習評価に関する参考資 料 小学校外国語・外国語 活動	国立教育政策研究所教育課 課程研究センター			880円
使用テキ スト：自由記載	・Let's Try 1 文部科学省 東京書籍 ・Let's Try 2 文部科学省 東京書籍			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語の教育法	アレン玉井	大修館書店		2, 420円
子どもと英語指導ハンドブック	外山節子 (監修)	旺文社		6, 386円
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実 務経験の有無	有			
担当教員の実 務経験	公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭 県教育委員会指導主事			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容	英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし、小学校の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語力を育成する。			

科目名	児童英語演習			授業番号	CO226	サブタイトル	
教員	西田 寛子						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択		選択				
授業概要	授業実践に必要な4技能にわたる、英語や英語を使ったコミュニケーションの知識をもとにして、授業観察・指導教員による授業体験を児童の立場で体験することや模擬授業を通して、振り返り授業改善を行う。そして、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたりフレキシブルな教師となる基本を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使ったコミュニケーションの指導や、ことばへの気付きをもたらす指導を実施できる。</li> <li>就学前児童や小学生に適した4技能の指導をすることができる。</li> <li>英語で授業を行ったり、ALTとの打ち合わせを実施したりできる。</li> <li>英語によるやりとりの仕方を指導できる。</li> <li>パフォーマンス評価を行うことができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教材研究, 指導計画案作成						
第2回	子ども園・公民館・小学校等での指導に向けた準備, 教材作成						
第3回	模擬授業1, 振り返り						
第4回	子ども園・公民館・小学校等での指導 1, 振り返り						
第5回	模擬授業2, 振り返り						
第6回	子ども園・公民館・小学校等での指導2, 振り返り						
第7回	模擬授業3, 振り返り						
第8回	子ども園・公民館・小学校等での指導3, 振り返り						
第9回	模擬授業4, 振り返り						
第10回	子ども園・公民館・小学校等での指導4, 振り返り						
第11回	模擬授業5, 振り返り						
第12回	子ども園・公民館・小学校等での指導5, 振り返り						
第13回	模擬授業6, 振り返り						
第14回	子ども園・公民館・小学校等での指導6, 振り返り						
第15回	まとめ						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	授業計画・授業実践・省察・改善での意欲的な態度を評価する。				
	レポート	30	知識と実践を往還しながら気付いたことの記述内容を評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
評価の方法:	授業計画・実施・省察・改善に積極的に参加できる。 知識と実践から自らを具体的に振り返り、気付きをレポートにまとめることができる。						
受講の心得	園児・児童に対して思いやりをもって接し、学校園での授業参観・授業参加では、教師を目指している学生としての自覚のもと、言動に責任をもつこと。						
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に向けて、授業の流れや教室英語に関する自己研修を30時間以上積むこと。</li> <li>実用英語技能検定準2級程度の英語力獲得に向けて、毎週2時間以上自己研修を積むこと。</li> </ul>						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN		備考	
	Here We Go! 5		光村図書			587円	
	Here We Go! 6		光村図書			587円	
	Let's Try 1	文部科学省				255円	
	Let's Try 2	文部科学省				255円	
	「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法	酒井秀樹, 廣森友人, et al.	大修館書店			2, 640円	
使用テキスト:	『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』平成29年告示, 文部科学省, 東洋館出版 『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動, 国立教育政策研究所教育課程研究センター						

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
The SKY Book 1	金子由美, 千葉成美	mpi		2, 299円
「考えながら話す」小学校英語授業	山田誠志	日本標準		2, 640円
実践！新学習指導要領 基本が分かる外国語活動・外国語科の授業	外国語活動 外国語科実践研究会	東洋館出版社		2, 530円
英語教師のためのTeacher's Talk入門	瀧沢広人	明示図書		2, 090円
ドリル式 フォニックス(発音)練習Book	ジュミック今井	明日香出版社		1, 760円
参考書：自由記載				
その他	なし			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭 県教育委員会指導主事			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる英語運用能力を育成する。			

科目名	体育	授業番号	CO206	サブタイトル					
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について、子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず、各種運動領域のそれぞれについて、領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に、運動自体の理解とともに、学習者の側にとってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。								
到達目標	それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに、自らも示範することができるようになる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 体育における学習内容の改善点について理解する。								
第2回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解と内容 各学年のゴール型（バスケットボール）の行い方を理解するとともに、投げる、受ける、ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときの動き方を考える。								
第3回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、投げる、受ける、ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときのより良い動き方を考える。								
第4回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解と内容 ネット型（バドミントン）の行い方を理解するとともに、用具の正しい操作の仕方や動き方を考える。								
第5回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どのように動いたら取りやすく、どこを狙えば決まるかを考える。								
第6回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解と内容 ネット型（ソフトバレーボール）の行い方を理解するとともに、ボール操作の仕方と位置取りを考える。								
第7回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、ボール操作の仕方や位置取り・ボールを触らない人の動き方を考える。								
第8回	体づくり運動の理解と内容 体づくりの行い方を理解するとともに、それぞれの構成内容とその動き方を考える。								
第9回	体づくりの運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第10回	器械運動：マット運動の理解と内容 マット運動の行い方を理解するとともに、各学年の内容の動き方を考える。								
第11回	器械運動：マット運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら、それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第12回	器械運動：跳び箱運動の理解と内容 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、各学年の内容の動き方を考える。								
第13回	器械運動：跳び箱運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら、それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第14回	陸上運動：短距離走の理解と内容 短距離走の行い方を理解するとともに、各学年の内容と手・足の動かかし方を考える。								
第15回	陸上運動：短距離走の動作の仕方とその実践 実際に走り、手・足の動きを確認しながら、速く走れるかを考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度、発表や予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その場でその場で行う。						
	レポート	30	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
	小テスト	30	全15回の授業を踏まえ、レポートを作成する。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	実技を伴うので、各運動領域に対して積極的に取り組むこと。
授業外学修	・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 ・運動に対する興味関心を高め、運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、ほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、基本的なところは理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できていない。
技能	1. 運動技能の習得に優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身につけていない。

科目名	国語科教育法		授業番号	CO313	サブタイトル						
教員	太田 憲孝										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	選択	
授業概要	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的にを行い、それぞれの教材の特質及び指導内容を理解するとともに、それをもとに学習指導案を作成し、模擬授業をするという一連の経験を通して、授業力の基礎を身に付ける。										
到達目標	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し、理解した教材の特質及び指導内容をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより、教材を分析する力、単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに、模擬授業を通して、学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等の基礎を身に付けることができるようにする。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	授業を支える要素 「授業を支える3要素について知り、授業を構成する教師、教材、子どもの関係を理解する。」										
第2回	基本的な学習過程 「基本的な学習過程について知り、学習過程を構成する導入、展開、終末の役割やつながりを理解する。」										
第3回	学びの深まりと教師の支援 「授業記録を分析し、児童の学びの深まりと教師の支援との関係を理解する。」										
第4回	説明的文章の教材研究(1) 「教科書に掲載されている説明的文章について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第5回	説明的文章の教材研究(2) 「模擬授業を行う段落の文章を分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」										
第6回	説明的文章の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
第7回	「話すこと・聞くこと」の教材研究(1) 「教科書に掲載されているインタビュー教材について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第8回	「話すこと・聞くこと」の教材研究(2) 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」										
第9回	「話すこと・聞くこと」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
第10回	物語の教材研究(1) 「教科書に掲載されている物語について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第11回	物語の教材研究(2) 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」										
第12回	物語の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
第13回	「言葉の特徴」の教材研究(1) 「教科書に掲載されている「漢字の組み立て」について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第14回	「言葉の特徴」の教材研究(2) 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れ等について構想する。」										
第15回	「漢字の組み立て」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別		割合	評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度		30	予習課題の提出、模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。								
レポート		30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを記載して返却し、理解の深まりを確認できるようにする。								
小テスト											
定期試験		40	最終的な学習内容の定着度を評価する								
その他											

評価の方法：自由記載	グループによる教材分析や授業構想、模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが、授業力及び教師力の向上と深く関係する。
受講の心得	グループの学生と協力して、教材分析、授業の構想、授業準備、模擬授業に積極的に取り組むこと。 教材を繰り返し読み込み、教材の特質を理解するように努めること。 模擬授業を1回は行うこと。
授業外学修	1. 事前に配布された資料や指定された教材などをしっかり読み込み、授業に臨むこと。 2. 予習課題は、資料をしっかりと読み込み、丁寧に仕上げ必ず提出すること。 3. 模擬授業のリハーサルや準備に積極的に参加すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	教材研究, 学習指導案の作成, 模擬授業の実施			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教材研究の方法を理解している。	・学習指導要領の指導事項を踏まえ、教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を理解している。	・教材の特性理解が弱く、教材分析の方法理解も乏しい。	・教材の特性理解及び教材分析の方法理解も不十分である。
知識・理解	2.学習指導案の書き方を理解している。	・単元及び本時案の構想、学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等を踏まえた学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を深く理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を理解している。	・学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等の理解が不十分であり、学習指導案の書き方理解に課題がある。	・学習指導案作成に関係する様々な要素の理解が不十分であり、学習指導案を作成する段階に至っていない。
知識・理解	3.授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った効果的な授業の進め方を十分理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫して位置づけた授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿っているが、授業の進め方の理解が浅く、学習活動と教師の支援のつながりに課題がある。	・学習指導案の作成と授業の進め方理解につながりが弱く、学習活動のつながりに課題がある。
思考・問題解決能力	1.発問や補助資料を工夫して学習指導案を作成し、模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、課題意識を持って模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、自分の考えを持って模擬授業に取り組んでいる。	・教材研究をもとに、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、時間配分に留意しながら模擬授業に取り組んでいる。	・時間配分に留意し模擬授業に取り組んでいるが、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。	・学習指導案の作成、模擬授業への取り組みに、自分らしい追究の姿勢が見られない。
思考・問題解決能力	2.学習過程の意味を理解し、模擬授業の展開を工夫している。	・学習活動や教師の支援を適切に工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易い模擬授業を展開している。	・教師の支援に工夫が乏しく、学習者にとって学習の流れが捉えにくい状況で模擬授業を展開している。	・学習指導案への記述を十分理解していないまま模擬授業を展開している。
技能	1.教材の特性を見抜き、学習者の立場に立った学習指導案(単元構想及び本時案)を作成している。	・中心教材を深く分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標を明確にした学習者の立場に立った学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習活動と教師の支援の関係等が不明確なまま学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習過程の意味も理解されないまま、学習指導案を作成している。
技能	2.学習者のめあて解決の流れに沿って、適切に教師の支援を工夫し、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、適切に支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れに対する意識が弱いまま、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを意識することなく、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。
態度	1.教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを意識し、教材分析力及び基礎的授業力の向上を図ろうとする。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを十分意識し、積極的に教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを大切に、教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルをもとに、教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・模擬授業について省察する力が乏しく、基礎的授業力及び教材分析力の向上が達成されにくい。	・模擬授業の工夫、模擬授業について省察する力が乏しく、基礎的授業力の向上が達成されにくい。

科目名	体育科教育法		授業番号	CO320	サブタイトル				
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で、現代の子どもたちが抱えているからだ・心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。また、低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し、指導案の作成並びに模擬授業、授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。								
到達目標	体育科における、「目標-内容-方法」について理解するとともに、子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	学習指導要領の変遷（総則） 学習指導要領（総則）における改善点について理解する。								
第2回	学習指導要領の変遷（体育科の目標） 学習指導要領（体育科の目標）の改善点について理解する。								
第3回	学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領1・2年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第4回	学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3・4年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第5回	学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領5・6年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第6回	学習指導要領3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3～6年生の保健の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第7回	体育科の年間計画及び指導案作成について 体育科の年間計画を理解するとともに、指導案の作成について学ぶ。								
第8回	指導案の作成 体育教員の立場に立って、配慮事項も踏まえた指導案を作成する。								
第9回	模擬授業打ち合わせ グループに分かれて、体育教員の立場に立った授業の進め方を話し合う。								
第10回	模擬授業（1）1・2年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第11回	模擬授業（2）3・4年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第12回	模擬授業（3）5・6年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第13回	模擬授業（4）3～6年生の保健について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第14回	模擬授業の授業評価・修正 それぞれの模擬授業に対して、意見交換をして評価・修正する。								
第15回	授業評価を加味した指導案の作成 修正したことを踏まえて、指導案を作成する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表や予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その時その場で行う。						
	レポート	60	指導案の理解・指導要領の理解。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	20	模擬授業の教師としての授業態度を評価する。 フィードバックは、模擬授業の後にコメントをする。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	小学校体育科において、教師が運動の知識を有していることはもちろん、からだと心の仕組みに対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ、将来の子どもからだを心育てていくという強い意欲をもって受講すること。
授業外学修	・授業で行われる領域について「学習指導要領解説 体育編」を授業前に読んでおくこと。 ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解ができていない。
知識・理解	2. 低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性をほぼ理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を簡単に理解できている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性の理解が十分ではない。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解できていない。
知識・理解	3. 指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている	指導案を作成するための簡単な知識を身につけている	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身につけていない。
思考・問題解決能力	1. 配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して理解することができる。	配慮が必要な子どもに対して情報収集することができる。	配慮が必要な子どもに対しての理解が十分ではない。	配慮が必要な子どもに対して考えることができていない。
態度	1. 教師の立場としての振る舞い。	教師の立場としての振る舞いができている。	教師の立場としての振る舞いがほぼできている。	教師の立場としての基本的な振る舞いができている。	教師の立場としての理解が十分ではない。	教師の立場として考えることができていない。

科目名	道徳教育指導論			授業番号	CO323	サブタイトル	
教員	重松 恵子						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため、小学校は平成30年度、中学校は令和元年度から、特別の教科「道徳(「道徳科」)」が教科化された。この改訂の内容を踏まえ、道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また、学習指導案作成と模擬授業の演習を通して、指導方法の要点や道徳科の授業について講義し、授業実践力を身に付けることを目的とする。						
到達目標	道徳教育の改訂の要点について理解し、道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び、道徳教育指導全般について理解できるようになる。 道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け、授業実践ができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	道徳とは何か 自分と道徳 (1) 道徳教育の歴史 道徳教育の改訂の基本方針・要点 「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点・「考え議論する道徳」について理解する。						
第2回	道徳教育と道徳科の関係・つながり 道徳教育の目標 道徳科の目標 学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであるということ、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。						
第3回	道徳科の内容 内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点 (1) 内容項目「善悪の判断, 自律, 自由と責任」「正直, 誠実」等 (内容項目 1 ~ 1 2) の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。						
第4回	道徳科の内容 内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点 (2) 内容項目「公正, 公平, 社会正義」「勤労, 公共の精神」等 (内容項目 1 3 ~ 2 2) の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。						
第5回	道徳科の授業 示範授業に参加し授業を体験することを通して、道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など、道徳科の学習指導について理解する。						
第6回	指導計画の作成 指導方法の工夫 道徳科の授業のつくりかた (1) 指導計画作成の意義、道徳科に生かす指導方法の多様な工夫の具体例、学習指導案作成の手順について理解する。						
第7回	道徳科の授業のつくりかた (2) 内容項目の分析・児童の実態・教材分析・ねらい・主題名などについて理解し、学習指導案を作成する。						
第8回	道徳科の授業のつくりかた (3) 学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し、学習指導案を作成する。						
第9回	道徳科の評価 道徳性の発達 指導の配慮事項 道徳科における評価の意義や評価の基本的な考え方について理解する。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導の配慮事項について理解する。						
第10回	授業実践 模擬授業 (1) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(指導方法の工夫など)について理解する。						
第11回	授業実践 模擬授業 (2) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(多様な学習指導など)について理解する。						
第12回	授業実践 模擬授業 (3) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(教材・教具の活用など)について理解する。						
第13回	授業実践 模擬授業 (4) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(個に応じた指導・教態など)について理解する。						
第14回	教材に求められる内容の観点 教材づくりの演習を通して、教材の開発と活用の創意工夫について、教材に求められる内容の観点について理解する。						
第15回	よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成 自分と道徳 (2) 全講義内容をKJ法でまとめる活動を通して、道徳教育の意義や道徳教育指導の理解、授業実践力の変容について明らかにする。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加態度によって評価する。				
	レポート	50	各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し、次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	40	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち、授業実践とつないで考え、真剣に受講する。
授業外学修	1 予習として、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「4年小学どとく 生きる力」のうち、次回の授業内容に関わる部分を読み、課題を把握しておくこと。 2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習しておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
4年小学どとく 生きる力		日本文教出版株式会社		
使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月 (文部科学省)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	令和6年度改訂
----	---------

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の実務経験	公立小学校教諭・教頭・校長、公立幼稚園園長 岡山市教育委員会研修指導員（指導事務嘱託）
-----------	---------------------------------------------

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を、講義内容（道徳科授業の指導の在り方、指導方法の工夫、学習指導案作成、模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解ができていない。
知識・理解	2. 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解することができる。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法をほぼ理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の基本的なことを理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の理解が十分ではない。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解できていない。
知識・理解	3. 指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識をほぼ身に付けている。	指導案を作成するための基本的な知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識を身に付けていない。
技能	1. 教材研究や学習指導案の作成ができる。	教材研究や学習指導案の作成が十分できる。	教材研究や学習指導案の作成がほぼできる。	教材研究や学習指導案の作成が基本的に行える。	教材研究や学習指導案の作成が十分ではない。	教材研究や学習指導案の作成ができない。
技能	2. 内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を十分に身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力をほぼ身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して基本的な指導力、授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力が十分身に付いていない。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究 I		授業番号	CO328	サブタイトル				
教員	佐々木 弘記、山田 恵子、溝田 知茂、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合教養養成セミナー-I・IIで身につけた学士力を基盤にして、小学校教員として求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。								
到達目標	教材の研究や学習指導案の作成等を行い、小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身に付けることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	理科教材研究 理科に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					佐々木			
第2回	算数教材研究（1） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第3回	算数教材研究（2） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第4回	算数教材研究（3） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第5回	算数教材研究研究（4） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う					森寺			
第6回	国語教材研究研究（1） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第7回	国語教材研究研究（2） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第8回	国語教材研究研究（3） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第9回	国語教材研究研究（4） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第10回	英語教材研究（1） 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					西田			
第11回	英語教材研究（2） 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					西田			
第12回	英語教材研究（3） 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					西田			
第13回	図画工作教材研究 図画工作に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					牛島			
第14回	体育教材研究 体育に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					溝田			
第15回	プログラミング教育教材研究 プログラミング教育に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					佐々木			
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する						
レポート		30	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
小テスト		50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版		1800
使用テキスト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭(15年)、県教育センター(9年)(佐々木弘記) 公立中学校英語科教諭・指導教諭(28年)、県教育委員会指導主事(4年)、公立中高一貫校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年)(西田寛子) 小中高教員16年(教頭を含む)、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年(森寺勝之)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(15年)での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。(佐々木弘記) 英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、教育現場の実態を踏まえて、その課題を解決するための実践的な指導を行う。(西田寛子) 小中高教員及び校長23年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年の実務経験を生かし、より具体的に即戦力になる指導を行う。(森寺勝之)			

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けていない。
技能	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅱ			授業番号	CO329	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記、齊藤 佳子、山田 恵子、溝田 知茂、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究Ⅱで身につけた学士力を基盤として、小学校教員として求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身につける。								
到達目標	学習指導案の作成や教材研究等を行い、小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身に付けることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	小学校学習指導要領 理科(1) 小学校学習指導要領理科に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					佐々木			
第2回	小学校学習指導要領 理科(2) 小学校学習指導要領理科に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					佐々木			
第3回	小学校学習指導要領 国語(1) 小学校学習指導要領国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					太田			
第4回	小学校学習指導要領 国語(2) 小学校学習指導要領国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					太田			
第5回	小学校学習指導要領 算数(1) 小学校学習指導要領算数に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					森寺			
第6回	小学校学習指導要領 算数(2) 小学校学習指導要領算数に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					森寺			
第7回	小学校学習指導要領 体育(1) 小学校学習指導要領体育に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					溝田			
第8回	小学校学習指導要領 体育(2) 小学校学習指導要領体育に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					溝田			
第9回	小学校学習指導要領 外国語(1) 小学校学習指導要領外国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					西田			
第10回	小学校学習指導要領 外国語(2) 小学校学習指導要領外国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					西田			
第11回	小学校学習指導要領 道徳 小学校学習指導要領道徳に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					西田			
第12回	小学校学習指導要領 家庭(1) 小学校学習指導要領家庭に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					齊藤			
第13回	小学校学習指導要領 家庭(2) 小学校学習指導要領家庭に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					齊藤			
第14回	小学校学習指導要領 図画工作(1) 小学校学習指導要領図画工作に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					牛島			
第15回	小学校学習指導要領 図画工作(2) 小学校学習指導要領図画工作に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					牛島			
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する						
レポート		30	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
小テスト		50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。						
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

## 参考書：自由記載

自由記載	
その他	小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立中学校教諭(15年)、県教育センター(9年)(佐々木弘記) 公立中学校英語科教諭・指導教諭(28年)、県教育委員会指導主事(4年)、公立中高一貫校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年)(西田寛子) 小中高教員16年(教頭を含む)、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年(森寺勝之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等の勤務を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。(佐々木弘記) 英語科教諭・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、教育現場の実態を踏まえて、その課題を解決するための実践的な指導を行う。(西田寛子) 小中高教員及び校長23年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年の実務経験を生かし、より具体的に即戦力になる指導を行う。(森寺勝之)

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範囲かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範囲に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けていない。
技能	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範囲かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範囲に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けていない。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法			授業番号	CP210	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について演習を通して講義する。								
到達目標	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育課程としての特別活動の領域 教育課程における特別活動の内容である学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の位置づけについて理解する。								
第2回	特別活動の目標と内容 学習指導要領に示された3つの資質・能力の柱と特別活動の目標と内容の関連について理解する。								
第3回	特別活動の特質と教育的意義 特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれの特質と教育上の意義について理解する。								
第4回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動で育成する資質・能力の特徴について理解する。								
第5回	学級活動の目標と内容 学習指導要領に示された学級活動の目標や内容の特質を理解し、指導する方法を習得する。								
第6回	学級活動の指導計画と指導過程 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を作成する方法を習得する。								
第7回	学級活動の模擬授業 作成した学習指導案に基づいて教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して実践的指導力を身に付ける。また、自己評価及び相互評価を通して実践を振り返る。								
第8回	児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と内容、家庭・地域等との連携 学習指導要領の児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と内容に示された活動の特質について理解する。								
第9回	特別活動における評価 特別活動において設定した目標に応じた評価方法（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価等）について理解する。								
第10回	総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 総合的な学習の時間の歴史の変遷と教育的意義について理解する。								
第11回	総合的な学習の時間の目標と内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標と内容の特徴について理解する。								
第12回	総合的な学習の時間と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間の関連について理解する。								
第13回	総合的な学習の時間の学習過程 総合的な学習の時間の探究の過程に応じた学習指導法を習得する。								
第14回	総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 各学校の特質に応じた総合的な学習の時間の目標の設定方法について取得すると共に、単元計画や年間指導計画の立て方について理解する。								
第15回	総合的な学習の時間における評価 各学校において設定した総合的な学習の時間の活動の特質に応じた評価の方法を習得する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	10	学習指導案作成の適切さを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し解説する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03469-0	141円＋税
小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	公立中学校理科教諭（15年）、県教育センター（9年）（佐々木弘記）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分に理解していない。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる問題解決力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる問題解決力を広範に身に付けている。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分に付けている。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分に付けていない。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を身に付けていない。

科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法			授業番号	CP211	サブタイトル	
教員	住野 好久						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。						
到達目標	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を、組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	生徒指導の意義と課題 「生徒指導」とはどのような指導のことかを、自らの体験を踏まえて考える。						
第2回	生徒指導の定義 『生徒指導提要』による生徒指導の定義づけを学ぶ。「進路指導」「キャリア教育」との関係性も学ぶ。						
第3回	生徒指導の実践上の視点 生徒指導実践の4つの視点について学ぶ。						
第4回	生徒指導の構造 『生徒指導提要』が提案する生徒指導の「2軸3類4層構造」を理解する。						
第5回	生徒指導の方法(1) 生徒指導の基本的な方法である「子ども理解」の方法について学ぶ。						
第6回	生徒指導の方法(2) 生徒指導の基本的な方法である「集団指導」「個別指導」について学ぶ。						
第7回	生徒指導の基盤 生徒指導の基盤となる「教職員集団の同僚性」「生徒指導マネジメント」「家庭や地域の参画」を学ぶ。						
第8回	生徒指導と教育課程(1) 生徒指導と教科指導との関係について理解する。						
第9回	生徒指導と教育課程(2) 生徒指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係について理解する。						
第10回	生徒指導と教育課程(3) 生徒指導と特別活動との関係について理解する。						
第11回	チーム学校による生徒指導体制 生徒指導に取り組み体制、関係機関との連携・協働等について学ぶ。						
第12回	個別の課題に対する生徒指導(1)いじめ いじめ問題の現状といじめに関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、						
第13回	個別の課題に対する生徒指導(2)暴力行為 暴力問題の現状と暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、						
第14回	個別の課題に対する生徒指導(3)不登校 不登校問題の現状と不登校に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、						
第15回	生徒指導と進路指導を通じた子どもの「生き方指導」 生徒指導は進路指導と結びつき、進路指導は生徒指導と結びつくことで、子どもの生き方影響を及ぼす効果的なものになることを学ぶ。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢／態度							
レポート		50	生徒指導を正しく理解し、生徒指導の内容・方法について適切に論述する。				
確認テスト		50	毎回の授業の最後に、授業内容に関する小テストを行う。				
定期試験							
その他							

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1) 事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。 2) 発表や討論に積極的に取り組むこと。 3) 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生徒指導提要－令和4年12月－	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内容				

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 生徒指導・進路指導の意義を理解する。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を説明できる。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を理解している。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等をだいたい理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的は理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的を理解していない。
知識・理解	2. 生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解する。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけを説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけをだいたい説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解している。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解していない。
知識・理解	3. 他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解する。	他の教職員や関係機関とどのように連携すべきかについて説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解している。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を十分理解していない。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を全く理解していない。
技能	1. 集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を身につける。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を状況に応じて実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の基本技能について実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導のいくつかの技能を実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解している。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解していない。
技能	2. 生徒指導を組織的に進めていく技能を身につける。	組織的な生徒指導に求められる技能を実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解していない。

科目名	教育実習研究 B			授業番号	CP331	サブタイトル			
教員	森寺 勝之、山田 恵子、溝田 知茂、太田 憲孝								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育実習における中心的な内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で、授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として、教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また、教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに、立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。								
到達目標	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育実習の意義と目的 制度的側面						森寺		
第2回	「教師の資質」とは何か						森寺		
第3回	「教職専門性」の基礎とは何か						森寺		
第4回	学習指導案の作成と授業展開の技術I						太田、森寺		
第5回	学習指導案の作成と授業展開の技術II						太田、森寺		
第6回	学習指導案の作成と授業展開の技術III						太田		
第7回	「教職専門性」の総合的な向上I						森寺		
第8回	「教職専門性」の総合的な向上II						森寺		
第9回	「教職専門性」の総合的な向上III						森寺		
第10回	学校現場における喫緊の課題						森寺		
第11回	学校と子どもたちの実態と実習の課題						太田		
第12回	教育実習に向けての抱負・決意						太田		
第13回	実習後の成果と課題（ふりかえり） 実習後の礼状の書き方						溝田		
第14回	小学校教育実習発表会の準備						溝田		
第15回	小学校教育実習発表会						溝田、森寺		
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な態度・模擬授業の準備・実習の準備の状況によって評価する。						
	レポート	40	教材研究、学習指導案づくりの記載内容・到達度、模擬授業等によって評価する。						
	その他	30	教育実習日誌への記入・整理等によって評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること
授業外学修	1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌			

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	4月初日から実習前までの期間に、補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。
備考	R4.1改訂
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	小学校、中学校(数学)、高等学校(数学)教員、教頭、校長、岡山県教育委員会事務局専門的教育職員(森寺勝之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校、教育委員会事務局等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について基本的なことを理解する。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について十分に理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について概ね理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について最低限理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等についてやや理解が不十分。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について全く理解していない。
技能	1. 学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが普通にできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが全くできない。

科目名	教育実習 B		授業番号	CP432	サブタイトル				
教員	森寺 勝之、山田 恵子、溝田 知茂、太田 憲孝								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして、実践的指導力（学習指導力）「生徒指導力」「マネジメント力」を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し、実践を評価・分析することを通して、改善点を見付け、工夫・改善していく。つまりP D C Aサイクルを教育実習の中で繰り返しながら、小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で、第1週には、観察実習、第2.3週には、授業実践実習、第4週には一日経営実習を行う。また、4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し、課題意識を明確にして教育実習に取り組む。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「学習指導力」として、学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方、分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。</li> <li>「生徒指導力」として、授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法、児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。</li> <li>「マネジメント力」として、学級担任になったことを想定して、学級経営の計画を立て、学習活動の組織の仕方を取得する。</li> </ol> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1週 観察実習 ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 (1)指導案と実際の授業との対応。 (2)「教師－児童」の相互作用の実際。 (3)学級経営の具体的な取り組み。 第2～3週 授業実践実習 ・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科等の授業実践を通して実習する。 <各段階で求められると想定する技術> 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。 第4週 一日経営実習 ・一日学級担任として、学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	100	教育実習校での評価（80%），教育実習日誌（20%）						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>予習として、実習校で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>授業を実践する際に、十分な教材研究を行い、指導計画を立てる。</li> <li>授業後には、授業実践を振り返る。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	教員(教頭を含む)16年, 校長7年, 岡山県教育委員会専門的教育職員16年
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	有
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	山田恵子、溝田知茂、太田憲孝
実務経験を いかした教 育内容	学校, 教育委員会事務局等での経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が十分にできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価がおおむねできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が不十分である。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができない。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。
技能	1. 学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが普通に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが全くできない。
態度	1. 小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務等について実践しようとする。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について十分に実践しようとしている態度が見られる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度がおおむねうかがえる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度が最低限。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務についてやや実践しようとする態度が不十分。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について全く実践しようとする態度がない。

科目名	小学校教育研究Ⅲ			授業番号	CO430	サブタイトル			
教員	溝田 知茂、齊藤 佳子、山田 恵子、太田 憲孝、森寺 勝之、荒尾 真一								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究IIで身につけた学力を基盤にして、小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。								
到達目標	新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	小学校における教科指導（算数1） 算数科教育法での総括をして知識を深める。								
第2回	小学校における教科指導（算数2） 算数科教育法での実践に向けての指導法を理解する。								
第3回	小学校における教科指導（国語1） 国語科教育法での総括をして知識を深める。								
第4回	小学校における教科指導（国語2） 国語科教育法での実践に向けての指導法を理解する。								
第5回	小学校における教科指導（社会1） 社会科教育法での総括をして知識を深める。								
第6回	小学校における教科指導（社会2） 社会科教育法での実践に向けての指導法を理解する。								
第7回	小学校における教科指導（理科1） 理科教育法での総括をして知識を深める。								
第8回	小学校における教科指導（理科2） 理科科教育法での実践に向けての指導法を理解する。								
第9回	小学校における教科指導（音楽） 音楽科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
第10回	小学校における教育法規 小学校における教育法規に関する知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
第11回	小学校における教科指導（図画工作） 図画工作科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
第12回	小学校における危機管理 小学校における危機管理に関する知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
第13回	小学校における教科指導（家庭） 家庭科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
第14回	小学校における教科指導（体育） 体育科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
第15回	小学校における現代の教育問題 小学校における現代の教育問題に関する知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その時その場で行う。						
	レポート	30	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
	小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 小テストは、採点をして返却する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自 由記載	
その他	小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実 務経験の有無	無
担当教員の実 務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができる。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができる。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる基本的な知識を身につけることができる。	小学校教員として求められる知識を身につけることが十分ではない。	小学校教員として求められる知識を身につけることができていない。
技能	1. 小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができる。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができる。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる教職に関する基本的な技能を身につけることができる。	小学校教員として求められる教職に関する技能が十分ではない。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができていない。